

ヲシテ之ヲ製造及販賣セシムルコトヲ爲シ得ラルヘトノ意ニ有之候哉
指令 十八年五月二日

伺之趣左ノ通可相心得申

- 一 見解ノ通
- 二 後段見解ノ通
- 三 專賣人自ラ輸入シテ販賣スル場合ヲ指スモノトス
- 四 前二段見解ノ通後段ハ專賣特許ヲ得タル製造方法ノ如キ工術ヲ竊用シタルモノヲ指スモノトス
- 五 見解ノ通
- 六 見解ノ通

●沿革要領

明治四年四月七日布告ヲ以テ專賣略規則ヲ定ム○五年三月第百五號布告ヲ以テ新發明品專賣
免許ノ布告ヲ停止ス○明治十八年四月第七號布告ヲ以テ專賣特許條例ヲ制定シ四年四月七日
布告專賣規則及五年三月第百五號布告ヲ廢止ス

第百三十二 商標條例 明治十七年六月七日
第拾九號布告

商標條例別冊ノ通制定シ明治十七年十月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

商標條例

第一條 商標ハ農商務省ノ商標簿ニ登錄ヲ經タルトキハ其所有主ニ於テ登錄ノ日ヨリ十五

年間之ヲ專用スルノ權ヲ有ス可シ

第二條 商標ヲ專用セント欲スル者ハ願書ニ見本并明細書ヲ添ヘ登錄ヲ願出ツ可シ其明細
書ニハ商標ノ說明用方并其商品ノ名目種類ヲ詳記ス可シ
其登錄ヲ經タル者ハ登錄證ヲ下付ス可シ

第三條 商標ノ登錄ヲ願出ツル者アルトキハ願書ノ日附ヨリ二ヶ月間之ヲ留置其間ニ之ト
抵觸ス可キ願書到達セサレハ之ヲ登錄ス可シ

若シ二人以上同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用センカ爲メ登錄ヲ願出
ツル者アリ抵觸スルトキハ其願書日附ノ後ナル者ヲ却下ス其日附同シキ者ハ共ニ之ヲ却
下ス可シ

第四條 登錄商標ハ農商務卿ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スル爲メ便宜ノ方法ヲ定ム可シ

第五條 左ノ商標ハ登錄ヲ願出ツルコトヲ得ス

- 一 已ニ登錄セル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ニシテ同一種類ノ商品ニ用フル者
- 二 地名人名家號會社名ノミヲ以テスル者又ハ商品普通ノ名稱或ハ内外國ノ旗章ノミヲ
以テスル者
- 三 同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印ヲ以テスル者
- 四 新ニ使用スル商標ニシテ本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標ト同一又ハ相紛ラ
ハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ用フル者

第六條 登録商標主其専用年限中轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキ及廢業シ又ハ休業一ケ年ニ及ヒタルトキハ三ヶ月以内ニ之ヲ届出ツ可シ

第七條 登録商標専用年限中其相續者ニ於テ其業ヲ相續シタルトキハ三ヶ月以内ニ之ヲ届出ツ可シ

第八條 登録商標主其商標ノ専用權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ更ニ其登録ヲ願出ツ可シ但専用年限ハ最初登録ノ日ヨリ通算ス可シ

第九條 登録商標ヲ他ノ種類ノ商品ニ兼用若クハ轉用シ又ハ之ヲ改正セントスルトキハ更ニ其登録ヲ願出ツ可シ

前項ノ場合ニ於テハ第三條ニ依テ處分ス可シ

第十條 登録商標専用満期ノ後之ヲ續用セントスル者ハ満期ニテ月前ニ更ニ其登録ヲ願出ツ可シ

第十一條 登録證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ願出ツ可シ

第十二條 商標ヲ登録セシ後第五條ニ觸レ又ハ登録願書及見本明細書ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキハ其登録無効ニ歸シ登録證ヲ返納セシム可シ

第十三條 登録商標主其業ヲ廢シタルトキハ廢業ノ日ヨリ其専用權ヲ失ス休業三ケ年ニ及ブ者亦同シ

第十四條 商標ノ登録ヲ願出ツル者ハ左ノ手数料ヲ納ム可シ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付ス

一 商標一個ニ付金拾圓但一商標ヲ數種ノ商品ニ兼用若クハ轉用スル者ハ其商品一種コトニ金五圓ヲ加フ

二 商標ノ讓與分與又ハ改正ヲ願出ツル者及満期續用ヲ願出ル者ハ商標一個ニ付金五圓

三 登録證ノ再渡ヲ願出ツル者ハ商標一個ニ付金壹圓

第十五條 登録商標主其専用權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ並要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第十六條 登録商標ヲ偽造シテ使用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス其盗用シタル者ハ一等ヲ減ス

第十七條 登録商標ニ相紛ラハシキ商標ヲ造リテ使用シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十八條 第十六條第十七條ノ違犯ニ係ル商標ヲ附シタル商品ヲ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十六條第十七條第十八條ノ場合ニ於テハ仍ホ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十條 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ得及商標ノ登録ヲ詐稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十一條 第六條第七條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サハル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
 第二十三條 第十六條ヨリ第十八條ニ至ルノ罪ハ登錄商標主ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第二十四條 登錄商標主告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル商標ヲ附シタル商品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則

本條例頒布以前使用スル商標ヲ專用セント欲スル者ハ本條例施行ノ日ヨリ六ヶ月間ニ於テ其登錄ヲ願出ツ可シ其願書ハ本條例施行ノ日ヨリ八ヶ月間之ヲ留置其間ニ之ト牴觸ス可キ願書到達セサレハ之ヲ登錄ス可シ

若シ二人以上同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用センカ爲メ登錄ヲ願出ツル者アリ牴觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラヌ農商務卿ニ於テ其商標ノ使用ヲ最久シキト認定スルモノヲ登錄シテ其他ヲ却下ス可シ

本條例第三條ニ依リ處分ス可キ願書ト雖モ本條例施行ノ日ヨリ八ヶ月間之ヲ留置附則第一項ニ依リ願出ツルモノニ牴觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラヌ之ヲ却下ス可シ
 前二項ノ場合ニ於テ願書ヲ却下スルトキハ其手数料ヲ返付ス

本條例頒布以前使用スル商標ニシテ現ニ其同業者間ニ專用ノ効アルモノハ商業上慣用セル目印ト雖モ其登錄ヲ願出ルコトヲ得
 ○商標登錄願手續ヲ定ム 明治十七年六月七日
 第十八年第四號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス
 第拾三號布達

今般商標條例制定候ニ付商標登錄願手續別冊ノ通相定ム
 右布達候事

(別冊)

商標登錄願手續

- 第一條 商標ニ關スル願書屆書ハ都テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出ス可シ
- 第二條 商標ノ登錄ヲ願出ツルトキハ商標見本五枚及手数料ヲ添へ願書并明細書各二通ヲ差出ス可シ
- 第三條 一箇ノ商標ヲ二種以上ノ商品ニ用ヒンカ爲メ又ハ二箇以上ノ商標ヲ一種ノ商品ニ用ヒンカ爲メ登錄ヲ願出ツルトキハ其商品一種又ハ商標一箇毎ニ各別ノ願書及明細書ヲ差出ス可シ
- 第四條 條例第七條ニ據リ相續ヲ届出ツルトキ其死亡後相續ニ係ル者ハ相續者并身元詳ナル証人二名以上連署シ其生存中ノ相續ニ係ル者ハ登錄商標主相續者連署ス可シ
- 第五條 條例第八條ニ據リ譲與分與ヲ願出ツルトキハ讓主讓受主連署シ讓主ヨリ登錄證并約定書寫及手数料ヲ添へ願書二通并明細書 願與願ニハ二通ヲ差出ス可シ
 其登錄ヲ經タルトキハ分受人ニハ別ニ分受登錄證及明細書ヲ下付シ分與人又ハ讓受人ニハ前登錄證及明細書ニ裏書檢印シテ之ヲ下付ス可シ
- 第六條 條例第九條ニ據リ登錄商標ノ轉用兼用及改正ヲ願出ツルトキハ第二條ニ準據ス可シ
- 第七條 條例第十條第十一條ニ據リ商標ノ續用及登錄證ノ再渡ヲ願出ツルトキハ手数料ヲ添へ願書二通ヲ差出ス可シ
- 第八條 登錄願書ヲ却下スルトキハ其理由ヲ指示ス可シ
- 第九條 登錄商標主ハ其商標ノ彩色ヲ適宜變換スルコトヲ得
- 第十條 登錄商標主ハ農商務省ノ指揮ニ隨ヒ商標又ハ其寫書ヲ登錄證下付ノ日ヨリ三十日以内ニ差出ス可シ
- 第十一條 登錄商標ヲ使用スル商品ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ但願人ニ於テ其種類ヲ判知シ難キモノハ農商務省ニ

於テ之ヲ判定ス可シ

商品ノ種類

- 第一種 化學品及藥劑 酸類 鹽類 「アルカリ」漂白粉 護膜 樹脂 膠 燐 石檢 酒精 「グリセリン」 「キナエ
ン」 「モルヒネ」 丁幾劑 舍利別 煎劑 丸藥 膏藥 藥油 麝香 丁香等
- 第二種 染料及顏料 藍玉 藍靛 紫根 紅、朱 丹 綠青 燒青 洋靛 白粉 胡粉 藤黃等
- 第三種 塗料 漆 假漆 「ペンキ」 澱 靴墨等
- 第四種 香料及燃料 香油 髮膏 香袋 香水 炷香 線香 煉香等
- 第五種 金屬及其半加工品 銻鐵 鍛鐵 鋼鐵 條鐵 鐵葉 鐵板 銅 銅板 銅鐵線 鉛 鉛板 亞鉛 亞鉛板 錫
合金等
- 第六種 金屬ノ製品 鑄物 打物 彫鑿品及編物等
- 第七種 利器及尖刃器 鎌 鋸 鋸 鋸 鋸 針 釘 剪刀 小刀 剃刀 庖丁 銚嘴等
- 第八種 貴金屬及其製品(アルミニウム金 ニッケル銀ノ製品モ此中ニ屬ス) 黃金 銀 四分一 紫銅其他貴金屬ノ
合金鑄品及彫鑿品等
- 第九種 珠玉及其彫鑿品 珊瑚珠 眞珠 瑪瑙 水晶 黃玉 碧玉等及其模造品
- 第十種 鑛物類(但石炭ハ第五十一種ニ屬ス)
- 第十一種 石材及其製品并彫鑿品 石板石 大理石 砥石 石器等及其模造品
- 第十二種 漆 漆類 「セメント」 石膏等
- 第十三種 陶磁器類 諸種ノ陶磁器 土器 埴埴 瓦 煉化石等
- 第十四種 七寶燒
- 第十五種 玻璃及其製品 玻璃壺 玻璃管 彩色玻璃等

- 第十六種 機械類 紡績機 裁縫機 製糖機 印刷機械其他諸製造機械 蒸氣ノ機關及爐等
- 第十七種 農工器具 鋤 鋤 唐箕 熊手 釘拔 鐵錘 繩墨等
- 第十八種 學術上ノ器械類 理化學 醫術及測量等ノ器械
- 第十九種 度量權衡
- 第二十種 運送用ノ車類 荷車 馬車 人力車 自轉車等
- 第二十一種 樂器 琴 三味線 胡弓 笛等
- 第二十二種 時計及其附屬品
- 第二十三種 鏡砲 彈丸 火藥 烟火類
- 第二十四種 蠶種紙 繭
- 第二十五種 眞綿及木棉綿
- 第二十六種 生絲 絹絲及天蠶絲(桑絲 金絲 銀絲等モ此内ニ屬ス)
- 第二十七種 綿絲
- 第二十八種 毛絲
- 第二十九種 麻絲
- 第三十種 絹織物
- 第三十一種 木綿織物
- 第三十二種 毛織物
- 第三十三種 麻織物
- 第三十四種 絹綿麻毛外ノ織物及各種ノ交織物
- 第三十五種 絲類ノ編物及組物 (レース) 打紐 絹等
- 第三十六種 被服 諸種ノ衣服 織物製帽子 手套 足袋 織物製雨衣 袴 目利安等

第十四類 勸業

- 第三十七種 醸造物及飲料 諸種ノ酒 酢 醬油 蜜柑水 曹達水等
- 第三十八種 砂糖 諸種ノ砂糖 糖蜜 蜂蜜等
- 第三十九種 菓子及麵包類 干菓子 蒸菓子 掛ア物 西洋菓子 餡 砂糖漬等
- 第四十種 茶及咖啡類
- 第四十一種 煙草類
- 第四十二種 穀菜種子及藥物類 五穀 蔬菜 草 菓實 種子 根球等
- 第四十三種 挽粉澱粉及其製品 諸種ノ挽粉 澱粉 麩類 湯波 蒟蒻 凍豆腐 凍蒟蒻等
- 第四十四種 味噌 醬物及漬物類
- 第四十五種 肉類海草ノ貯藏食品 醃節 鰯 乾鮑 海苔 昆布 佃煮 漬詰 雲丹諸種ノ罐製品等
- 第四十六種 牛乳製品 コンデンスミルク 凝乳 乳油 乳餅 乳粉等
- 第四十七種 煙具及袋物 諸種ノ煙管 煙袋 煙管筒 懷中物等
- 第四十八種 紙及其製品 諸種ノ紙 色紙 短冊 擬草紙 油紙 澱紙 書簡筒 帳文匣 一閑張 元結等
- 第四十九種 筆墨類 筆 墨 朱墨 印肉 墨汁 石筆 鉛筆 洋筆等
- 第五十種 皮革及其製品 馬具 カバン 草包 文匣 草帶 靴等
- 第五十一種 燃料 諸種ノ炭 附木 摺附木 燈心等
- 第五十二種 油蠟類 諸種ノ油 蠟 蠟燭 脂肪等
- 第五十三種 肥料 干飼 蚌粕 油粕 骨粉等
- 第五十四種 木竹材
- 第五十五種 木竹藤製品及其漆塗蒔繪品類 指物 挽物 曲物 榻類 編物 組物等
- 第五十六種 角甲牙類ノ製品

- 第五十七種 蓑及草ノ製品 疊表 蓆 編笠 繩 麥藁細工等
- 第五十八種 傘杖及履物 諸種ノ傘 杖 下駄 草履 草蓆等
- 第五十九種 扇子及團扇
- 第六十種 提燈及「ランプ」類
- 第六十一種 齒磨及洗粉
- 第六十二種 刷子類
- 第六十三種 玩具類 花符 鞠 碁 將棋 人形 獨樂 楊弓 押繪 造花 骨牌等
- 第六十四種 錦繪及寫真類
- 第六十五種 書籍新聞紙雜誌類

●同指令

●商標登録願ノ儀ニ付京都府ヨリ農商務省ヘ伺十七年六月三十日

商標條例第貳條ニ依リ商標登録願出タル際同一又ハ相紛シキ商標ヲ同一種類ニ專用センコトヲ願出ルモノアリ抵觸スルハ其願書日附ノ同シキ者ハ條例第三條ニ依リ共ニ之ヲ却下セラルヘキ成規ニシテ之ヲ再ヒ願出ルコトヲ得ヤ否ニ至テハ他ニ明文無之聊カ疑儀相生候右ハ一旦却下セラレタル商標ハ再度登録願出ルコトヲ得サル儀ニ候哉

指令 十七年七月九日

伺之趣同日附ナルヲ以テ共ニ却下サレタル商標ト雖モ双方熟議ノ上其中覺人ヨリ再願スルヲ得ヘキ儀ト可相心得申

●商標ノ儀ニ付島根縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年七月十二日

今般商標條例并商標登録願手續制定相成候處該條例并手續中疑義ニ涉ル件左ニ相伺候也
第一條該條例第五條第二項ニヨルニ地名人名家號會社名ノミヲ以テスル者又ハ商品普通ノ名稱或ハ内外國ノ旗章

ノミヲ以テスル者ハ登録ヲ願出ル能ハサル儀候處内外國ノ旗章ニ商品普通ノ名稱ヲ加ヘ又ハ地名人名家號會社
名ニ商品名稱ヲ加フル如キハ登録ヲ願出ル事ヲ得ヘキ筋ニ可有之哉

第二條右同項中商品普通ノ名稱トハ產出地製造者ノ異ナルニ關ハラズ同種ノモノニハ普ク通用スル名稱ヲ指ス儀
ニシテ例ヘハ河内木綿雲州人參ト云フカ如キ一地方ノ物産ニ固有スル名稱ハ此限外ニ候哉又家傳ノ秘法若クハ
自家ノ發明ニヨリ製造スル商品ニシテ特ニ固有ノ名稱ヲ付シ同種類ノモノト雖モ他家ノ製品ニ用イサルモノハ
如キハ商標トシテ登録ヲ願出ツルヲ得ヘキ儀ニ候哉

第三條數人組合ヲ設ケ同一種類ノ商品ニ對シ同一ノ商標ヲ用フルノ約束ヲ結ヒタルモノハ其登録ヲ願出ツルヲ
得ヘキ儀ニ候哉又別ニ組合ヲ設ケサルモ數人連署シテ出願シ得ヘキ筋ニ候哉

第四條該條例第八條ニ分與トアルハ數個ノ商標ヲ專用スルノ權ヲ有スルモ其内一個若シクハ數個ノ商標ヲ他人ニ
讓與スル事ヲ指ス儀ニ可有之哉又ハ商標ノ專用權ヲ得タルモノ自ラ用フル商標ヲ他人ニモ亦之レヲ使用セシム
ル儀候哉

第五條登錄願手續第四條乃至第七條ノ場合ニ於テモ一個ノ商標ヲ二種以上ノ商品ニ用ヒ又ハ二個以上ノ商標ヲ一
種ノ商品ニ用フル片ハ尚ホ第三條ニ準シ各別ノ願書并明細書ヲ差出スヘキ筋ニ候哉

第六條登錄願手續第九條ニヨルニ商標ノ彩色ハ適宜變換スルコトヲ得ヘキ儀ニ候處紙片ニ押捺シテ商品ニ貼用ス
ル目的ヲ以テ登録ヲ得タルモノ場合ニヨリ之レヲ燒印トシテ使用スルカ如キモ尚ホ商標主ノ自由ニ任セラル
キ儀ニ候哉

右指令 十七年八月二日
伺之趣左ノ通可相心得事

第一條 願出ツルヲ得ス

第二條 一地方ノ物産ニ固有スル名稱ト雖モ亦商品普通ノ名稱ノ限内トス後段ハ伺之通

第三條 組合ニ於テ販賣スル商品ニ商標ヲ專用セント欲スル片ハ其組合長ヨリ登録ヲ願出ツヘシ後段ハ願出
ツルヲ得ス

第四條 後段ノ通

第五條 伺ノ通

第六條 用方ハ明細書ニ記シアル用方ト異ナルヲ得ス

●商標條例疑義ノ儀ニ付德島縣ヨリ農商務省ヘ伺十七年七月十八日
本年第九號御布告商標條例中左記ノ項々疑義ヲ生シ候ニ付何分ノ御指揮相成度候也

一商標條例第三條第二項ノ末其日附同シキ者ハ共ニ之ヲ却下スヘシトアリ依テ其共ニ却下サレタル後再ヒ其一人
ニシテ同一商品ニ同様ノ商標登録ヲ願出ルヲ得サルハ勿論ニ候得共種類ヲ異ニスル商標ニハ登録願出ルモ妨
ケナキ儀ニ候哉

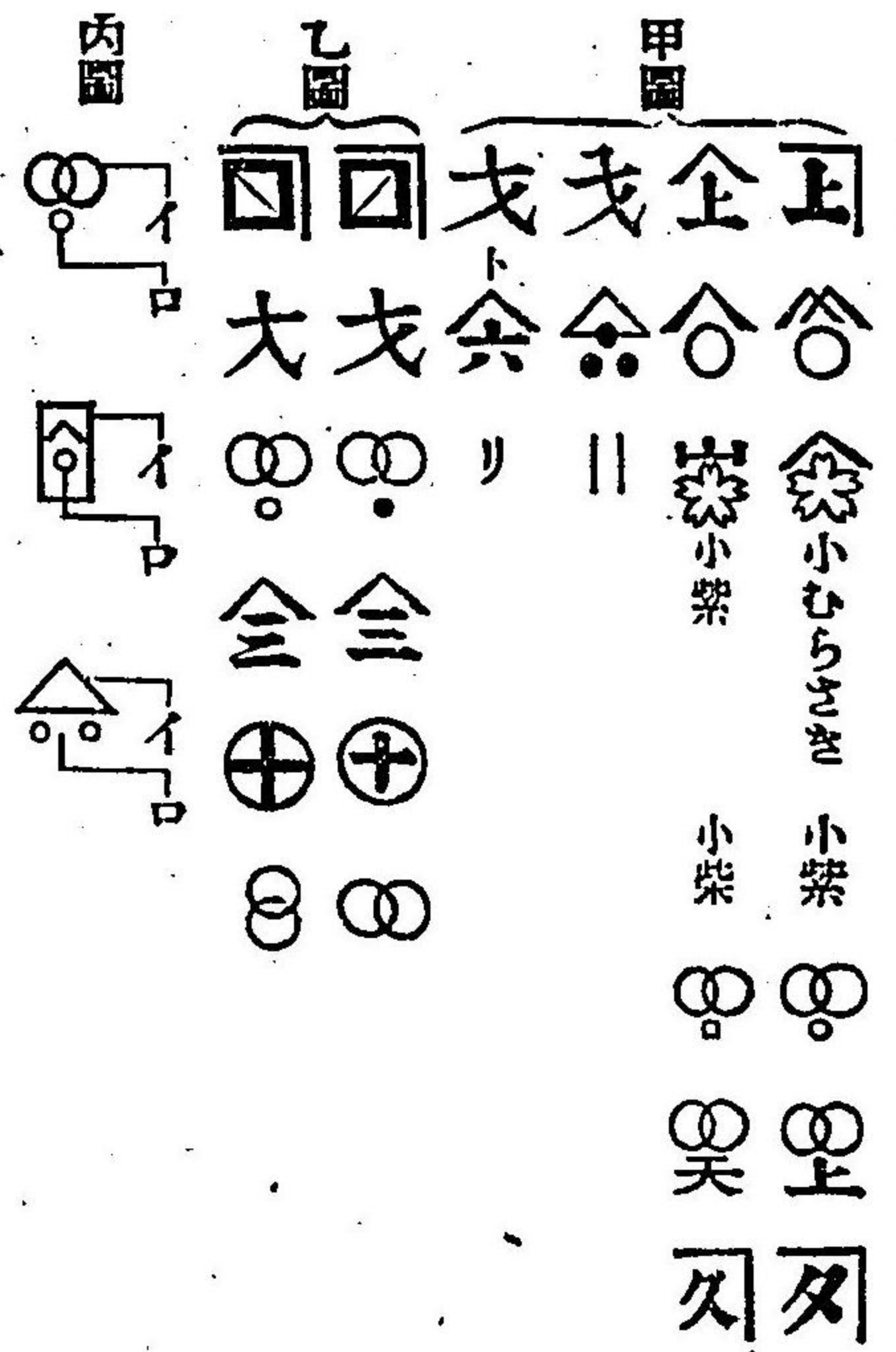
二同條例第五條第一項ニ已ニ登録セル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ云々トアリ然ルニ管下產出ノ藍玉食鹽等ノ如
キハ從來ノ商標多クハ相類似ス故ニ相紛ラハシキト否ラサルトハ左圖ノ内甲圖ノ如キハ相紛ラハシカラサル者
トシ乙圖ノ如キハ相紛ラハシキモノト相認メ可然哉果シテ然ラハ相紛ラハシキモノハ願書進達セテ當廳限リ却
下候テ可然哉

三同條例第三項ニ同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印ヲ以テスルモノトアリ然ルニ管下產出食鹽等ノ如キ
ハ從來一村毎ニ一ツノ目印ヲ烙印シ其傍ラ一己人ノ小印ヲ烙シ以テ何村ノ産ニシテ某ノ製タルヲ證シ之ヲ商
標トセリ即チ左ノ丙圖ノ類ノ如シ就テハ其大印(丙圖中イ)ノ如キハ村票ニシテ即チ同業者普通ニ用井又商業上
慣用セル目印ト云ハサルヲ得スト雖トモ傍ラ小印(丙圖中ロ)ヲ加ヘテ始メテ一己人ノ至キ商標トセリ此等ハ數
人各自ニ登録ヲ願出ルモ妨ケナキ哉

四同條例第四項ノ本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標トハ附則第一項ニ依リ登録願出サル者ニ候哉果シテ然ル

トキハ條例頒布以前ヨリ現ニ用ヒ來ル商標ハ假令登錄不願出トモ其効力ヲ有スルモノ、如ク若シ其使用者ハ登錄願濟ノ者トセハ第一項ト重複ニ相成候様相見ヘ如何心得可然哉

但シ本文前段尙之通ニ候ハ、本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アルト否トハ判別スルコト甚ク難ク若シ知ラズン甲者登錄ヲ願出登錄證ヲ得而テ后チ乙者ノ現ニ使用セシテ判然スルニ於テ本條例第拾貳條ニヨリ其登錄無効ニ屬スルトキハ甲者ノ不幸ナル最モ甚シ故ニ其現ニ使用者アルト否トハ如何ノ途ニヨリテ熟知セシムヘキ義ニ候哉



指令 十七年八月二日
尙之趣左之通可相心得事
第一項 尙之通

第二項 甲圖中列トクニ合ト合ノ如キハ相紛ラハシカラサルモノニシテ其他ノ符號ハ悉皆紛ラハシキモノトス
如斯紛ラハシキ商標願出候節ハ願人ニ諭ホシ願人之ヲ下戻ノ儀願出候ハ、其意ニ任セ候儀ハ不苦候得共其紛ラハシキヲ以テ其願限リ願書却下候儀ハ相成ラス

但列又合ノ如キハ條例第五條第三項ノ商標上慣用セル目印ナルヲ以テ登錄ヲ願出ツルコトヲ得ス
第三項 丙圖ノ如キ普通ノ商標ニ小印ヲ添加シ之ヲ商標ト爲シ各自ヨリ願出候儀ハ相成ラス
第四項 條例第五條第四項ニ掲載セル條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標トハ條例附則ノ限内ニ登錄ヲ經サルモノニシテ即チ公有ニ屬セル商標ノ謂ヒニ付條例第五條第一項ノ專用ニ屬セル商標トハ區別有之重複之儀ニアラス

同項但書 從來同業者中ニテ使用セル商標ハ其同業者中ニ於テ之ヲ知ルハ最モ便宜ヲ有スルモノナリ故ニ新ニ商標ヲ專用セント欲スル者ハ同業中ニ於テ曾テ使用シ來レルモノニ紛ラハシカラサル商標ヲ選擇スル様注意セシムヘシ

但登錄無効ニ屬スルモ敢テ其使用ヲ禁スルニアラス
●商標條例ノ儀ニ付新潟縣ヨリ農商務省ヘ伺 十七年七月廿六日

一商標條例頒布後專用ニアラサル商標ヲ用ユルモノハ若シ誤テ其專用權ヲ侵スノ愛不少右ハ條例第四條ノ方法ヲ以テ右等ノ懸念ナカラシムルノ御主意ナルヤ
一 一種ノ物品ヲ假令ハ標註メ標註ノ類ニシテ其容器ヲ大中小ノ數個ニ別ツカ如キモノハ商標ヲモ其容器ニ應シ數個ヲ製スルハ勿論ナリト雖モ標註及明細書ノ如キハ各別ニモ一箇ニ見做シ出願ヲ爲サシメ可然哉
一 商標ノ材料ハ獨リ紙類ニ不限其貼付スヘキ物質ニヨリ木類金屬ヲ以テ製スルモ妨ケナキヤ
右數項目下登掛ノ儀有之候條主念何分ノ御指揮相成度此段相伺候也
指令 十七年八月六日

伺之趣左ノ通可相心得事

第一項 伺之通

第二項 願書及明細書ハ各別ニ出スニ及ハス然レモ容器ニ從テ其商標ヲ大中小ニ爲スルハ豫テ明細書ニ詳記ス可シ

第三項 伺ノ通

●商標條例ノ儀ニ付京都府ヨリ農商務省ヘ伺 十七年八月二日

勅種モヤシハ商標登錄願手續第十一條商品ノ種類中何種ニ該當候哉

指令 十七年八月二十一日

伺之趣商標登錄願手續第十一條第四十二種ニ可願儀ト可相心得事

●商標ノ儀大阪府ヨリ農商務省ヘ伺 十七年八月十三日

一二人以上同一又ハ相紛シキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用スル能ハサルハ勿論ニ候得共茲ニ同業者一致團結シ申合規約ヲ設ケ以テ製品ノ改良ヲ圖ルカ爲メ必要ナル場合ニ於テハ仲間中ノ約束ヲ以テ一定ノ商標ヲ製シ之ヲ同業者各自ノ製品ニ貼用セント欲スルモノアリ右ハ專用ノ權アリ之カ登錄ヲ願出ルヲ得ヘキモノニ候哉

一前項願出ルヲ得ルモノトセハ同業仲間取締人ノ名義ヲ以テ出願可然哉

一仲間ニ於テ一定ノ商標ヲ貼付セシ上尙製造者自己ノ商標ヲ貼付セント欲セハ別ニ之ヲ製シ之カ登錄ヲ願出ルヲ得ヘキハ勿論ニ候哉

指令 十七年八月三十日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一項第二項相成ラス

但仲間若クハ組合名ヲ以テ製造販賣スル物品ニ貼用スルモノハ此限ニアラス

第三項見解ノ通

●商標條例ノ儀ニ付千葉縣ヨリ農商務省ヘ伺 十七年八月廿一日

本年第拾九號布告商標條例第五條第二項商品普通名稱第三項商標上慣用セル目印等ヲ以テスル者ハ商標登錄願出ツルコトヲ得スト有之候處左記第一項包紙ニ印刷或ハ物品貼用第二項商標上慣用目印シ樽或ハ蓋墨汁ヲ以テ畫ク等ノ類ハ出願スヘキ限リニ無之ト考證候得共一己人ノ慣用他方ヘノ信用ヲ目的トシテ出願スル輩モ可有之儀ニ付至急何分ノ御指示被下度此段相伺候也

第一項

一何々九何々散 何々製ノ粉等ノ類

但上ニ官許左右ニ國郡村姓 名或ハ上ニ寒製左右ニ國郡村家號名等ノ類

第二項

一令々 團等其種類

但上ニ何々製左右ニ國郡村家號姓名等烙印或ハ墨汁ニテ畫ク等ノ類

指令 十七年九月九日

伺ノ趣一己人ノ從來使用セルモノト雖モ商品普通ノ名稱又ハ形質品位ヲ表スル文字及ヒ從來世上ニ於テ布簾ニ慣用セル目印ノ如キハ登錄不相成儀ト可相心得事

●商標條例ノ儀ニ付長野縣ヨリ農商務省ヘ伺 十七年九月十三日

商標條例并商標登錄願手續制定相成候處簾ハ製絲ノ如キ春秋盤ノ區別ニヨリ其商標ヲ二様ニ製シ教様ハ同一ナルモ彩色ヲ殊ニス而シテ尙之ヲ明瞭ナラシムル爲メ春秋盤ノ文字ヲ記載セリ右ハ彩色及ヒ文字ノ相違ハ有之候得共教様同一ナル上ハ登願ノ商標ト見做シ可然哉

指令 十七年九月十九日

第十四類 勸業

八百九十一

伺之通

但巻秋盤絲ノ文字ハ商標ノ附記ナルヲ以テ商品ニヨリテ文字ヲ異ニスルコトアラハ其趣ヲ明細書ニ詳記スヘシ
●商標條例ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ農商務省ヘ伺 十七年九月四日

本年第九號御布告商標條例中疑義ヲ生シ候ニ付左ノ事項相伺候何分ノ御指示相成度候也

第一項 本條例第五條第五項ニ已ニ登錄セル商標ト同一又ハ相紛ハシキ商標ニシテ同一種類ノ商品ニ用フル者同
第三項ニ商標ト慣用セル目印ヲ以テスル者ハ商標登錄ヲ願出ルヲ得ストアリ其商標ト目印トノ區別ハ圖形ノ疎
密若シクハ符號ノ大小等ヲ以テ判ツ可キニ非ス縣下ニ産出スル木炭醬油又ハ食鹽等ノ如キモノハ從來慣用セル
符號ハ頗ル疎ニシテ一瞥以テ識別シ易カラス其商標ト目印トノ區別ハ如何相心得可然哉

第二項 前項若シ圖形ノ模倣又ハ疎密ヲ以テ判ツ可カラサルモノトセハ商標ナルカ將タ目印ナルカハ願入ノ申立
ニ任セサル可カラス若シ然ラハ甲者頗ル簡單ナル圖形ヲ以テ商標ト爲シ其專用權ノ登錄ヲ願出乙者ハ甲者ト同
一ノモノヲ以テ自家ノ目印ト爲シ各之ヲ用ユルトキハ甲者ノ商標ニ同シキモノ目印ナルヲ以テ甲者ニ於テ
ハ其專用權ヲ侵サレタルモノト爲ス可ラス甲者登錄ノ保護ヲ受クルモ完全ノ効力ヲ缺カ如シ右ハ如何相心得可
然哉

指令 十七年九月十八日

伺ノ趣左ノ通可相心得申

第一項 商標トハ自他ノ商品ヲ區別スルカ爲メ商品ニ付スル目印ヲ謂ヒ商標上慣用ノ目印トハ從來一般ノ商家
ニ於テ用ヒ米レル布麻印即チ(田)ノ類ヲ謂フ

第二項 既ニ登錄商標ト同一又ハ紛ハシキ目印ハ假令何等ノ名稱ヲ以テスルモ同シ商品ニ用ユルコトヲ得ス

●商標ノ儀ニ付大阪府ヨリ農商務省ヘ伺 十七年八月三十一日

一當府下酒造業及酒類受賣業ノ者從來清酒ノ樽包菰粒ト云フニ白鶴白雲梅園等ノ銘印ヲ用ヒ以テ商標トナスモノ多

シ右ハ同業者中相用ユルモノナルカ故ニ條例第五條第三項ニ該當スルモノ、如ク相見候得共退テ右銘印使用ノ由
來ヲ推究スレハ蓋シ其始ハ一人一己ノ商標ナルヤ後夕疑ヲ容レ然ラハ則チ同業者中最モ古ク相用ユルモノハ其
專用權ヲ有スルモノ、如ク相見候ニ付無論第五條第三項ノ範圍外ト心得可然哉

二已ニ登錄ヲ經タル商標ヲ改正セント欲スルハ之カ出願ヲ要スル勿論ニ候處商標中専用ノ要點ヲ除クノ外上下左
右等ノ圖形模倣及文字等ヲ變換セント欲スルハ出願ヲ要スヘキ哉將タ届出ノミニテ可然哉

三同一種類ノ商品中品位數等ニ分ル、モノアリ其商標ノ専用權ハ同一ナルモ其品位ノ等級ニ應シ松印竹印或ハ甲乙
或ハ鶴龜等ノ銘印ヲ添加シ以テ上下ノ品位ヲ區別スルモノアリ右ハ當初登錄出願ノ際明細書ニ其區別ヲ記載
置候得ハ適宜添加候トモ妨ケナキ儀ニ候哉

指令 十七年九月十八日

伺ノ趣左ノ通可相心得申

第一條 白鶴白雲等ノ銘ニ於ケル從來多クノ酒造家之ヲ慣用シ既ニ自他ノ商品ヲ區別スルノ効力ヲ失ヒ一種ノ

酒質ヲ指定スルニ至リシトハ之ヲ普通ノ名稱ト看做スヘシ

第二條 商標中専用ノ要點外ニアル圖形模倣等ヲ變換スルハ商標ノ改正ニ屬ス

但條例第六條ノ場合ニ於テ商標中ノ住所氏名等ヲ變換セント欲スル時ハ届出ノミニテ可トス

第三條 見解ノ通

●商標條例登錄願ニ對スル山口縣ヨリ農商務省ヘ伺 十七年九月八日

本年第九號御布告商標條例第五條第三項ニ商標上慣用セル目印ヲ以テスル者ハ登錄ヲ願ヒ出ルヲ得スト有之然ル
ニ縣下岩國産紙ノ儀ハ舊藩ノ當時ニ於テ一ノ官衙アリテ左圖ノ符號ヲ貼シ其品位ヲ分別スルノ成規ニ候處置縣以來
岩國産清室ナルモノ其方法ニ據リ該符號ヲ専用シ來レリ又近來ニ至リテハ同業者各自ニ之ヲ貼付スル慣行之アリ若
シ此際他ニ該符號ヲ以テ商標登錄ヲ願出ルハ該社専用權ヲ拋棄致シ候ニ付目下登錄方可願出哉伺出候右等ハ條例

第五條第三項ニ該當スル者ト思考致候得共爲念相伺候也

符號ノ圖

●サ●カ●ア●ロ●ハ●ニ

但●サ●上等トシ順次之ニ次ク

指令 伺ノ通 十七年九月二十二日

●商標條例疑義ノ廉兵庫縣ヨリ農商務省ヘ伺 十七年八月

第壹條 條例第五條第三項中商品普通ノ名稱トハ例ヘハ酒醬油綿ノ類ヲ指スカ又ハ此等ノモノハ商品固有ノ名稱ニシ

テ酒龍野醬油阪上綿ノ類ヲ云フ儀ニ候哉

第貳條 條例第五條第三項同業者普通ニ用ヒ又ハ商標上慣用セル目印トアルハ例ヘハ極上飛切天下第一天印精選等ノ

類ヲ云フ乎又ハ同業者各自ノ目印カチ●●●等ノ類ヲモ併セ指ス乎

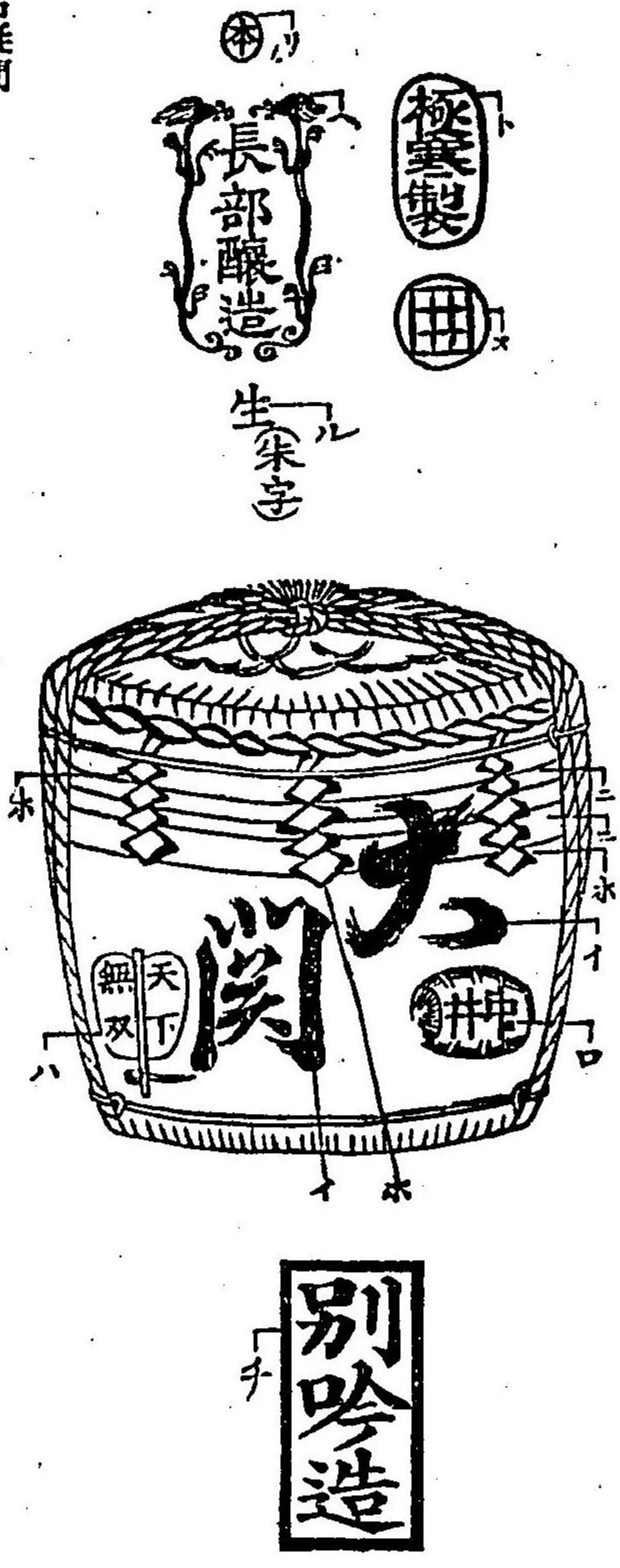
第三條 條例第五條第四項中本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標トアリ當縣下灘酒ニ正宗惣花大關等ノ酒銘アリ

其根元ハ某一家ノ酒銘ナリシモ其銘漸ク聲價ヲ世上ニ博スルニ從ヒ他人之ニ擬スルモノ次第ニ増加シ増加スルニ從

テ聲價愈々博ク若シ一朝之ヲ制限スルルハ販路忽チ障害ヲ來スヘキ景況ニシテ近來某製ノ正宗某製ノ惣花ト唱ヘ其酒

銘殆ント該地方慣用ノ姿ヲナセリ其標牌記販方ハ酒樽ノ上包ニ正宗惣花大關等ノ酒銘ヲ大書シ之ニ注連又ハ松或ハ

竹梅櫻等ノ圖繪ヲ加ヘ且某製造極寒製天下第一●●●等ノ烙印ヲ捺ス其圖形概テ左ノ如シ



右疑問

第壹 印大關ハ條例第五條第四項條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標ニ相當シ即チ公有ノ商標ト相心得ヘキ

哉

第貳 ニ印ホ印モ亦其慣用法イ印ニ異ナラサルヲ以テ前同様可相心得哉

第三 ハ印ト印チ印ル印ハ條例第五條第三項同業者普通ニ用ヒ又ハ商標上慣用セル目印ニ相當スルモノト可相心

得哉

第四 ロ印ヘ印又印リ印ハ何レカ其一ヲ擇ヒ例ヘハロ印又ハヘ印ヲ以テ商標トシ登録願出ルヲ得ヘキモノニ候

哉

第五 果シテ前數項伺ノ通ナルルハ專用權ヲ有スル登録商標ハロ印又ハヘ印ニシテ其他イ印ハ印ニ印ホ印ト印チ

印リ印又印ル印等ハ依前適宜併用スルモ妨ケナキ儀ニ候哉

第五條第三項ニ該當スル者ト思考致候得共爲念相伺候也

符號ノ圖

○サ、○カ、○ア、○ロハニ

但○サ上等トシ順次之ニ次ク

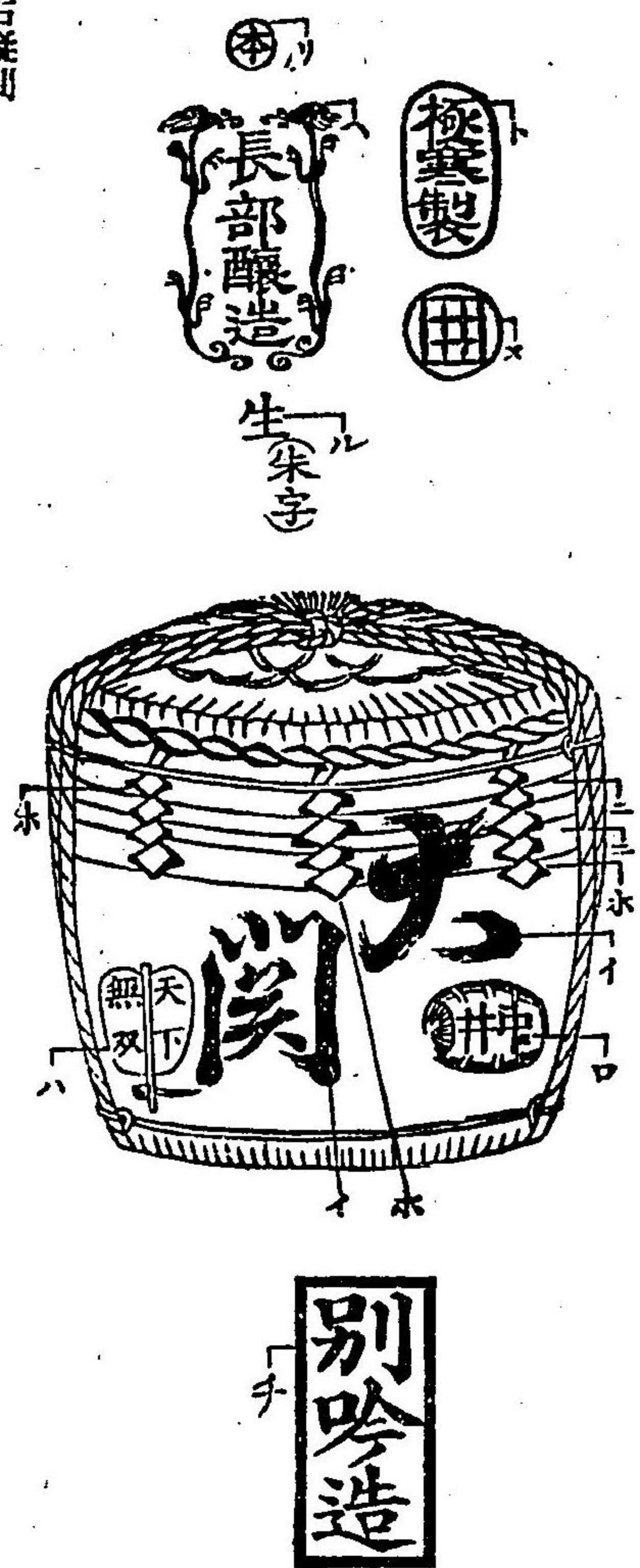
指令 伺ノ通 十七年九月二十二日

●商標條例疑義ノ廉兵庫縣ヨリ農商務省ヘ伺 十七年八月

第五條 條例第五條第三項中商品普通ノ名稱トハ例ヘハ酒醬油類ノ類ヲ指スカ又ハ此等ノモノハ商標固有ノ名稱ニシテ酒醬油龍野醬油阪上類ノ類ヲ云フ儀ニ候哉

第六條 條例第五條第三項同業者普通ニ用ヒ又ハ商標上慣用セル目印トアルハ例ヘハ極上飛切天下第一天印精選等ノ類ヲ云フ乎又ハ同業者各自ノ目印ヲチ○△□等ノ類ヲモ併セ指ス乎

第三條 條例第五條第四項中本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標トアリ當縣下灘酒ニ正宗惣花大關等ノ酒銘アリ其根元ハ某一家ノ酒銘ナリシモ其銘漸ク聲價ヲ世上ニ博スルニ從ヒ他人之ニ擬スルモノ次第ニ増加シ増加スルニ從テ聲價愈々博ク若シ一朝之ヲ制限スルハ販路忽チ障害ヲ來スヘキ景況ニシテ近來某製ノ正宗某製ノ惣花ト唱ヘ其酒銘殆ント該地方慣用ノ姿ヲナセリ其標牌記販方ハ酒樽ノ上包ニ正宗惣花大關等ノ酒銘ヲ大書シ之ニ注連又ハ松或ハ竹梅櫻等ノ圖繪ヲ加ヘ且某製造極寒製天下第一○△□等ノ烙印ヲ捺ス其圖形概チ左ノ如シ



右疑問

第五 一印大關ハ條例第五條第四項條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標ニ相當シ即チ公有ノ商標ト相心得ヘキ哉

第六 二印ホ印モ亦其慣用法イ印ニ異ナラサルヲ以テ前同様可相心得哉

第三 八印ト印子印ル印ハ條例第五條第三項同業者普通ニ用ヒ又ハ商標上慣用セル目印ニ相當スルモノト可相心得哉

第四 口印ヘ印又印リ印ハ何レカ其一ヲ擇ヒ例ヘハ口印又ハヘ印ヲ以テ商標トシ登錄願出ルヲ得ヘキモノニ候哉

第五 果シテ前數項伺ノ通ナルキハ專用權ヲ有スル登錄商標ハ口印又ハヘ印ニシテ其他イ印ハ印ニ印ホ印ト印チ印リ印又印ル印等ハ依舊適宜併用スルモ妨ケナキ儀ニ候哉

第六 口印又ハ印即チ登録ヲ得タルモノ、ミヲ以テ商標ト唱(其他ノ諸圖繪烙印等ハ畢竟製品容器ヲ裝飾シタル繪紋ノ一部ニ屬シ商標ノ全形以外ト做スヘキ哉又ハイ印ヨリ印ニ至ルモノハ悉皆商標ノ全形内ニ屬スヘキ儀ニ候哉

第四條 本年御省第五號告示第二番式第四項(此商標ノ何處ニハ某地何某ノ文字ヲ何様ニ附記致候)トアリ例ハ幾何地何某製如此類ノモノ其櫻花ハ商標ニシテ何地何某製ノ文字ハ附記アリ此附記ハ商標全形ノ内外何レニ可屬哉

第五條 若シ前條ノ附記ヲ以テ商標ノ全形内ニ屬スルモノトセハ例ハ其製品容器ノ正面ニハ櫻花ノミヲ認キ何地何某製ノ文字ヲ其側面ニ附記スル場合ニ於テハ一個ノ商標ニケ所ニ分裂スヘシ此等ハ妨ケナキ儀ニ候哉

第六條 登録ヲ得タル商標ノ全形内外上下左右周圍等ハ登録商標ノ文字又ハ横文ニテ同意義ヲ或ハ記載シ或ハ記載セサル等適宜ニ任セ候儀ハ不苦候哉

第七條 例ハ櫻花ノ商標ヲ以テ登録ヲ得其製品上中下ヲ區別セン爲メ商標ノ全形内又ハ全形外上等品ニハ全中等品ニハ全下等品ニハ八等ノ印ヲ適宜記載スルハ妨ケナキ儀ニ候哉

第八條 登録商標全形ノ内外適宜ノ個所ヘ其商品ノ容積重量尺度番號年月等ヲ記載スルハ商標主ノ隨意ニ任スヘキ儀ニ候哉

第九條 商標登録願書式ニ何組組長トアルハ同業者各自業務ノ改良進歩ヲ計ルノ目的ヲ以テ組織シタル例ハ其業組合登録組合ノ如キ類ヲ云フニ非スシテ全ク會社ノ方法ヲ以テ一個体ヲ爲シタルモノヲ指稱スル儀ニ候哉

第十條 條例第九條登録商標ヲ他ノ種類ノ商品ニ兼用若クハ轉用云々トアリ種類異同ノ差別ハ本年第十三號布達第十一條ニ明記アル六十五種ノ區別ニ從ヒ例ハ食鹽ト膏藥ハ其物相異ナルカ如シト雖モ等シク第一種三屬スルヲ以テ同種類トシ兵綿ト木綿綿ト共ニ第二十五種ニシテ全種類ナルモ絹絲ト綿絲ハ第二十六種ト第二十七種ト其屬スル所相異ナルヲ以テ其品相似タリト雖モ兵綿ト木綿綿ノ例ニ依ラス仍ホ別種類ト爲スカ如キ旨意ニ候哉果シテ然ラハ食鹽ニ用ユル登録商標ヲ膏藥ニ兼用又ハ轉用スルモ同種類中ナルヲ以テ別ニ出願又ハ届出等ニ及ハサル儀

ニ候哉

第十一條 登録商標ノ全形中又ハ其以外ニ雜酒龍野醬油阪上綿等ノ文字ヲ適宜記載スルハ不苦儀ニ候哉

第十二條 製造人登録商標ヲ其製品ニ貼付シテ之ヲ買受ケテ販賣スル商人モ亦其自己ノ登録商標ヲ之ニ貼付シ順次賣買スル毎ニ各商標ヲ貼付スルハ妨ケナキ儀ニ候哉

第十三條 登録願手續第二條ノ見本願書明細書等願書參考ノ爲メ成規頁數ノ外見本ハ登録願書明細書ハ各登通宛願人ヨリ別ニ提出サセ不苦候哉

指令 十七年九月十七日

何ノ趣左ノ通可相心得事

第一條 總テ普通ノ名稱トス

第二條 條例第五條第三項ニ掲載シタル同業者普通ニ用フル目印トハ例ハ其茶商ノ茶袋ニ茶壺ノ形ヲ付シ足袋商ノ包紙ニ足袋ノ隻形ヲ付スルノ類ヲ謂ヒ商標上慣用ノ目印トハ商家一般ニ慣用シ来レル布羅印即チ(㊦)等ノ類ヲ謂フ

但極上飛切等ノ文字ハ物ノ品位ヲ表スルカ爲メニ用フルモノナルヲ以テ之ヲ商標ノ要部ト爲スヲ得ス

第三條 第一項

酒銘大關ノ如キハ條例附則第一項ノ願書留置期限ヲ經過スルニ非サレハ其公用商標タルト否ラサルヲ判定スルヲ得ス

但大關ノ銘タル從來多クノ酒造家之ヲ慣用シ既ニ自他ノ商品ヲ區別スルノ効力ヲ失ヒ一種ノ酒質ヲ指定スルニ至リシハ之ヲ普通ノ名稱ト看做スヘシ

第二第三第四項

ニホ兩個ノ印ハ第一項本文ノ通ハトチル四個ノ印ハ物ノ品位ヲ表スルモノナルヲ以テ登録ヲ願出ツルヲ得スリヌ兩個ノ印ハ第二項本文ニ據テ了解スヘシロハ兩個ノ印ハ外部ノ蝸龍及ヒ俵ノミヲ要部トシ

内部ノ文字ヲ要部外ニ附記スレハ登録ヲ願出ルモ妨ナシ

第五項

併用ノ儀ハ見解ノ通

第六項

前段見解ノ通

第四條 書式ニ掲載シタル附記ハ商標ノ全形内ニ附記スルノ方法トス

但何面書例附記ノ如キハ之ヲ全形ノ内外孰レニ屬スルモ願入ノ適宜タルヘシ

第五條 全形内ノ附記ヲ製品ノ容體ニ從テ變換スルコトアルモノハ明細書中用方ノ處ニ於テ其旨ヲ詳記スヘシ

第六條 商標ノ全形外ニ記載スルハ適宜ニ任スト雖正全形内ニ記載セント欲スルハ豫テ明細書ニ記載シ置ヘシ

第七條 前同斷

第八條 前同斷

第九條 見解ノ通

第十條 前段ハ見解ノ通後段ハ届出ヘシ

第十一條 第六條ノ指令ニ同シ

第十二條 見解ノ通

第十三條 相成ラス

但願人首諾ノ上ハ妨ナシ

●商標登録願ノ儀ニ付栃木縣ヨリ農商務省ヘ伺 十七年十一月八日

第壹項 管内ニ於テ從來家號ノ頭字ヲ以テ洋字五トナシ商標ニ使用セシモノアリ今之カ登録ヲ願出ツルト雖正右

洋和ノ文字ヲ異ニスルモ條例第五條第貳項ニ該當スルモノト心得可然哉

第貳項 前項ノ場合ニ於テハ願書ハ地方廳限リ下戻可然哉

指令 十七年十二月三日

伺之趣左之通可相心得申

第壹項 願出ツルモ妨ケナシ

第貳項 例規ニ據テ進達スヘシ

●商標登録願ノ儀ニ付和歌山縣ヨリ農商務省ヘ伺 十七年十二月十七日

本年十二月八日官報第四百三拾五號登載商標登録願ノ儀ニ付栃木縣ヨリ伺第壹項ニ家號ノ頭字ヲ以テ洋字トナシ商

標ニ使用セシモノ登録願出云々ニ對シ御省御指令ニ願出ツルモ妨ケナシトアリ右ハ條例第五條第貳項ノ家號トハ假

令ハ紀伊ノ國屋又ハ尾張屋等ノ類ヲ指シタルモノニ可有之歟果シテ然ラハ右等ノモノハ願出ツルヲ得サルモノニ有

之處如此家號ノ頭字ヲ洋字ニ改メタルモノハ商標ト爲ルヲ得可キモノナラハ紀伊ノ國屋ノ紀尾張屋ノ尾ノ類ノ如キ

モノ和字ヲ以テ商標ト爲スヲ得ヘキヤ都テ右等ノ種類ハ則チ商標ニ非スシテ所謂目印ノ部ニ屬ス可キモノト相考候

得共聊カ解疑相伺候

指令 十七年十二月二十四日

伺之趣家號ノ頭字ト雖モ從來同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用之目印ニアラサルニ於テハ其登録ヲ願出ツルモ

妨ケナキ儀ト可相心得申

●商標專用ノ儀ニ付岡山縣ヨリ農商務省ヘ伺 十七年十月八日

一 本年第九號ノ布告ヲ以テ商標條例御制定相成候處右ハ一般商家ノ賣品ニ限リ専用可致モノニシテ府縣監獄署ニ

於テ製造スル物品ニハ適用難致儀ト思置候得共抑在監人ノ如キハ無資無産無技能ノ徒多キヲ以テ監獄則ニ於テ

之レニ種藝ヲ授クルノ專業ヲ設ケテ以テ在監人ニ習熟セシムルニ於テハ其製出スル處ノ物品ハ監獄署ニ於テハ販

賣セサルヘカラス其販賣ノ方法ニ至テハ均シク他ノ商店ニ異ナルコトナシ然ラハ即チ監獄署ノ製造品ト雖正商標專

用登録ヲ願出ス可候哉

一果シテ前條御許可相成候ハ、在監人工業ヲ習熟シ放免ノ後子監獄署ニ於テ商標專用ヲ得タル物品ヲ製作シ之レヲ販賣セントスルモノハハ商標專用ノ權ヲ分與致シ不苦候哉

指令 十七年十二月廿五日
何ノ趣出願スルノ限リニ無之儀ト可相心得申

●商標ノ儀ニ付島根縣ヨリ農商務省ヘ伺 十七年十月二十四日

商標條例中疑義ノ廉左ニ相伺申候

第一條 條例第五條第四項ノ儀ニ付島根縣伺御指令ノ趣有之候處其公有標ニ屬スヘキモノハ幾年ノ後露顯スルモ限ナキヤ

第二條 前條公有商標後日露顯シ之ニ抵觸スレハ條例第十二條ニ據テ無効ニ歸スヘキ處其公有商標トナスヘキ實否ノ調査ハ何等ニ據ルヘキモノナルヤ

第三條 若シ公有商標ハ人民ノ申出ニ任セ別ニ調査セラレザルモノトスレハ附則限内ニ出願登錄ヲ得專有權ヲ有スル者ト抵觸スルハ如何可心得哉

第四條 公有商標ト同一又ハ相紛ハシキ商標ヲ同一ノ商品ニ用フルハ出願スルヲ得スト雖出願セシテ同様ノ商標ヲ使用スルモノアルモ不問ニ置クヘキ筋ナルヤ

指令 十八年三月三日
何ノ趣左ノ通可相心得申

第一條 見解ノ通

第二條 已ニ登錄ヲ經タル商標ニシテ後日公有ニ屬スヘキ商標ナルコトヲ商標登錄所ニ於テ發見シタルハ農商務卿之ヲ判定シ民間ニ於テ發見セシハ裁判官ノ審判ニ據ルモノトス

第三條 附則限内ニ出願シ其登錄ヲ經タル商標ハ條例第五條第四項ニ抵觸スルコトナレ

第四條 見解ノ通

●商標登錄願手續ノ義ニ付富山縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年七月八日

登錄商標ヲ使用スル商品ノ種類ハ商標登錄願手續第拾壹條ニ明示有之候然處其同種内ノ品ヲ貳品以上ハ甲乙丙或便宜ニ取リ束子之ヲ包括スル爲メ相用候上包紙若クハ上袋等ヘハ登錄商標ヲ使用スヘキ限リニ無之義ト相心得可然哉

指令 十八年七月廿一日
何ノ趣商標明細書中ニ掲載セル商品ナレハ幾品タリト之ヲ包括スル上包紙若クハ上袋等ニ登錄商標ヲ使用シ差支無之義ト可相心得申

●商標登錄願手續ノ儀ニ付富山縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年七月十五日

一商標條例第拾四條手数料上納手續第一項ニ商標壹箇ニ付金拾圓但一ノ商標ヲ數種ノ商品ニ兼用若クハ轉用スル者ハ其商品一種コトニ金五圓ヲ加フトアリ又商標登錄願手續第三條ニ登箇ノ商標ヲ貳種以上ノ商品ニ用ヒンカ爲メ又ハ貳箇以上ノ商標ヲ數種ノ商品ニ用ヒンカ爲メ登錄ヲ願出ツルハ其商品一種又ハ商標壹箇コトニ各別ノ願書及明細書ヲ提出ス可シトアリ右兩條ヲ對照比考候ヘハ壹箇ノ商標ヲ數種ノ商品ニ兼用若クハ轉用スル者ハ一種コトニ金五圓ヲ加ツルニ準シ一種ノ商品ニ數箇ノ商標ヲ用ユル者ハ壹箇コトニ金五圓ヲ加ヘ上納ノ義御許可相成候哉
一二人以上同一又ハ相紛ランキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用不相成義ハ條例第三條ニ明文有之然ル處若シ一人ニシテ專用ノ要點同一ナル左ノ圖ノ如キ商標ヲ一種ノ商品ニ專用出願スルハ壹箇ノ商標ト見做シ手数料金拾圓相納メサセ其ノ形狀使用ヲ明細書ニ記載シテ可然哉
(圖略ス)

指令 十八年八月十三日
何ノ趣左ノ通可相心得申

第一項 數箇ノ商標同一種ノ商品ニ使用スルモノタリト登箇コトニ金拾圓相納ムヘシ

第二項 本伺ニ示スカ如キ商標ハ專用ノ要點同一ナリトシテ一商標ヲ以テ論スヘキ限リニ無之同一種ノ商品ニ使用スルモノタリト批レモ全形ヲ要點トシ別箇ノ商標トシテ登錄願出ツヘシ

●商標使用方ノ儀ニ付函館縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年八月十九日
 大坂府權衡製作請負人山本清之助儀自分製作ノ權衡ヘ別紙見本ノ商標使用ノ儀大坂府廳ヲ經出願許可相成候趣ニ候
 處同人儀ハ當縣權衡製作請負モ兼業致居候ニ付當縣於テ製作ノ權衡ヘモ右商標使用致度旨今般届出有之右商標ハ山
 本清之助製作ノ權衡ヘ使用許可相成タル儀ニ付假令製作地ハ異リ候トモ使用候テ差支無之權被相考候得共條例中明
 文無之候ニ付如何相心得可然哉(見本略ス)

指令 十八年九月五日
 伺之趣差支無之儀ト可相心得事

第百二十三 度量衡改定規則 明治九年二月十九日 第拾七號布告

度量衡三器別紙種類表ノ通改定候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事
 (別紙)

度量衡改定規則

第一條 二器改定ニ付各地方ニ三器製作所並賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル
 三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ秤坐秤坐ハ同日ヨリ廢止候事
 第二條 各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日マ
 テニ右改所ヘ差出シ檢査ヲ請クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルコトヲ禁ス
 時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スヘキ事
 但改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持

刑法第二百廿七條以下參看

人ニ下ケ展スヘシ

第三條 製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ枡ハ芋烏芋等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スル
 ハ苦シカラス

第四條 尺度秤量ノ目ヲ盛直シ枡ノ縁鐵弦鐵ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所ヘ差
 出スヘク秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候
 儀不相成事

第五條 舊新器共檢印アルヲ賣拂度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事

但秤ノ錘皿又ハ枡ノ縁鐵弦鐵ヲ取離シ古鐵トシテ賣買スルハ苦シカラス

第六條 第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事

(度量衡種類諸表略之)

○西洋形權衡製作檢査印章 明治十四年五月二十六日 第三拾貳號布告

西洋形權衡製作檢査印章左ノ通改定候條自今左ノ印章ヲ證トシ從前ノ權衡ト同様相用フ
 ヘシ此旨布告候事

印章ハ朱刷



檢

○西洋形權衡ニ極印無之分ニ用ヒタル者處分方

明治六年十月九日
第三百三拾八號布告

御國量目ヲ割直シ候西洋形權衡ニ大藏省ノ極印無之分相用候者有之ニ於テハ屹度咎メ可申付候條此旨布告候事

但螺旋機關等ニテ其概量ヲ知ルノミノ器具ハ此限ニアラサル事

●沿革要領

明治六年六月第二百廿六號布告ヲ以テ西洋形權衡檢査印章ヲ定ム○同年十月第三百三十八號布告ヲ以テ大藏省極印ナキ西洋形日本量目ノ權衡ヲ用ユルヲ禁ス○九年二月第十七號布告ヲ以テ度量衡改定規則ヲ定ム○十四年第三十二號布告ヲ以テ西洋形權衡製作檢査印章ヲ改定ス

第百二十四

日本銀行條例

明治十五年六月二十七日
第三拾貳號布告

日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例

第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルキハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシム

ルヲアルヘシ

第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルヲ得

第四條 日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ壹株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルヲ得

第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條 日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條 事業ノ申張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

- 第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事
- 第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事
- 第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事
- 第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事
- 第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事
- 第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス
 - 第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事
 - 第二 日本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事
 - 第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事
 - 第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事
 - 第十三條 政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ
 - 第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セシムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス

- 第十五條 日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ
- 第十六條 日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス
- 第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ
- 第十八條 總裁副總裁ハ任期五ケ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス
- 第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ撰舉シ大藏卿ノ命スル者トス但創立第一回ハ五ケ年ノ任期ヲ以テ大藏卿之ヲ特命スヘシ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ撰舉シ理事監事ノ任期ハ定款ヲ以テ定ムヘシ
- 第二十條 理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス
- 第二十一條 大藏卿ハ特ニ管理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ
- 第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ大藏卿ヘ報告ス可シ
- 第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受ク可シ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ
- 第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スル事ハ勿論政

府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ
第二十五條 此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三ヶ月以前ニ之ヲ布告スヘシ
右奉 勅旨布告候事

第百二十五 國立銀行條例 明治九年八月一日 第百六號布告

明治五年十一月 第三百四拾九號布告國立銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別冊ノ通改正致シ舊條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵奉シテ創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省ヘ願出ノ上其免許ヲ受候様可致此旨布告候事
(別冊)

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ銀行紙幣ヲ受取り引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一章 銀行創立ノ方法、創立證書、銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並ニ諸役員撰任方法等ノ事ヲ明カニス

第一條 此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セント欲スル者ハ何人ヲ論セス(外國人ヲ除クノ外)五人以上結合シタル人々成規第一條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ其創立願書ヲ大藏省ノ

銀行創立請願ノ件

銀行ヲ創立スルノ模範

紙幣寮ヘ差出スヘシ紙幣頭之ヲ檢按シ相當ト思慮スルニ於テハ之ヲ大藏卿ニ稟議シテ其銀行創立證書及ヒ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條 右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名ヲ創立證書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經テ其創立證書ニ紙幣頭ノ承認許可ヲ受ルニ於テハ此條例ニ規定セル簡條ヲ遵奉シ以テ國立銀行ヲ創立スルヲ得ヘシ而シテ其創立證書ニ掲載スヘキ件々ハ左ノ如シ

- 第一 銀行ノ名號
但シ此名號ハ紙幣頭ノ承認許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシ
- 第二 銀行ノ本店及ヒ支店(若シ之アラハ)ヲ置クヘキ場所
- 第三 銀行資本金額及ヒ株數
- 第四 銀行營業ノ年限
- 第五 株主ノ姓名、住所、屬族、職業(若シ之アラハ)及ヒ其引受タル株式ノ番號、簡數
- 第六 此創立證書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事業ヲ營ナミ株主一同ノ利益ヲ謀ルタメ取極メタル旨

第三條 右創立證書ハ其株主等各記名調印シ之ニ膏錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受タルモノタルヘシ斯ク從事シタル創立證書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右創立證書ノ簡條ヲ遵守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スル者トスヘシ
第四條 右創立證書ノ簡條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認許可ヲ得

創立證書ノ印紙貼用並ニ其ノ件

創立證書更正ノ件

ルニ於テハ之ニ從事スルコトヲ得ヘシ但シ其事件ハ即チ資本金ノ増減及ヒ本店轉移或支店開設等ノ如キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル箇條ハ最初右創立證書中ニ記載セシ箇條ト同シク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其創立證書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置ヘシ

但シ右ノ外創立證書中ノ箇條ヲ更正スルコトヲ得サルヘシ

第五條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立證書ニ必ス銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ即チ成規第六條ニ掲クル所ノ雛形ニ準據シ其箇條ヲ悉皆(又ハ若干)記載シ創立證書ト同様株主一同之ニ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但シ此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受クルノミニシテ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ乞フニ及ハサルヘシ

第六條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定款中ニ掲ケタル諸款ヲ更正増補シ及ヒ之レヲ廢止スルコトヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正増補シタル箇條ハ最初右定款中ニ掲載セシ箇條ト同シク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其定款ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

第七條 創立證書並ニ銀行定款ハ本紙壹通正寫ニ通都合三通宛ヲ製シ而シテ創立證書ヘ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受ケ銀行定款ト共ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第八條 紙幣頭ハ右創立證書及ヒ銀行定款ヲ領受シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定ス

定款ノ印紙貼用並ニ其他ノ件

定款ノ箇條ヲ更正增加及ヒ廢止スルノ件

創立證書並ニ定款差出方ノ件

開業免狀下附ノ件

銀行開業ノ件

開業免狀創立證書定款ハ確立トセラレノ件

創立證書並ニ定款ノ寫ヲ各株主ヘ付與スルノ件

營業期限並ニ延期ノ件

社章並ニ社印用法ノ件

ル所ノ割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲナセシヤ否ヤノ狀實ヲ検査シ且株主等ノ正不正其他百般ノ事務ヲ視察シ不都合アルニ非レハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ

但シ創立證書銀行定款共本紙ハ記録寮ニ納メ正寫壹通ハ紙幣寮ノ簿冊ニ綴込ミ壹通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ

第九條 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一團ノ會社トナリ何々國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル箇條ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

第十條 此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印シタル開業免狀創立證書銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ之ヲ正確ナル証據トシテ採用セラル、ヲ得ヘシ

第十一條 創立證書銀行定款ノ寫又ハ版本等(用意分配ノ手續了ルノ後)各株主ヨリノ要需アルニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以テ之ヲ付與スヘシ若シ銀行右付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十ヶ年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レトモ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サス

第十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願

ヲ始メ訴訟、約定、保證及ヒ報告、往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用井社印ヲ
鈐スヘシ

但シ報告、約定、保證等ノ如キ文書ニハ頭取取締役及ヒ支配人ノ名印ヲモ加用スヘシ

第十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支配人、書記方、出納方、計算法、簿記方
其他適宜ノ役員ヲ撰任シ其職制權限進退及ヒ頭取、取締役交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取
極メ之ヲ銀行定款中ニ掲載スヘシ

第十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役ハ必ス自カヲ以テ成規第五十一條ニ規定スル所
ノ株數ヲ所持シタル者ニシテ其總員ハ五人以上(内一人ハ頭取)タルヘシ而シテ其四分
三ハ其銀行創立ノ地ニ於テ上居前一箇年以上在任シタル者ニ限ルヘシ

第十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞
ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ決シテ背戾セザル旨ヲ
認メ其管轄地方長官ノ與書鈐印ヲ受ケ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ察
中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

○第二章 銀行資本金ノ制限、公債證書銀行紙幣交收ノ割合並ニ其手續及ヒ引換準備
金等ノ專ヲ明カニス

第十七條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ拾萬圓ヨリ下ル可カラス尤人口拾萬人
以上ノ地ニ於テハ貳拾萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

公債證書納方
ノ件

但シ時宜ニヨリ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘノ稟議ヲ經ルニ於テハ五萬圓以上
拾萬圓未滿ノ資本金ニテモ創立ヲ許スコトアルヘシ

第十八條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノ八タルヘシ然レモ
大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ總額ヲ制限スルコトアルヘシ故ニ新タニ創立ヲ願フ
者アルキ其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルコトアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依
テハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルコトアルヘシ而シテ各銀行ハ其發
行紙幣ノ高ニ應シ四朱以上利付ノ公債證書ヲ時價(時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル
所ノ價格)ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ出納局ニ預クヘシ十一年第五號布告ヲ以テ但書共全條改正

但公債證書ノ時價低下スルキハ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙
幣ノ額ニ充タシムヘシ

公債證書ノ管
守並ニ當處
分ノ件

第十九條 右公債證書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出納頭
ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置クヘシ而シテ若シ此公債證書ノ内國價察ニ於テ施行ス
ル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債證書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ發行紙幣
引換ノ準備ニ充ツヘシ十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正

資本金ノ増減
ニ從ヒ引換
準備金等モ其
割合ニ準スル
ノ件

第二十一條 此條例第四十條四十二條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ増減スルコトアル
ニ於テハ前條ニ掲クル所ノ公債證書並ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ増

公債證券銀行
紙幣交割割合
ノ件

公債證券勘査
ノ件

公債證券ノ改
人並ニ委任狀
ノ件

公債證券換納
ノ件

公債證券利息
ノ件

減スヘシ

十六年第十四號布
告ヲ以テ刪除ス

第二十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債證券ヲ出納察ヘ納メ其受取證書ヲ
領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣察ヨリ受取り之ニ頭取支配人等ノ名
印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本トナスヘシ

第二十四條 右公債證券ノ請取證書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債
證書ノ勘査ニ付テハ該兩察頭互ニ其簿冊ヲ開ラキ須ラク注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ記入シ又
互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第二十五條 此條例第十八條ニ掲クル所ノ出納頭ニ預ケタル公債證券ハ毎年一度(又ハ數
度)銀行ノ役員出納察ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類員額等相違ナキ
ニ於テハ改人ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭ヘ差出スヘシ

但シ右改人出納察へ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

第二十六條 右公債證券ハ銀行ノ都合ニヨリ四朱以上利付ノ他ノ公債證券ヲ以テ之カ引換
ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシトセハ其趣ヲ出納頭へ通知シ之ヲ交換下附スヘシ
但シ其引換ヘタル趣並ニ其公債證券ノ種類金額等ハ紙幣出納兩察ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第二十七條 右公債證券ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行之ヲ受取り毎年銀行ノ利益精勘定
ノ内ニ加ヘテ之ヲ株主一同へ分配スヘシ十六年第十四號布告
ヲ以テ但書ヲ刪除ス

株式分割ノ定
規ノ件

株式ノ所有ハ
其望ニ任スル
ノ件

資本金入金割
合ノ件

資本金集合高
屆書提出方ノ
件

○第三章 株式ノ分割資本金入金ノ割合、株式没入、株主牒ノ記入、株式ノ賣買及ヒ資本
金増減等ノ事ヲ明カニス

第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五拾圓又ハ貳拾
五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ金高タルヘ
シ五拾圓貳拾五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘシ

但シ拾萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ五拾圓ヲ以テ一株ト定ム
ヘシ又拾萬圓未滿五萬圓マテノ資本金ヲ以テ創立スル者ナレハ五拾圓又ハ貳拾五圓ヲ以
テ一株ト定ムヘシ

第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持ス
ルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ハラズ總テ其所持株高相當ノ
權利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ

但シ大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サス

第三十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクト
モ資本金總額十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本金總額ノ
十分一ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

第三十一條 右資本金ノ月賦入金毎ニ其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十三條ニ準據シ資本金
集合高屆書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

株式没入ノ件

第三十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等ニ於テ其株ヲ没入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主ヘ返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取リタル株主モ亦他ノ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

株式消滅ノ件

第三十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アラサル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ没入シテ其株ヲ消スヘシ尤此消株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スルキハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠ルキハ紙幣頭ハ其銀行ニ銀店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘシ

株式主ノ製造及ヒ記入ノ方法

第三十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一 各株主ノ姓名住所(屬族、職業(若シ之アラハ))

第二 各株主ノ所持セル株式ノ番號、箇數

第三 入社ノ年月日

第四 退社ノ年月日

株式主牒ヘ記名ノ件

第三十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立證書ニ記名スル者ハ即チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ(外國人ヲ除クノ外)爾後其銀行ノ株主タルコトヲ同意シ隨テ其姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

株式主檢閱ノ件

第三十六條 右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閱スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閱ヲ拒ミタルキハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ壹箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ右檢閱ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

株式主牒ノ記入ヲ修正スルノ件

第三十七條 右株主牒ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人ノカ爲メ妨碍ヲ受クルニ於テハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

株式賣買譲與ノ件

第三十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買譲與スルコトヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ其株式ノ賣買譲與ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

株式賣却譲與ニ於ケル名代人ノ權利

第三十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却譲與スル等ノ事アルキハ假令ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖ヒ記名調印等ノ事ニ至リテハ

猶ホ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

資本金増加ノ件

第四十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ増加スルコトヲ得ヘシ而シテ右増加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ増加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤全ク入金濟ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其増加證書ヲ差出スヘシ

資本金増加ニ付公債証券納付ノ件

第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲クル如ク資本金ヲ増加セシニヨリ公債証券ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ増加ノ總額ヲ全ク入金シタル後ニ非レハ之ヲ施行スルヲ許サス

資本金減少ノ件

第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣頭ノ承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクモ三箇月以前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其残り資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先ヘ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハルハ三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三箇月以上毎日之ヲ公告スヘシ

資本金減少ニ際シ預金及ヒ預金アル者ノ權利

第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行ヘ貸金、預金等アル者ハ未タ其仕拂期日至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前

一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ

第一 凡ソ定期預金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス

第二 其他期限未滿タリモ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

資本金減少ノ件

第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條四十三條ニ掲クル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背反シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムコトアルモハ紙幣頭ハ右資本金減少證書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

○第四章 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類、其通用ノ能力、引換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ明カニス

銀行紙幣製造ノ件

第四十五條 此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製造ノ事務ヲ董括シ極メテ紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク磨摸ノ弊ヲ豫防スルノ術ヲ盡シテ以テ之ニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮ヘ納ムヘシ

銀行紙幣ノ種類

第四十六條 右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓貳圓、五圓、拾圓、二十圓、五拾圓、百圓、五百圓ノ八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ製造下付スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五ヨリ多カラサルヘシ

銀行紙幣下付ノ件

銀行紙幣通用ノ能力

銀行紙幣引換ノ件

銀行紙幣ヲ拒ミケル者ニ於テ引換並ニ燒捨ノ件

銀行營業ノ本務

公債証券ノ賣買ヲ專ラニスルヲ得サルノ件

他ノ會社ノ株主トナルヲ得サル物件及ヒ地所物件賣買ノ制限

第四十七條 右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債証券ヲ抵當トシテ發行スルノ旨趣及ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記録頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省並ニ銀行ノ記號、番號ヲ押捺シテ紙幣頭之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配人ノ名印ヲ加用スヘシ

第四十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行、會社其他ヲ論セズ日本全國何レノ地ニ於テモ租稅、運上、貸借ノ取引、俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同様通用スヘシ

但シ公債証券ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用ウルヲ許サス

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘンコトヲ請求スルモノアルトキハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フヘシ十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正

第五十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第五十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭ヘ差出シ其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤右引換銀行紙幣ノ種類、記號、番號、金額等ハ之ヲ紙幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ銀行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣ハ尙

ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ

但シ右燒捨ノ後ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

○第五章 銀行營業ノ本務、公債証券其他ノ賣買並ニ貸附金ノ制限、利息ノ制限、銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

第五十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ(引受貸シ抵當貸シノ別ナク)貸附ケ又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形、約束手形、代金取立手形其他ノ証券ヲ割引シ又ハ公債証券、外國貨幣並ニ金、銀、銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナスヘシ

第五十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ掲クル所ノ種類ナルヲ以テ公債證券ノ賣買ヲナスヲ得ルト雖モ貸附金、預リ金、爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルニヨリ此等ノ事業ヲ經營セスシテ唯公債証券ノ賣買ヲ專ラニスルヲ許サス

第五十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲クル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスヘカラス又職工作業ノ功ヲ興シ及ヒ此等ノ功ヲ興ス會社ノ株主トナルヲ許サス尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取リ又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二 滞貸金ノ抵當トシテ質物ニ取りタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第三 貸金返済ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノカ又ハ之ヲ引取りタルモノ又ハ右質入ノ流込ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返済スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取り之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第五十五條 前條ニ掲クル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取り又ハ買取りタル地所物件ハ遲クモ十箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附クル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一ヲ限リトナスヘシ

第五十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸付金利息ハ政府ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法ニ準據スヘシ若シ其限ニ超過スルモノアル時ハ大藏卿ハ其銀行ヲ督責シテ之ヲ其制限ノ割合ニ引直サシムヘシ
十一年第三十一號布告ヲ以テ全條改正

地所其他ノ物件賣拂ノ期限

貸付金ノ制限

貸附金利息ノ制限

銀行紙幣及株式ノ抵當並ニ賣買ノ制限

預り金ノ準備

發行紙幣準備金ノ制限ヲ超過スルニ於ケルノ件

準備金不足スルニ際シ株主等一時償辨スルノ義務

第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲナスヘカラス又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取リテ貸付金ヲナスヘカラス又其株ノ買主トナリ又ハ其株主トナルヘカラス然レモ貸付金ノ滞リニテ銀行ノ損失トナルコトアレハ止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取り又ハ買取ルコトヲ得ヘシ尤其株ハ遅クモ六箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預り金ヲ他ヘ運轉流用スルニハ須ラク之ヲ制限ヲ立テ其預り金總額ノ内少クモ十分ノ二五(即チ四分ノ一)ヲ引殘シ之ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤内十分一ノ員額ハ政府ノ公債證書ヲ實價ヲ以テ積立ルヲ得ヘシ

但シ此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカラス

第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此條例第二十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スルキハ紙幣頭ハ之ヲ督責シテ速カニ其準備金ヲ増加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ増加スルコトヲ怠ル時ハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受人ヲ命スヘシ

第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預り金ノ返済又ハ爲換手形約束手形等ノ仕拂ヲナスニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルトキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一

時價辨ノ爲メニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之レヲ各株主ヘ返辨スヘシ
年第十四號布告
ヲ以テ至條改正

○第六章 銀行名號ノ掲牌、社印ノ書體並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負責、所有物ノ明細
帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

銀行名號ノ掲牌及ヒ社印ノ書體

第六十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書體ヲ以テ其名號ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ其銀行ノ店前最モ見易キ所ニ掲クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告、諸証書、諸手形諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用于ル所ノ者ハ亦同シク讀易キ書體ヲ用于ヘシ

銀行名號ノ掲牌及ヒ社印ノ書體ノ規定ノ戻リタルノ處分

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルキハ銀行ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ爲サシメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ若シ又銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用ヒ或ハ人ヲシテ之ヲ用シメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出サシメ又ハ爲換手形約束手形、切手、證書、注文書、受取証書、受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用于ル者前條ノ規定ニ悖リテ記名調印シ又ハ記名調印セシムルキハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシメ且右等爲換手形約束手形、切手、注文書等ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡サ、ルキハ其規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持主ヘ辨償スルノ責ニ任スヘシ

銀行ノ名號ヲ用井タル諸手形ハ銀行其責任スルノ件

第六十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形、約束手形ヲ振出シ又ハ之ヲ引受ケ又或ハ之ニ裏書シタルモノ、如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ルト雖モ此人苟モ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノ爲メニ取扱ヒシモノト見做スヘシ

所有物ノ明細帳及ヒ其取扱ヒ規定ニ戻リタルノ處分

第六十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財產(動産、不動産ノ別ナク)ノ種類員數ハ勿論其授受賣買及ヒ質入書入委託其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ舉アル毎トニ其事由並ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受託人等ヲ遺漏ナク記載シ其時々頭取取締役等之ニ檢印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閱ニ供スヘシ○若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所有財產ヲ質入書入シ又ハ之ヲ委託スル等ノ事アルニ當テ其銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ捨置キ又ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五拾圓ヲ贖エサル罰金ヲ納ムヘシ

但シ右所有財產ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル証據トシテ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ採用セラル、ヲ得ヘシ

營業ノ時間

第六十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店支店共定式(又ハ臨時)休暇日ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時マテタルヘシ尤銀行ノ都合ニヨリ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ其趣ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

但シ爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式(又ハ臨時)休暇日ニ當ルモノハ其翌日之ヲ仕拂フヘシ

○第七章 株主總會ノ定規並ニ格段決議ノ順序、諸簿冊ノ點檢及ヒ檢査ノ手續、諸報告差出方等ノ事ヲ明カニス

總會ノ定規

第六十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總會ハ每年少クトモ兩度宛之ヲ執行スヘシ尤モ臨時ノ事件ヲ評決センカ爲メ執行スル所ノ臨時總會ハ此限ニアラス

格段決議ヲ以テ定款ヲ更正スルノ件

第六十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會ニ於テ次條ニ掲載セル方法ヲ以テ執行セシ格段決議ニ於テハ其銀行定款中ニ記載シタル事件箇條ヲ變更訂正スルコトヲ得ヘシ

格段決議ノ體裁

第六十九條 凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議按ヲ出シ其銀行株主臨席ノ總員(本人代人ヲ論セス)四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大體ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述シテ之ヲ報告ヲナシ後チ十四日以外一箇月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其臨席シタル株主總員ノ同意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

格段決議ニ於ケル承認ノ件

第七十條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣頭末ヲ記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ謄寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日(郵便遞送日數ヲ除ク)ノ内ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出シテ其承認ヲ受クヘシ○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出スコトヲ怠ルニ於テハ右ノ日數以後(即チ十六日目ヨリ)ハ怠慢時間一日ニ付十圓ヲ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取

格段決議ニ於テ確定シタル箇條ノ寫ヲ分賦スルノ件

第七十一條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ(此條例第四條六條ニ準據シ)現ニ之ヲ施行スルモノハ右ノ事件ヲ正シク記載シタル寫ヲ各株主ヘ分賦スヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ詐偽ヲ記載スルカ又ハ寫ヲ分賦セサルニ於テハ右寫一通ニ付五圓ヲ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲ爲サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

諸簿冊ノ點檢

第七十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ其銀行ノ營業時間中ナレハ何時ニテモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿冊及ヒ報告計表ヲ點檢スルヲ得ヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ株主ノ點檢ヲ拒ムキハ五圓ニ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役支配人等故サラニ之ヲナスカ又ハ知テ之ヲ見逃セシ時ハ右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

銀行ノ檢査

第七十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳知監督スル爲メ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ定例臨時ノ別ナク官員ヲ命遣シ銀行一切ノ業體ヲ檢査セシムヘシ
但シ紙幣頭ハ時宜ニヨリ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀行管轄地方官ニ依托シ其銀行實際ノ營業ヲ(定例臨時ノ別ナク)檢査セシムルコトアルヘシ尤右檢査ニ從事シタル地方官ハ其檢査シタル旨趣ヲ詳記シ速カニ之ヲ紙幣頭ヘ報知スヘシ

檢査官ノ規定

第七十四條 右檢査ノ官員ハ各銀行ノ本店又ハ支店トモ其營業時間中ナレハ何時ニテモ其用所ニ至リ詳密ニ其諸簿冊計表其他銀行一般ノ業體ヲ檢査シ其銀行役員ノ處務此條例成

規ニ規定スル所ノ箇條ヲ遵守スルヤ否ヤヲ視察シテ其檢査ノ實況ト考按ノ旨趣ヲ書
面ニ詳記シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

株主ノ請願ニ
ヨリ銀行ヲ檢
査スルノ件

第七十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル株主等ヨリノ請願アルニ
於テハ紙幣頭ハ官員ヲ命遣シ或ハ其管轄地方官ヘ委託シテ其銀行一切ノ業體ヲ檢査セシ
ムルコトアルヘシ但シ其檢査ノ實況ト考按ノ旨趣ハ之ヲ書面ニ認メ紙幣頭ヘ差出スヘシ而
シテ紙幣頭ハ其寫ヲ其銀行ノ本店並ニ此檢査ヲ請願セシ株主等ヘ下附スヘシ

銀行檢査ノ制
限

第七十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行此條例第七十三條七十五條ニ規定スル所ノ檢査官員ノ
檢査ヲ除クノ外他ノ檢査ハ一切之ヲ受ケサルヘシ尤諸官廳ノ職掌上ニ於テ國法ヲ以テ檢
査スルカ如キハ此限ニアラス

定例報告書并
計表ノ件

第七十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ半季及ヒ毎月其事務計算等ノ實際詳明ナル考課狀並
ニ報告計表(成規第六十六條ニ規定スル所ノ種類)ヲ製シ本店ハ頭取支配人支店ハ支配人
並ニ計算方之ニ記名調印シテ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤其書式ハ紙幣頭ノ指圖ニ從フヘ
シ

臨時ノ報告並
ニ報告書出方
ヲ怠慢スルニ
於ケルノ處分

但シ右半季報告計表ハ銀行ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

第七十八條 右定例報告計表ノ外紙幣頭尙ホ要用ト思考スルコトアルハ銀行ニ命シテ臨時ノ
報告計表ヲ差出サシムルコトアルヘシ○若シ銀行ノ頭取取締役支配人等右定例或ハ臨時ノ
報告ヲ怠リ紙幣頭ノ命スル日ヨリ(郵便遞送日數ヲ除ク)十日以内ニ差出サ、ルキハ十日

以外(即チ十一日ヨリ)ハ一日ニ付五十圓ヨリ少ナカラズ百圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納
ムヘシ

○第八章 利益金分配ノ方法ヲ明カニス同上

利益金分配ノ
方法並滯貸金
ノ件

第七十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ每半季其銀行ノ總勘定ヲナシ其總益
金ノ内ヨリ諸雜費並ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ準備ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金トナ
シ之ヲ總株主ヘ分配スヘシ尤右利益ノ計算ハ株主ニ分配セサル前十日以内ニ(郵便遞送
日數ヲ除ク)大藏卿ヘ差出シ其承認ヲ得テ後之ヲ株主一同ヘ通知シ且新聞紙ヲ以テ世上
ニ公告シ而シテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ同上全條但
總共改正

但槌カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸附金ヲ除クノ外其返濟期限ヲ過クルコト
六ヶ月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯貸金ト看做スヘシ

第八十條 同上

○第九章 銀行ハ官廳ノ爲換方ニ從事スルコト及ヒ外國銀行ト聯合スヘカラサル事ヲ明
ラカニス

積金割合ノ規
定

銀行ハ大藏省
其他ノ爲換方
ヲ勤ムルノ件

第八十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ
各地方官廳其他ノ爲換方ヲ勤ムルコトヲ得ヘシ尤其勤方ノ手續ハ爾時大藏卿ノ考按ニヨリ
其筋ヨリ命スル所ノ規定ヲ奉シテ以テ之ニ從事スヘシ

銀行ハ外國銀
行ト聯合スル
ヲ得サルノ件

第八十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非レ

ハ内外地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行(又ハ交換所等)ト雖モ凡ソ海外ニアルモノト相共ニ聯合シ以テ爲換ヲ取組又ハ其他ノ營業ニ從事スルコトヲ得サルヘシ

○第十章 銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

第八十三條 國立銀行ノ役員タル者諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事危險ナリト認ムルトキハ大藏卿ハ銀行ニ命シ其役員ヲ退職セシムルコトアルヘシ同上全條改正

第八十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等若シ此條例ニ背戾スルコトアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人ヘ損失ヲ受ケシムルキハ其損失ハ頭取取締役等之ヲ償辦スルノ責ニ任スヘシ

第八十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸証書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得スシテ銀行紙幣及ヒ預リ証書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲナシ爲換手形ヲ振出シ又ハ証書及ヒ切手ノ引受ケヲナシ約束手形爲換手形諸証書質物及ヒ公裁ニテ引取リタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書其他ノ要書ニ詐僞ヲ記載スヘカラス○若右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ檢査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆十國法ニ從ヒテ之ヲ罰スヘシ

第八十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借リ得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受クヘカラス又

銀行役員此條例ニ背戾スルコトアルヘシ

此條例ニ背戾スル銀行役員ノ負責

銀行役員ノ制禁

銀行役員其銀行ヨリ借受クヘキ金額ノ制限

銀行ノ名ヲ假リ自用ヲ辨スヘカラスルノ件

紙幣及ヒ諸手形類發行ノ禁止

銀行紙幣贋造及ヒ描改ノ禁止

其銀行ヨリ借財ヲナス者ノ爲メ其証人又ハ受人トナルヘカラス○若シ右等ノ役員右ノ規定ニ背戾シテ借財ヲナシ又ハ証人受人トナリ又ハ人ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アルキハ此等ノ役員ハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背戾セシ者ヨリ速カニ銀行ヘ返済スヘシ

第八十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆十國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

○第十一章 紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣ノ贋造描改及ヒ其版彫刻等禁止ノ事ヲ明カニス

第八十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ望次第持參人ヘ仕拂フヘキ約束手形又ハ右類似ノ証書其他政府發行ノ貨幣同様ニ通用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出シ其引受ヲナシ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セス皆十國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十九條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ贋造スヘカラス贋造セシムヘカラス贋造スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス贋造ト知リテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス又其文字畫圖ヲ描改スヘカラス描改セシムヘカラス描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス描改セシ紙幣ト知リテ之ヲ通用スヘカラス

銀行紙幣版板ノ彫刻及ヒ紙品製造等ノ禁止

銀行紙幣及ヒ諸手形類ヲ偽損スルノ禁止

又ハ之ヲ通用セシムヘカラス

第九十條 右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ウル所ノ版板又ハ之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘカラス又右銀行紙幣ニ用ウル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカラス又ハ之ヲ私ニ所持スヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ皆十國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第九十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ爲換手形、約束手形其他證書ノ類ハ何人ニ限ラス之ヲ切抜キ又ハ切裂キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニスル等ノイヲナスヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲナサシムヘカラス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルキハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ價金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

○第十二章 官命鎖店ノ場合特例監督役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債證書ノ没入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス

第九十二條

同上

第九十三條 國立銀行ニ於テ左ニ掲クル事實アルキハ大藏卿ハ鎖店ヲ命スルコトアルヘシ

第一 國立銀行條例ノ旨趣又ハ箇條ニ背戾シ大藏卿其銀行ヲ鎖店セシムルヲ相當ナリト思考スルトキ

第二 國立銀行ニ於テ負債辨償ノ義務ヲ盡ス能ハサル證據アルトキ

第三 國立銀行ニ於テ其資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スルトキ

第九十四條 前條ニ記載スル事實アリト認ムルトキハ大藏卿ハ檢査ノ官員ヲ派遣シ其事實ヲ推糺セシメ若シ相違ナキニ於テハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スベシ

第九十五條 前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ諸手形、諸證書類又ハ抵當物、地所等ヲ他人ヘ讓リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其他ノ物件ヲ預ルヘカラス若シ頭取取締役支配人其他ノ役員等此箇條ニ背キ或ハ讓リ渡シ又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲナスコトアルニ於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十六條 紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ而シテ其背戾ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債證書ヲ没入スヘキ旨ヲ(右報知ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ)申渡シ其公債證書ヲ取上クヘシ

第九十七條 右諸般ノ手續了リシ後チ紙幣頭ハ大藏卿ヘ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハスヘシ而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨

第九十八條 右諸般ノ手續了リシ後チ紙幣頭ハ大藏卿ヘ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハスヘシ而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨

營業停止ノ後賣買ノ禁止

特例監督役ヲ命遣シ及ヒ公債證書ヲ没入スルノ件

銀行鎖店ニ付其銀行紙幣官府ニ於テ引換ノ件

没入公債證書
賣却ノ件

特別監督役ノ
報知ヲ得テ跡
引受人ヲ命ス
ルノ件

銀行ノ借財債
却處分ノ件

銀行鎖店ニ付
株主有價ノ制

鎖店處分有恩
ノ件

銀行紙幣ノ引
換ヲ拒ミタル
片其處分ニ於
ケル諸入費額
價ノ件

平穩鎖店ノ件

公債證書ノ下
及ヒ銀行紙
幣流通ノ殘額
ヲ處分スルノ
件

テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第九十八條 此條例第九十六條ニ據リ其銀行ヨリ没入シタル公債證書ハ大藏省ノ便宜ニ從
ヒ之ヲ公賣若クハ私賣シ以テ其銀行ノ發行紙幣引換ノ資ニ充ルモノトス但右公債證書ノ
賣却代價紙幣下付高ニ對シ不足アルトキハ大藏卿ハ他ノ債主ニ先チ之ヲ其銀行ノ資産ヨ
リ徵收シ若シ下付高ニ對シ過剩アルトキハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ^同

第九十九條 此條例第九十六條ニ揭クル所ノ特別監督役ノ報知ヲ得之カ處分ヲナスニ於テ
ハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資産等ヲ取押ヘ諸貸
付金、立替金ヲ取立タル上ニテ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ謀リテ滞リ貸金額
及ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借財又ハ預リ金其外ヲ償却シ過金
アレハ株高ニ應シテ之ヲ株主ヘ割返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リテ
相當ノ分散ヲナサシムヘシ

第百條 右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ三箇月間
世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ右期限中ニ申出テシメ其事由ト證書類トヲ
檢按シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當償却スヘシ

第百一條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令其銀行ニ損失又ハ其他ノ事故アリテ
其銀行鎖店分散スルコトアルモ其株主等ハ其創立證書ニ於テ掲載シタル株式金額ノミヲ損
失スルノ外其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ勿カルヘシ

第百二條 紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ揭クル所ノ處分ヲナスニ際シ其銀行ヨリ尙ホ請願
スルコトアリテ其狀實ヲ具陳スル時ハ監督役ヲ出セシ日ヨリ三十日以内(郵便遞送日數ヲ
除ク)ナラハ其地方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背反セサルノ實証アルニ於
テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘシ尤右ノ請願書ハ必ス其地方官廳
ヲ經テ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

但シ此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ラク其處置ニ取
掛ルコトヲ見合セシムヘシ

第百三條 此條例ヲ遵奉スル銀行鎖店ノ場合ニ於テ跡引受人ノ入費等ハ總テ相當ノ處分ヲ
以テ大藏卿之ヲ取極メ他ノ債主ニ先チ其銀行ノ資産ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ^同

○第十三章 銀行平穩鎖店ノ手續及其紙幣引換方等ノ事ヲ明カニス

第百四條 此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セ
ントスルニハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申牒
シ其承認ヲ得テ後チ三箇月間新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其
他銀行ニ屬スル取引ノ清算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ之ヲ世上ニ公告スヘシ

第百五條 右ノ公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納寮ニ
預ケ置キタル公債證書ノ内ヲ取戻スコトヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半箇年ヲ過キ其銀行ノ
簿冊上ニ於テ尙ホ世上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ差

殘在銀行紙幣
引換ノタメ
貨領受ノ件

殘在銀行紙幣
引換ノ件

引換銀行紙幣
燒捨ノ件

訴訟ノ取扱ハ
一般ノ方法ニ
從フヘキ件

罰金處分ノ件

出シ右預ケ置キタル公債証書ノ全額ヲ取戻スコトヲ得ヘシ然ル上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘
 在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ
 第六條 右鎖店シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭
 ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取証書ヲ製シ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ
 但シ出納頭ハ右受取証書ノ外ニ預リ証書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ回附シ置キ其殘在銀行
 紙幣引換ノ爲メ右通貨ノ受取方ヲ要スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭ヘ渡スヘシ
 第七條 右預リ証書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ
 新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ從事スヘシ
 第八條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨シ
 其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル諸計算其外トモ紙幣頭國債頭出納頭ハ各其簿冊ニ
 詳記シ置クヘシ

○第十四章 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス
 第九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一般ノ人民ヲ相手取り訴訟
 スルカ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取り訴訟セラル、カノモ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其裁
 判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ
 第十條 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所(又ハ府縣ノ
 聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ但シ此條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯スコトアル

銀行納稅ノ件

其ハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ相當ト思考スル罰金(三圓ヨ
 リ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ
 命スヘシ

○第十五章 銀行納稅ノ事ヲ明カニス
 第十一條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規
 則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

○第十六章 銀行紙幣消却ノ方法ヲ明カニス 十六年第十四號布告ヲ以テ追加ス

第十二條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ掲クル方法ヲ以テ其營
 業年限内ニ悉皆消却スヘキモノトス但其取扱手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ之ニ
 從事セシムヘシ 同上

- 一 各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限迄ニ日本銀行ニ納付シ營業年
 限内之ヲ定期預ケトナシ以テ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ
- 一 各國立銀行ハ每半季利益金ノ多少ニ拘ラス其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘 即チ
 一分ニ
 厘五毛ニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケテ紙幣消却等ノ資ニ充ツヘシ
- 一 日本銀行ハ前二項ニ掲クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定ヲ結ヒ之ヲ發行紙幣
 ヲ消却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但其約定書ハ大藏卿ニ呈シテ之ヲ與書証印ヲ
 受クヘシ

一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ上納シタルトキハ大藏省ニ於テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告スヘシ

一 日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルトキハ豫テ出納局ニ差出シ置キタル紙幣抵當公債証書ノ内右消却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直チニ其銀行ニ還付スヘシ

○第十七章 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス十六年第十四號布告ヲ以テ十六章第十七章ト改ム

第百十三條 此國立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ何時ニテモ之ヲ増補シ又ハ之ヲ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルコアルヘシ若シ右増補其他ノ節ハ直チニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ十六年第十四號布告ヲ以テ第百十二條ヲ第百十三條ト改ム

國立銀行條例廢止ノ件

○國立銀行稅額ヲ定ム明治十一年九月二十八日 第貳拾九號布告

明治九年八月第百六號布告國立銀行條例第十五章稅額ノ儀ハ銀行紙幣下付高ノ千分ノ七ト相定メ本年七月ヨリ年々徵收候條此旨布告候事

但納期ノ儀ハ一ヶ年兩度ニ割合前半年分ハ七月三十一日限り後半年分ハ一月三十一日限り其管轄廳ヘ可相納事

●沿革要領

明治五年十一月第三百四十九號布告ヲ以テ國立銀行條例ヲ制定ス○九年八月第百六號布告ヲ以テ前令ヲ改正ス

第百二十六 米商會所條例

明治九年八月一日 第百五號布告

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度モノハ會社規則取調可願出旨明治七年十二月第百二十八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條例別冊ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

(別冊)

米商會所條例

第一條 緒言

第一節 米商會所ハ米穀流通ノタメ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同結社之ヲ創立セント欲スル者ハ農商務卿ノ免許ヲ請フヘシ十四年第三十一號布告ヲ以テ(農商務省及農商務卿)ト改ム以下皆同シ

第二節 農商務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否トノ權ヲ有ス

第三節 米商會所營業ハ五ヶ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セント望ムモノハ更ニ其趣ヲ申立農商務卿ノ免許ヲ乞フヘシ

第二條 會所創立ノ手續

第一節 米商會所ヲ創立スルニハ發起人十八人以上ニシテ資本金ノ總額三萬圓以上タルヘシ

第二節 資本金ハ百圓ヲ以一株ト定メ發起人總員ニテ必資本金總高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節 會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調印シ區戶長ノ與書ヲ得會所創立証書及ヒ定款申合規則等ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ

但創立証書中株主ノ責任ニ於テ有限或ハ無限ナルコトヲ明記スヘシ十二年第四號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス

第四節 地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且ツ其目的ノ利害障得ノ有無ヲ識別シ又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其集議ヲ取り併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルトキハ意見書ヲ添ヘ農商務卿ヘ具申スヘシ

第三條 開業ノ手續

第一節 發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタルトキハ直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルコトヲ得

第二節 發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ從ヒ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取ヲ撰任シ其住所姓名年齡等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方官廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改

第三節 此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債証書此公債証書ハ時々

相場ノ高低ヲ以テ増減スヘシト雖トモ明治七年大ヲ其地方官廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ證書ヲ乞受ケ其寫ヲ農商務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節 會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之ニ從事スルコトヲ得

第四條 社印ノ用方并印鑑差出方等ノ手續

第一節 開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印影ヲ一纏メニシテ農商務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルキハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節 會所ノ諸願伺届又ハ諸証書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スルコトハ其會所ノ名義ヲ用井會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條 役員ノ程限

第一節 會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取

副頭取

肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任ス

第二節 會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルコトヲ許ルサス

第三節 右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰擧シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推撰シ共ニ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受テ新舊交代セシムヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ十三年第十九號布告以テ全節改正ス

第六條 役員ノ職務

第一節 頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス
 第二節 頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ
 第三節 副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ
 第四節 肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差廻ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スルコトアルヘシ

第五節 肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員トナルヘシ

第六節 肝煎ハソノ同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アルトキハ臨時委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ從ヒ之ヲ退職セシムルコトヲ得

第七條 株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節 株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持

シ以テ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ景況ニ着目シ金員及ヒ出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

第二節 株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段証人ヲ要セスト雖モ通常仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス同上全節改正ス

第三節 株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

第四節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ受ケタル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スコトヲ得ヘシ但シ其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ發言ノ權ナク又役員ノ撰擧ニ應スルコトヲ許サス

第五節 株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其賣買授受雙方ヨリ連印ノ證書ヲ會所ニ差出スヘシ會所ハ此證書ヲ請取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續ヲナサハル間ハ證書賣買授受ノ効ナキ者トス

第八條 仲買人入社ノ手續

第一節 仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所所在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而テ仲買人トナラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主二名以上ノ保証ヲ以テ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ

身元金ハ現金又ハ日本政府ノ公債証書ヲ以テ會所ニ預ケ置クヘシ同

第二節 仲買人タルモノハ他人ノ依頼ヲ受ルニアラサレハ賣買取引ヲナスコトヲ得ス其賣買取引ニ付會所ニ對シ自己ノ名義ヲ以テシ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負擔スヘシ但一口ノ取引ニ付賣買雙方ノ依頼ヲ受クルヲ得ス十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改メテ五年第二十六號布告ヲ以テ又全節ヲ改ム

第三節 仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ推撰シ肝煎ノ承認ヲ得テ組頭トナシ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正ス

第四節 仲買人退社セントスルキハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認タル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ証人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條 米商會所一般ノ規則

第一節 外國人ヲ株主并仲買人ト爲スコトヲ得ス十五年第二十六號布告ヲ以テ第一節第二節ヲ改正シ第三節以下ヲ追加ス

第二節 會所ニ於テ賣買取引ヲ爲スモノハ其會所ノ仲買人ニ限ルヘシ

第三節 會所ニ於テハ貸附金ヲナスヘカラス又仲買人ノ身元金及証據金ヲ使用スヘカラス

第四節 會所ハ此條例ノ旨趣ニ基キ賣買主雙方ノ約定ヲ履行セシムルノ責任アルモノトス

第五節 會所ハ左ノ場合ニ於テハ賣買ノ違約人トシテ會所限處分スルコトヲ得

第一 賣買主雙方若クハ一方其會所ニ差入ヘキ証據金ノ差入方ヲ怠リタルトキ

第二 賣買主雙方若クハ一方其取引約定ノ期日ニ至リ其約定ヲ執行セサルトキ

第三 會所ニ於テ定メタル現米検査ノ方法及受渡上ノ期約ニ背キタルトキ

第六節 會所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ會所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ証據金及身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ會所ニ於テ其實ニ任スヘシ

第十條 賣買取引ノ手續

第一節 會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二様ニ分チ又其定期ヲ二種ト爲シ其一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限内ニ其取引ヲ完結シ又ハ解約スルモノトス十三年第十九號布告ヲ以テ以下四節ヲ改正ス

第二節 現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所内ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則ニ從フヘシ

第三節 定期賣買ヲ約定シタルキハ會所ノ役員ニ届出テ賣買主雙方ヨリ約定ノ証據金ヲ會所ニ差入ルヘシ此証據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一ヨリ下ルヘカラス又此証據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ因テハ追証據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ増証據金ヲ差入シムヘシ十五年第六十六號布告ヲ以テ更ニ(十)分ノ二(一)ヲ改ム

第四節 定期賣買約定ノ期限ハ三ヶ月ヨリ永カルヘカラス而シテ其期日ニ至レハ會所ノ役員立會ノ上必ス現米金ノ受渡シヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定濟ノ分ハ雙方ノ都合ニヨリ其期限内ニ買戻シ又ハ買受ケタル分ヲ他人へ賣渡スコトヲ得

第十一條 手数料並ニ口銭ノ制限

第一節 會所ニ於テ賣買雙方ヨリ領收スヘキ手数料直取引ハ賣買金高ノ二千分ノ一ヨリ多
 カラス又定期取引ハ千分ノ二ヨリ多カラサルヘシ十三年第十九號布告ヲ以テ全節改正

第二節 仲買人口銭ハ其頼人トノ示談ニ任スト雖トモ其制限ハ前節手数料ノ高ニ超ユヘカ
十二年第四號布告ヲ以テ(トモ)ノ下廿
 ラス字ヲ削リ(其制限)以下十七字ヲ加フ

第三節 手数料口銭ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スル
 ヲ得

第十二條 會議ノ規則

第一節 會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節 肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長トナス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一人ニ
 付一説ト定メ衆説ヲ取りテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスルキハ議長ノ判決
 ニ任カス

第三節 右會議ニ當リ出席定員ノ半ハニ充タサルキハ其議事ヲ始ムヘカラス但シ急遽ノ事
 件ハ格別ナリトス

第四節 株主ノ總集會ハ毎一年一度又ハ數度例日ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ撰舉
 及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

第五節 株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クヲ得

第六節 總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節 總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰舉スルモ妨ケナシ

第十三條 資本金増減ノ手續

第一節 會所ニ於テ資本金高ヲ増減セントスルキハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次第
 ヲ詳記シ農商務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

但其資本金賣買取引ノ景況ニ對シ不適當ト認ルトキハ農商務卿ハ其適當ノ金額ニ増加
十五年第六號布告
 スヘキ旨ヲ命スルヲアルヘシヲ以テ但書ヲ追加ス

第二節 右増減ノ許可ヲ得タル上ハ直ニ世上ニ公告シ其増減セシ名前書ヲ取纏メタル上農
 商務卿ニ届出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保證ノ金額ヲ増減スヘシ

第十四條 損益金計算ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其内税金並積立金其他一切ノ社費ヲ
 引去リ残り損益高ヲ以テ株數ニ割り合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節 右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日内農商務卿ニ届出且ツ世上ニ公告スヘシ

第十五條 納税ノ手續及ヒ積金ノ規則

第一節 會所ハ會所ニ於テ領收セシ賣買手数料總金高十分ノ二ヲ税納スヘシ而シテ其税金
 前半年分ハ七月中後半分ハ翌年一月中之ヲ地方廳へ上納スヘシ同上布告ヲ以テ全節改
 以テ(十分)ノ下
 (四)ヲ(二)ニ改正ス

第二節 株主等へ配當スヘキ純益金一ケ年一割即百分ノ十以上ノ利息ニ當ルキハ肝煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲スヘシ

第十六條 報告ノ定規

第一節 會所及仲買人ハ毎日取扱ノ事項并金穀出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テハ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ十三年第十九號布告ヲ以テ又全節改正ス

第二節 會所及仲買人ニ於テ使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務卿ニ届出ヘシ十五年第十六號布告ヲ以テ以下追加

第三節 會所ハ賣買實際ノ景況及金穀出納其他役員ノ進退並株主ノ異同仲買人ノ退社ヲ農商務卿ニ報告スヘシ

第十七條 官員檢査規則

第一節 地方長官ハ時々官員ヲ派出シ會所及仲買人營業ノ摸樣其他諸帳簿并現米ノ所在其受渡ノ實況及會所ノ現金等ヲ查覈セシムヘシ又時トシテハ農商務省ヨリ官員ヲ派出シ之ヲ檢査セシムルコトアルヘシ若シ右檢査官員ヨリ疑問等アルトキハ會所ノ役員及仲買人等ハ逐一答辯ヲ爲サヘルヘカラス同上全節改正

第十八條 諸願書其他ノ書類上達ノ定規

第一節 會所ヨリ農商務卿ニ差出スヘキ文書中諸願ハ二通其他ハ一通宛ニシテ其差出方ハ

地方廳ヲ經由スヘシ同

第十九條 罰則

第一節 會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實証アルキハ役員并ニ本人トモ其輕重ニヨリ三拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス十三年第十九號布告ヲ以テ全節改正ス

第二節 十三年第十九號布告ヲ以テ追加シ

第三節 官員檢査ノ節簿冊書類ヲ差出スヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サヘル者アルキハ頭取又ハ其主任者へ五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ十三年第十九號布告ヲ以テ第二節第四節トシ第三節ヲ四節ト改ム

第四節 會所ノ規約ニ背犯シタル役員株主仲買人ヲ會所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ルニ止ルモノトス但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ルヲ得ス十五年第十六號布告ヲ以テ全節改正

第二十條 營業停止及禁止同上布告ヲ以テ本條ヲ追加シ同

○米商會所株式取引所仲買人納稅規則ヲ定ム明治十五年十二月二十七日第六拾五號布告

米商會所并株式取引所仲買人納稅規則左ノ通制定シ來十六年四月一日ヨリ施行ス

米商會所株式取引所仲買人納稅規則
第一條 米商會所仲買人定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ五ヲ納稅スヘシ

- 第二條 株式取引所株式仲買人公債證書並諸株式ノ定期賣買ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ一ヲ納税スヘシ
- 第三條 第一條第二條ノ場合ニ於テ定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣又ハ買戻ニ係ル税ヲ免除ス
- 第四條 株式取引所金銀貨仲買人金銀貨ノ取引ヲ爲ストキハ賣買雙方ヨリ各其取引代金高千分ノ二半ヲ納税スヘシ
- 但定期取引約定中轉賣又ハ買戻ニ係ルモノハ第三條ニ據ルヲ以テ但書ヲ加フ
- 第五條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之ヲ還付セス
- 第六條 税金ハ會所又ハ取引所ニ納ムヘシ
- 第七條 會所及取引所ハ仲買人ヨリ納メタル税金ヲ每一箇月取纏メ翌月十日限り地方廳ニ上納スヘシ
- 第八條 税金徴收ノ方法ハ大藏卿ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第九條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納税ノ精算ヲ検査セシムヘシ
- 第十條 税金ヲ納メスシテ賣買取引スル者ハ脱税高三倍ノ罰金ニ處ス但此場合ニ於テハ仲買人タルノ認許ハ其效ヲ失フモノトス
- 第十一條 前條ノ罰金ハ仲買人ノ身元金ニ對シテ第一先取ノ特權ヲ有スヘシ
- 第十二條 會所及取引所ニ於テ本則納税ノ取締ヲ怠ルトキハ米商會所條例第十九條第一

節株式取引所條例第四十八條及本年第四十六號布告ニ依リ處分シ仍ホ其資本金ヲ以テ納税ノ欠額ヲ追徴スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○米穀金銀貨幣等竊ニ取引ヲ爲ス者處分方 明治十三年四月十五日 第貳拾壹號布告

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内タリモ竊ニ米穀并金銀貨幣及株式ノ限月若クハ現場定規ヨリ起リク賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタルモ其罪ヲ問ハス

右布告候事

○米商會所及株式取引所ノ賣買上ニ關スル處分方 明治十五年八月十九日 第四拾六號布告

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルヲアルヘシ

但本年第貳拾六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

右奉 勅旨布告候事

○米商會所株式取引所ノ方法ニ倣ヒ又ハ類似ノ方法ヲ用ヒ取引ヲ為ス者處分方
明治十六年一月十五日
第四號布告

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ方法ヲ用ヒ諸物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ補助シタル者ハ總テ明治十三年四月第貳拾壹號布告ニ據リ處分スヘシ
右奉 勅旨布告候事

○米商會所株式取引所ノ仲買人竊ニ米穀金銀貨幣公債證書株式ノ賣買ヲ爲ス者處分方
明治十六年八月六日
第貳拾九號布告

米商會所及株式取引所ノ仲買人ニシテ竊ニ米穀并金銀貨幣公債證書株式ノ限月若クハ現場定期ヨリ起リテ賣買又ハ其類似ノ取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ補助シタル者ハ五十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ米商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム
右奉 勅旨布告候事

○米商會所株式取引所仲買人認可料
明治十六年八月六日
第貳拾九號布告
米商會所及株式取引所ノ仲買人ト爲ラント欲スル者農商務卿ノ認許ヲ得タルトキハ認許料トシテ金三拾圓ヲ農商務省ニ納ムヘシ

右布達候事
○製茶砂糖反物等竊ニ現月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者處分方
明治十三年九月二十二日
第四十九號(使)府縣(達)

近來竊ニ製茶砂糖反物新炭等種々ノ物品ヲ以テ限月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者有之趣右ハ總テ本年四月第貳拾壹號布告ニ依リ處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○米穀金銀貨幣等竊ニ取引ヲ爲ス者取締方
明治十三年四月十六日
大藏省第七拾八號府縣(達)
今般第廿一號公布ノ趣モ有之候ニ付テハ取締向尚一層嚴重ニ可相立因テハ金銀米穀賣買取引ヲ爲ス業體ノ者并ニ兩替店爲替店又ハ穀物問屋ノ類ヘハ時々主務ノ官吏ヲ派遣シ爲相改自然公布ニ違及候者ハ速ニ取糾シ裁判所ヘ求刑可致此旨相達候事

○米穀現月并現場賣買ハ米商會所内ニ限ル
明治十三年三月十三日
大藏省甲第三拾貳號布告
米穀限月賣買ノ儀ハ明治九年第五號公布ノ趣有之該條例ニ違ヒ會所ヲ設ケ營業候儀ハ其處ニ依リ許可相成候處右限月并ニ現場賣買ヨリ賣買取引ハ米商會所内ニ限リ差許サレ候儀ニテ會所ノ支社出張所ヲ取設ケ又ハ仲買人ノ分店代理人取次人等ヲ置候儀不相成ハ勿論渾テ會所外ニ於テハ仲買人タリモ其業務取扱候儀一切不相成筋ニ候條心得違無之様可致此旨相達候事
十三年同省甲第三十八號布告

○米商會所株式取引所仲買人定員
明治十六年八月十八日
農商務省第七號告示
米商會所株式取引所仲買人ノ儀米商會所ハ東京百名大坂七十五名其他ハ一箇所三十名株式取引所ハ東京横濱ハ一箇所七十名大坂神戸ハ一箇所六十名ヲ以テ定限トシ其餘ハ自令不及認許候條此旨告示候事
十七年農第九號告示ヲ以テ東京下六十名ヲ七十五名ト改ム
京都株式取引所仲買人ハ六拾名ヲ以テ定限トス此旨告示候事
十七年九月廿七日
農商務省第七號告示

○米商會所株式取引所仲買人認許規程 明治十六年八月十八日 農商務省第六號告示

米商會所及株式取引所仲買人認許料之儀本年八月第廿八號ヲ以布達相成候ニ付テハ認許規程左之通相定候條此旨告示候事

米商會所 株式取引所 仲買人認許規程

第一項 米商會所仲買人及株式金銀貨仲買人ハ營業認許願ハ各其條例ニ依リ從前會所及取引所ニ於テ慣行ノ手續ニ從フヘシ

第二項 仲買人ニ認許ヲ與ヘタルハ左ノ雛形ノ如キ認許証ヲ下付スヘシ

第三項 米商會所仲買人ハ認許証ヲ下付スルハ認許料ヲ地方廳ヘ納付シ地方廳ヨリ農商務省ヘ上納スヘシ

第四項 株式仲買人及金銀貨仲買人ハ認許証ヲ下付スルハ認許料ヲ其株式取引所ヘ納付シ株式取引所ヨリ農商務省ヘ上納スヘシ

第五項 從前會所及取引所ノ定款ニ定メタル年限中認許ヲ與ヘタルモノハ其期限中ハ認許証下付セサルニ付滿期ニ至リ第一項ノ手續ニ從フヘシ

第六項 仲買人左ノ場合ニ於テハ會所及取引所ヲ經由シテ認許証ヲ農商務省ヘ返納スヘシ

但本人執行成リ難キ場合ニ於テハ親戚又ハ組合仲買人ニ於テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

第一 廢業シタルハ

第二 死亡シタルハ

第三 營業禁止ノ命ヲ受タルハ

第四 納稅規則ニ違犯シ認許ノ効ヲ失ヒタルハ

第五 會所及取引所ノ規約ニ違ヒ除名ノ處分ヲ受タルハ

第六 身代限リノ處分ヲ受タルハ

第七項 認許証若シ盜火水難其他ノ事故ニ因テ紛失シタルハ其事由ヲ詳悉シテ更ニ認許証ノ下附ヲ請願スヘシ

第八項 氏名ヲ改メタルハ認許証ヲ農商務省ニ差出シ書替ヲ請願スヘシ

●沿革要領

明治七年十二月第百三拾八號布告ヲ以テ從來各地方ニ於テ許可セシ米油現月賣買ヲ差止メ自今會社ヲ結ヒ米穀賣買相場取引ヲ望ム者ハ本年第百七號布告株式取引條例ノ方法ニ倣ヒ其管轄廳ヲ經テ大藏省ヘ出願シ許可ヲ受シム○九年八月第五號布告ヲ以テ更ニ米商會所條例ヲ定ム○九年八月內務省甲第二十九號布達ヲ以テ米商會所成規ヲ定メ八年大藏省甲第十六號第十九號及同年六月心得達ノ趣ヲ取消ス

○ 第三百二十七 株式取引所條例 明治十一年五月四日 第八號布告

明治七年十月第百七號布告株式取引條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

(別冊)

株式取引所條例

第一章 株式取引所創立及開業ノ一

第一條 株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債證書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル所ナリ而シテ之ヲ創立セントスル

モノハ其創立願書ニ其地方長官ノ與書ヲ受ケテ之ヲ農商務省ヘ差出シ農商務省ノ允許ヲ請フヘシ

第十四年第四十三號布告ヲ以テ(大藏省大藏卿)

トアルヲ(農商務省農商務卿)ト改ム以下同シ

第二條 此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クトモ十名以上ニシテ其

資本金額八十萬圓以上タルヘシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人總

頁ニテ出スヘシ十三年第五十七號布告ヲ以テ(二十萬圓)ヲ(十萬圓)ト改ム

第三條 農商務卿ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可スヘキヤ否ヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セサルコアルヘシ

第四條 發起人右創立許可ヲ受クルニ於テハ諸般ノ規程ヲ議定シテ創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ與書證印ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出スヘシ

但創立證書及定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遲クトモ三ヶ月間ニ差出スヘシ若シ右期限内ニ差出サ、ルキハ其許可ハ無効ニ屬スヘシ

第五條 右創立證書及定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ製定スベシ然レモ必ス此條例ノ旨趣ニ牴觸スルヲ得ザルヘシ

創立證書ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同決定シタル綱領ノ條件及ヒ其責任ノ有限或無限有限責任トハ負債償却ノ義務ニ於テ該取引所ノ株券限リ或ハ其株券ノ二倍等其ヲ明記シ必ス之ヲ遵守踐行スベキ旨ヲ政府ニ對シ保證スルモノナリ

定款ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同其取引所ノ便宜ヲ商量決定シテ互相確守スベキ約束條款ヲ記載スルモノナリ

申合規則ハ賣買取引ニ付賣買主雙方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確守スヘキ規程ヲ記載スルモノナリ

第六條 農商務卿ハ右創立證書及定款申合規則ヲ檢按シテ不都合ナシト思考スルニ於テハ之ニ與書證印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ其取引所ニ下付シテ開業ヲ許スベシ

但爾后取引所ノ都合ニヨリ其創立證書及ヒ定款申合規則ヲ改正加除セントスルキハ其時々農商務卿ノ認許ヲ受クベシ

第七條 取引所ハ開業前ニ於テ其營業保證ノ爲メ資本金高ノ三分二以上ニ當ル現金又ハ公債證書(大藏省ヨリ指定スル價格ヲ以テ)ヲ農商務省ニ差出シ預置クベシ

但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ヶ月ニ至リ猶本文ノ手續ヲナサズ又ハ開業セザルコアルトキハ其免狀ハ取消タルヘシ

第八條 取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ヶ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得ヘシ右滿期ニ至リ尙ホ營業セント欲スルキハ更ニ允許ヲ受クヘシ

第九條 取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀並ニ創立證書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第二章 株主並ニ株手形ノイ
第十條 各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式トナシ株手形ヲ製シ其株主タルモノヘ之ヲ交付スヘシ

第十一條 株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時ニテモ其金員及ヒ諸帖簿ヲ檢閱スルコトヲ得ヘシ

第十二條 株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラザル間ハ其株金ヲ取戻ス
ヲ得ス

第十三條 株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡シヲナスコ
ト得ヘシ

第十四條 株主タルモノハ其取引所ノ役員タラサル時間ハ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシ
ト雖也仲買人トナリタル時ハ仲買人ノ規則ヲ遵守スヘシ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人
ト稱スヘシ

第三章 仲買人ノコ

第十五條 丁年ニシテ仲買人トナラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引所ノ
承認ヲ得タル上仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケ其認許ヲ受クヘシ

仲買人ハ他人ノ委託ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノタメニ爲ストヲ問ハス取引所ニ對
シテハ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ十三年第廿號布告

第十六條 株式仲買人ノ身元金ハ貳百圓以上金銀仲買人ノ身元金ハ千圓以上タルヘシ同上
第十七條 仲買人ハ丁年者ニ限ルベシ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負債ノ義務
ヲ免レタル實證アルニ非サレハ入社ヲ許サ、ルベシ

第四章 役員ノコ

第十八條 取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取 肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條 取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會ニ於テ取引所ノ定規ニ從ヒ現ニ三十株
以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰擧シ肝煎ハ其同僚中ヨリ頭取壹人ヲ推擧シ其住所姓名
年齢等ヲ大藏卿ニ具申シテ其認許ヲ受クヘシ大藏卿ハ時トシテハ其改撰ヲ命スルコトアル
ヘシ

支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニアラサル者ヲ撰任スルコトヲ得
同上

第二十條 取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第二十一條 頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差違レヲ解キ違約者ヲ處分スルノ責任アリトス

第二十三條 取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ之ヲ定款
中ニ記載スヘシ

第五章 一般ノ規程

第二十四條 外國人ヲ取引所ノ株主並仲買人ト爲スコトヲ得ス

第二十五條 取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルベ
シ

第十四類 勸業

第廿六條

十四年第廿八號
布告ヲ以テ刪除

第廿七條

取引所ノ役員タルモノハ其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第廿八條

取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ

銀行並ニ諸會社(官許ヲ經テ
ル合本會社)ノ役員タルヲ得ス

第廿九條

取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サ

ス又之ヲ賣買スヘカラス

第三十條

政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀

行並諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ

營ムヘカラス

但本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ農商務卿ニ於

テ其賣買ヲ許可スルヲ得十三年第五十七
號布告但書追加

第三十一條

取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ大藏省ヘ預クヘキ公債證書

ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スヘカラス

第三十二條

取引所ハ諸證據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲナスヘカラス

第三十三條

取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタ

ル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止

ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其實ニ任スヘシ十三年
第廿號

布告ヲ以テ全條改正十五年六
十四號布告ヲ以テ又全條改正ス

第三十四條

取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行並諸會社及ヒ新立會

社ノ株式ヲ賣買スルノノ依頼ヲ受ルト雖モ其事情ニヨリ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ

權ヲ有ス

第三十五條

取引所ノ諸願何届又ハ諸證書約定書及往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件

ハ頭取肝煎等コレニ記名調印スヘキハ勿論ナレモ必ス其取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ

捺スヘシ

第六章 賣買取引ノ一

第三十六條

取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現物ノ受渡シ

ヲ爲スヘシ

但三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスヘカラス

第三十七條

凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五宛ニ

下ラサル證據金ヲ賣買雙方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限中相庭ノ高低等ニヨリテハ追證

據金増證據金等ヲ差入シムルヲ得ヘシ

第三十八條

約定取引ノ期限ニ至ツテハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡シノ手續ハ政府

又ハ諸會社ノ成規ニ照シ之ヲ履行スヘシ

第三十九條

約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ヘシト雖モ其期日ニ至レハ必ス現物ノ受

渡ヲ爲スヘシ

第四十條 賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ十五年第六十四號布告ヲ以テ全條改正

第七章 手数料ノ一

第四十一條 取引所ニ於テ領收スヘキ手数料ハ賣買雙方ヨリ其賣買金高現場取引ハ千分ノ一定期取引ハ千分ノ二宛ニ超ニヘカラス

第四十二條 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルコトヲ得ヘシ

第八章 検査ノ一

第四十三條 農商務卿ニ於テ要用ト思考スルキハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方長官ヘ達シテ其取引所ノ業體及ヒ金銀其他諸帖簿等ヲ検査セシムルコトアルベシ

第九章 帖簿ノ一

第四十四條 取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ田納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第四十五條 取引所ニ於テ製定使用スル處ノ諸帖簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務省ヘ届出ツベシ

第十章 諸報告ノ一

第四十六條 取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退並株主仲買人ノ姓名等ヲ大藏卿ノ指令スル處ニ從ヒ時々報告ヲナスヘシ

第十一章 納税ノ一

第四十七條 此取引所ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムベシ

第十二章 罰則

第四十八條 取引所ノ役員及株主並仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主並仲買人ノ此條例ニ背戾シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戾セシメタル實證アルキハ役員並ニ本人トモ其事ノ輕重ニ依リ三十圓ヨリ少ナカラズ千圓ヨリ多カラザル罰金ヲ科スベシ

第四十九條 官員検査ノ節取引所役員及ヒ仲買人等簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サハル者アルトキハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ同

第五十條 取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止ルモノトス同上布告ヲ以テ本條ヲ追加ス

但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ユルヲ得ス

○株式取引所税額ヲ定ム明治十一年九月二十日 第三拾號布告

本年^五第八號布告株式取引所條例第十一章ニ掲載スル税額ノ儀賣買手数料總金高十分ノ一ト相定メ本年七月ヨリ徵收候條此旨布告候事十五年第六十七號布告ヲ以テ(手数料)ノ下六字ヲ除キ上ニ二字ヲ加フ

但納期ハ一ヶ年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限り後半年分ハ一月三十一日限
リ其管轄廳ヘ可相納事

○洋銀取引所設立營業出願方
明治十二年二月十三日
第八號布告

從來神奈川縣下橫濱港ニ於テ洋銀相場取引致シ候者有之候處右ハ一切禁止候條自今洋銀
取引所設立營業致シ度者ハ昨十一月^五第八號布告株式取引所條例ニ照準シ農商務卿ヘ可
願出此旨布告候事^{四十三號布告ヲ以テ(大藏卿)ヲ農商務卿)ト改ム}

○金銀賣買取引ノ證據金モ株式取引所條例ニ遵フ
明治十三年四月十五日
第十號布告

明治十一年^五第八號布告株式取引所條例中左ノ通改正加除シ又明治十二年^二第八號布告
但書ヲ廢ス金銀賣買取引ノ證據金モ株式取引所條例ニ遵フヘシ此旨布告候事^{條件中改正}
本條ニ之
ヲ掲ク

○東京大阪橫濱神戸株式取引所ニ於テ當分ノ内定期金銀貨幣取引ヲ
許ス
明治十六年八月六日
第十號布告

東京大阪橫濱神戸株式取引所ニ於テ金銀貨幣取引ノ儀當分ノ内二箇月以内ノ定期取引差
許ス但其取引ニ係ル規程ハ農商務卿ノ認許ヲ受ク可シ

○橫濱取引所ヲ橫濱株式取引所ト改稱シ從來營業ノ外株式ノ賣買ヲ許ス
明治十三年九月十三日
大藏省甲第百貳號布告

株式取引所ノ儀ハ當分ノ内東京大阪ニ於テ一ヶ所宛ニ相限リ候旨明治十一年五月甲第拾四號ヲ以テ及布達置候處詮議
ノ次第有之候取引所ノ儀自今橫濱株式取引所ト改稱シ從來營業ノ外株式賣買差許候條爲心得此旨布達候事

○兵庫縣下神戸港ニ於テ株式取引所一ヶ所ヲ許ス
明治十六年七月三十日
第十號布告

明治十一年^五第八號布告株式取引所設立ノ儀更ニ今般兵庫縣下神戸港ニ於テ一箇所差許ス
右布達候事

○京都府下京都ニ於テ株式取引所一ヶ所ヲ許ス
明治十七年七月三日
第十號布告

明治十一年^五第八號布告株式取引所設立ノ儀更ニ今般京都府下ニ於テ一箇所差許ス
右布達候事

○沿革要領

明治七年十月第百七號布告ヲ以テ株式取引條例ヲ制定ス○十一年五月第八號布告ヲ以テ前令
ヲ廢シ更ニ株式取引所條例ヲ定ム

第百二十八 郵便條例
明治十五年十二月十六日
第五拾九號布告

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

郵便條例

第一章 郵便物

第一條 凡郵便物別テ四種ト爲ス

- 一 書狀
- 二 郵便葉書及往復葉書十八年第三十三號布告ヲ以テ(及)以下五字ヲ追加ス
- 三 毎月一回以上發行スル定時印刷物及其附録
- 四 書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫真、書畫、繪圖、野紙、營業品ノ見本及雛形
- 第二條 何品ヲ問ハス此條例ニ抵觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得
- 第三條 封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ
- 第四條 第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合装スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ
- 第五條 第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ
 - 一 裁斷又ハ破却シタルモノ
 - 一 税額印面ニ文字ヲ書シタルモノ
 - 一 税額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ
 - 一 紙配達又ハ返戻ノ爲其他ノ品ヲ貼付シタルモノ
 - 一 紙配達又ハ返戻ノ爲其他ノ品ヲ貼付シタルモノ
 - 一 葉ヲ折リ之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ
 - 一 表面ニ音信文ヲ記載シタルモノ
- 第六條 第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ証シテ驛遞總官ノ認可ヲ受ケ驛遞局認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標廻番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ其附録ハ其本紙ノ標廻番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサスシテ本紙ニ添付シ且本

- 紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ
- 第七條 第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス
- 第八條 第三種第四種郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ
- 第九條 營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ
- 第十條 營業者ニアラサルモノ、間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ
- 第十一條 異種ノ郵便物ヲ合装スルトキハ總テ其種類中高額税ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス
- 第十二條 郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス
- 第十三條 第三種第四種郵便物營業品ノ見本及雛形ヲ除クハ一個ノ重量三百目ニ超過スヘカラス
- 第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量四十八匁ニ超過スヘカラス
- 第十五條 郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス
- 第十六條 左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス
 - 一 毒藥、劇藥、流動物、流動爆發燃燒腐敗シ易キ物、字化スヘキ物、動物、植物、及鋒刃器硝子器、陶器等ノ損傷シ易ク又他ノ郵便物ヲ損害スヘキ物品
 - 一 風俗ヲ害スヘキ文書、畫圖、寫真及物品
 - 一 金銀、寶玉

一貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第二章 郵便税

第十七條 郵便税ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物 重量二匁毎ニ亦同シ 二錢

第二種郵便物 葉書 一葉（十八年第三十三號布告ヲ以テ葉書一錢トス） 一錢
往復葉書 一葉（ルヲ葉書一葉一錢往復葉書一葉二錢ト改ム） 二錢

第三種郵便物 一號一個重量十六匁毎ニ亦同シ 一錢
二號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ亦同シ 二錢

第四種郵便物 重量八匁毎ニ亦同シ 二錢

第十八條 郵便税ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書往復葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但驛遞總官ト約定アルモノハ此限ニアラス（同上葉書）ノ下（往復葉書）ノ四字ヲ加フ

第十九條 納税ニ用ヒタル郵便切手并封皮葉書往復葉書帶紙ノ税額印面ハ郵便局ニ於テ消印スヘシ同

第二十條 郵便税ニ過納アルモ已ニ其税額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第二十一條 未納税又ハ不足税ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ
受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納税ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十二條 未納税又ハ不足税ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ差立前ニ係ル未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ

第二十三條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納税又ハ不足税ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十四條 人民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ未納税又ハ不足税ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

第二十五條 未納税又ハ不足税ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第三章 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙

第二十六條 郵便切手郵便封皮郵便葉書往復葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ同

第二十七條 郵便切手封皮葉書往復葉書帶紙ハ郵便税納ノ証トナシ又郵便切手ハ書留手數料并別配達料納済ノ証トナスモノトス同

第二十八條 郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ税額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條 郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ税額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第三十條 郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條 郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ驛遞局ニテ賣下クヘシ

第三十二條 郵便切手封皮葉書往復葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ヲ受ケ郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ同上

第三十三條 郵便切手封皮葉書往復葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス同上

第三十四條 郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書往復葉書ノ印面税額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス同上

第三十五條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ノ税額印面ヲ切取り郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セス同上

第三十六條 郵便切手并封皮葉書往復葉書帶紙ノ汚斑毀損捺印アルモノ及税額印面不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レモ其未タ使用セサルモノニ限り二人以上ノ証人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシムルトキハ驛遞局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ同上

第三十七條 驛遞局及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手并封皮葉書往復葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ同上

第四章 免稅郵便

第三十八條 郵便郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其稅ヲ免除ス

第三十九條 免稅郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所并以上各廳派出官吏相互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限ルヘシ

第四十條 免稅郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四十一條 官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免稅郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條 人民ヨリ差出ス免稅郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條 免稅郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有稅郵便物ヲ附シタルモノハ相當種類ノ郵便稅ヲ徵收スヘシ

第五章 書留郵便

第四十四條 書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ニ登記シ遞送配達ノ受授ヲ証スルモノトス

第四十五條 書留手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラス六錢トス

第四十六條 書留郵便物ハ郵便稅手數料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條 書留手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第四十八條 書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便局若クハ郵便受取所ニ於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル受取證書ヲ受領スヘシ

第四十九條 書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタル受取證書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條 免稅郵便物ハ書留手数料ヲ納ムルニ及ハス

第六章 郵便物遞送配達

第五十一條 郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第五十二條 郵便局ノ廢置ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條 郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモノハ其内ノ一名ニ配達スヘシ肩書寄宿所ノ類以下之ニ依リアルモノハ其肩書ノ家ニ配達スヘシ

第五十四條 完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免稅郵便物亦同シ但市外別配達料解船料貨幣遞送配達賃ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物受取人ニ於テ其稅ヲ納メサルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス

第五十六條 郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脱シ或ハ音信文ヲ讀過スルトキハ之ヲ受取リタルモノトナスヘシ但第百十五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條 郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ニ過クヘカラス

第五十八條 其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五十九條 配達シ能ハス或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之ヲ其内ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條 第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第六十一條 差立前ニ係ル郵便物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第六十二條 第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六十三條 遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス

第六十四條 郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委託スヘカラス又集配人ハ其委託ヲ受クヘカラス

第六十五條 郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之カ秤量ヲナサス

第六十六條 郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ遲達ヨリ生シタル損失ハ驛遞局之ヲ償フノ責ニ任セス

第六十七條 書狀ハ郵便局ヲ經由セサレハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

一送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ
一郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第六十八條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

一第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セサル額

第六十九條 郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便局ニ届出ツヘシ

第七十條 時期ヲ定メテ郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス

第七十一條 郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條 郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條 郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノ郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮帶紙又ハ葉書ノ交付ヲ求メラルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章 別配達郵便

第七十四條 別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラズ別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條 別配達別テ二種ト爲ス

一市内郵便局別配達

一市外郵便局別配達

第七十六條 市内別配達料ハ東京京都及大阪ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條 市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス十八町未滿亦同シ

第七十八條 別配達ハ郵便税並別配達料共前納ニ限ルヘシ

第七十九條 別配達料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第八十條 市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徴收スヘシ

第八十一條 市外別配達料不足額ヲ徴收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付

シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ。

第八十二條 船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ解船料ヲ受取人ヨリ徴收スヘシ

第八十三條 市外別配達料不足額又ハ解船料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徴收スヘシ

第八十四條 別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ解船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八十五條 別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條 甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達トナスヘシ

第八十七條 市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條 市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條 別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スヘシ

第九十條 別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條 免税郵便物ハ別配達料解船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章 郵便私書函

第九十二條 郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條 私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セス私書函ニ入置クヘシ

第九十四條 私書函貸與料ハ一ヶ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第九十五條 私書函貸與期限ハ一ヶ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條 私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納税不足税ノ郵便物ハ私書函ニ入レスシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條 私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一箇ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條 私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章 留置郵便

第九十九條 留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第一百條 留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ

第一百一條 留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ

第一百二條 留置郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ

第百三條 未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第百四條 留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ

留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章 貨幣封入郵便

第百五條 貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送配達セシムルモノトス

第百六條 貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣遞送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第百七條 貨幣遞送賃及配達賃額ハ驛遞總官各郵便局ニ揭示スヘシ

第百八條 封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘカラス

第百九條 封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第百十條 貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ

第百十一條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第百十二條 貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ証トシテ受授スヘシ

第百十三條 貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル員數證書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送賃ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取證書ヲ受領スヘシ

第百十四條 本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數證書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上捺スヘシ

第百十五條 貨幣封入郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アルヲ郵便局ニテ見出シ又ハ推察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送賃及ヒ配達賃ヲ受取人ヨリ徵收スヘシ

第百十六條 貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ヲ得ス其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額并還付ノ貨幣遞送賃及配達賃ヲ徵收スヘシ

第百十七條 貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送賃及前後ノ配達賃ヲ徵收スヘシ

第百十八條 貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル証書ハ証券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第百十九條 貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第百二十條 貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責

ニ任セス

第百二十一條 郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第百二十二條 貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒタルトキハ強盜難其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實証アルモノハ外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第十一章 郵便沒書

第百二十三條 郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ没入スルモノトス

第百二十四條 驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尙ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百二十五條 沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ

沒書中貨幣或ハ諸証書又ハ有價ノ物品アルトキハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シニケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第百二十六條 沒書ヲ一ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ及沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ没入スヘシ

第百二十七條 沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸証書ハ手数料ヲ徴收セスト雖モ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十

分一ヲ手数料トシテ徴收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第百二十八條 沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ但驛遞局ニ於テ証人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章 郵便爲替

第百二十九條 郵便爲替ハ驛遞總官ノ指定スル郵便局ニ於テ取扱フモノトス

第百三十條 爲替ヲ取扱フ郵便局ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百三十一條 爲替証書一枚ノ金額ハ三十圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限リトス

第百三十二條 爲替料ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ及爲替ヲ取扱フ郵便局ニ掲示スヘシ

第百三十三條 同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ宛テ同一ノ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ振出ハ一日金額三十圓ニ超過スヘカラス

第百三十四條 爲替差出人ハ郵便局ニ設ケアル爲替願書用紙ニ式ノ如ク記載調印シ爲替金及爲替料ト共ニ先ツ之ヲ主務者ニ交付シ後ニ爲替証書ヲ受領スヘシ

第百三十五條 爲替証書ハ其差出人ヨリ受取人ニ送付スヘシ

第百三十六條 爲替差出人ハ其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルヲ得但爲替料ハ返付セス

第百三十七條 爲替受取人其爲替証書ニ記載シタル拂渡局ニテ爲替金ヲ受取ルニ不便ナルトキ又爲替差出人其振出局ニ爲替金ノ返戻ヲ請求スルニ不便ナルトキハ驛遞局ニ其証書

ヲ納付シテ書換ヲ請求シ更ニ爲替金ヲ受取ルニ便ナル局ニ宛テタル証書ヲ受クルヲ得
第三百二十八條 爲替金ノ拂渡及返戻ハ其爲替証書ト引替ニ限ルヘシ但郵便局ニ於テ証人ヲ
要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第三百二十九條 爲替受取人ハ其爲替証書ニ式ノ如ク記名調印スヘシ爲替差出人爲替金ノ返
戻ヲ受ルトキ亦同シ

第三百四十條 爲替報知書ニ記載セル諸件ヲ明瞭ニ答ヘ能ハサルモノハ其爲替金ヲ受取ルヲ
得ス

第三百四十一條 代人ヲ以テ爲替金ヲ受取ル者ハ其爲替証書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調
印シ且代人ハ第三百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第三百四十二條 官衙社寺會社ニ宛テタル爲替金ヲ受取ルトキハ其爲替証書ノ裏面ニ官衙社
寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且之ヲ受取ル所屬人ハ第三百三十九條ノ手續ヲナスヘシ

第三百四十三條 官衙社寺會社ノ受取ルヘキ爲替金ニシテ其官衙社寺會社ノ名稱ヲ附記シ其
所屬人ニ宛テタルトキ宛名人自ラ受取ル能ハス又第三百四十一條ニ依ル能ハサルトキハ第
百四十二條ニ依ルヲ得

第三百四十四條 官衙社寺會社若クハ其所屬人ノ名ヲ以テ差出シタル爲替金ノ返戻ヲ受クル
トキモ第三百四十二條第三百四十三條ノ手續ニ依ルヘシ

第三百四十五條 爲替証書ノ効用ハ其証書ノ日附ヨリ百二十日ヲ限リトス

第三百四十六條 効用ヲ失ヒタル爲替証書ハ差出人又ハ受取人ヨリ驛遞局ニ納付シ其書換ヲ
請求スヘシ

第三百四十七條 爲替証書ノ効用ヲ失ヒタル日ヨリ二ケ年以内ニ其書換ヲ請求セサルトキハ
驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年内ニ爲替証書ノ書換ヲ請求スルトキハ其爲替金十分ノ一ヲ手数料
トシテ徴收スヘシ

其公告ノ日ヨリ三ケ年ヲ過ルモ尙ホ其爲替証書ノ書換ヲ請求セサルトキハ其爲替金ヲ没
入スヘシ

第三百四十八條 爲替証書ヲ失ヒタルトキ又ハ汚損毀損シ判明ナラサルトキハ差出人ニ於テ
証人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ證明シ更ニ再度ノ証書ヲ請求スヘシ

第三百四十九條 爲替金ヲ返戻シ又ハ証書ヲ書換ヘ或ハ再度ノ証書ヲ交付スルハ其原証書ニ
對スル報知書ヲ取戻シタル後ニ限ルヘシ

第三百五十條 爲替証書ノ書換又ハ再度ノ証書ヲ請求スルトキハ更ニ相當ノ爲替料ヲ納ムヘ
シ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ更ニ爲替料ヲ納ムルニ及ハス

爲替証書ノ書換及再度ノ証書ヲ同時ニ請求スルモ兩様ノ爲替料ヲ納ムルニ及ハス
第三百五十一條 再度ノ爲替証書ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル爲替証書ヲ見出シタルトキハ
之ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百五十二條 爲替資金ノ都合ニ因リ爲替金ノ涉方順延スルコトアルヘシ
第百五十三條 爲替証書又ハ報知書ニ失誤アルカ或ハ其報知書未達ノトキハ爲替金ノ拂渡
ヲ延引スヘシ

第百五十四條 爲替金ノ受渡ニ屬スル証書ハ証券印稅ヲ納ムルニ及ハス
第百五十五條 郵便爲替ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任
セス

第百五十六條 此章ノ規則ニ從ヒ爲替金ヲ渡シタル後ハ其渡方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞
局ハ其實ニ任セス

第十三章 驛遞局貯金

第百五十七條 驛遞局貯金ハ驛遞總官ノ指定スル貯金預所ニ於テ取扱フモノトス

第百五十八條 貯金預所ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

第百五十九條 一人一度ノ預ケ金額ハ十錢以上トシ端數ハ厘位ヲ限リトス
一日ノ預ケ金額ハ五十圓以下トス

第百六十條 一度ニ五十圓以上ヲ預ケントスルモノハ其都度貯金預所ニ設ケアル願書用紙
ニ式ノ如ク記載調印シ驛遞總官ノ認可ヲ請フヘシ

第百六十一條 貯金ニハ利子ヲ付ス其利子ノ割合ハ驛遞總官之ヲ定メ新聞紙ヲ以テ公告シ
且貯金預所ニ揭示スヘシ但十錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セス

第百六十二條 貯金ヨリ生シタル利子ハ毎年六月十二月ニ於テ之ヲ元金ニ加ヘ驛遞局ノ原
簿ニ登記スヘシ

第百六十三條 貯金ハ預リタル月ト拂戻ス月ハ利子ヲ付セス但驛遞局ヨリ拂戻証書ヲ發シ
タル月ヲ以テ拂戻月トナスヘシ

第百六十四條 貯金ヲ拂戻ストキ厘位未滿ノ端數ハ切捨ツヘシ

第百六十五條 始テ預ケ金ヲナスモノハ貯金預所ニ設ケアル預ケ願書用紙ニ式ノ如ク記載
調印シ之ヲ其貯金預所ニ出スヘシ但印判ヲ所持セサルモノハ引受人ヲ立ツヘシ

第百六十六條 貯金預ケ人ハ貯金預所ニ於テ貯金通帳ヲ受領シ其表紙ニ式ノ如ク記載調印
シ此通帳ヲ預ケ金ヲ爲ス毎ニ預ケ金ト共ニ貯金預所ノ主務者ニ交付シ預ケ金ノ記入ヲ受
ケ其通帳ヲ所持スヘシ

第百六十七條 貯金通帳ハ預ケ金受授ノ証トナスヘシ

第百六十八條 貯金預所ニ於テ預ケ金ヲ受取ルトキハ通帳ニ其金額及年月日ヲ記入シ貯金
預所ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印スヘシ

第百六十九條 一ノ貯金預所ヨリ受領シタル通帳ヲ以テ何レノ貯金預所ニモ預ケ金ヲナス
ヲ得

第百七十條 既ニ貯金通帳ヲ受領シ所持セルモノハ何レノ貯金預所ニ於テモ別ノ通帳ヲ受
領スルヲ得ス

第七十一條 貯金通帳金額記載ノ部餘白ナキニ至リ更ニ通帳ヲ要スルトキハ驛遞局ニ其通帳ヲ差出シ再度ノ通帳ヲ請求スヘシ

第七十二條 貯金預ケ人ハ滿六ヶ月毎ニ驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ原簿照合及利子記入ヲ受クヘシ

第七十三條 預ケ金ヲナストキハ驛遞局ノ原簿ニ登記シ且貯金領收通知書ヲ其預ケ人ニ送達スヘシ

第七十四條 貯金預ケ人ハ預ケ金ヲナシタル日ヨリ左ノ期日内ニ貯金領收通知書到達セサルトキハ其期日ヨリ十五日内又到達スルモ記載ノ金額並年月日ニ相違アルトキハ到達ノ日ヨリ十五日内ニ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ但申告書ハ郵便局ニ出シ其受取証書ヲ受領スヘシ

一東京 十日

一東京ヨリ百里未滿 三十日

一東京ヨリ百里以外 六十日

第七十五條 第七十四條ノ申告書ヲ出サハルトキハ其預ケ金額驛遞局ノ原簿ニ登記ナキカ或ハ原簿登記ノ金額年月日ト其預ケタル金額年月日ト符合セサルモ驛遞局ハ原簿ニ登記シタルモノ、外其實ニ任セス

第七十六條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金預所ニ於テモ其貯金全額若クハ幾分ノ拂戻ヲ請求

スルヲ得但未タ元金ニ加ヘサル利子ハ貯金ノ全額ヲ拂戻ストキニアラサレハ之ヲ受取ルヲ得ス

第七十七條 貯金拂戻願人ハ貯金預所ニ設ケアル拂戻願書用紙ニ金額其他式ノ如ク記載調印シ通帳ヲ添ヘ貯金預所ヲ經由シテ驛遞局ニ出スヘシ但貯金預所ヨリ通帳ノ受取証書ヲ受領スヘシ

第七十八條 第七十七條ノ拂戻願書及通帳ヲ驛遞局ニ於テ領收シタルトキハ貯金拂戻証書ヲ拂戻願人ニ送達スヘシ

第七十九條 貯金ノ全額ヲ拂戻ストキハ通帳ヲ返付セス又其幾分ヲ拂戻ストキハ驛遞局ニ於テ其通帳ニ拂戻金額及年月日ヲ記載シ官印ヲ捺シ且主務者記名調印シ貯金預所ヲ經由シテ返付スヘシ

第八十條 貯金拂戻願人ハ拂戻証書ニ式ノ如ク記名調印シ貯金預所ニ交付シ拂戻金ヲ受取ルヘシ

第八十一條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ルモノハ拂戻証書ノ裏面ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ且代人ハ第八十條ノ手續ヲナスヘシ

第八十二條 拂戻金ハ其拂戻証書ノ日附ヨリ左ノ期日内ニ受取ルヘシ期日ヲ失スルトキハ更ニ驛遞局ニ其証書ノ書換ヲ請求スヘシ但郵便遞送中ニ生シタル事故ニ因ルモノハ此限ニアラス

一東京

十五日

一東京ヨリ百里未滿

廿五日

一東京ヨリ百里以外

四十日

第百八十三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其相續人ニ於テ証人ヲ立テ相續人タルヲ証スル書面ヲ出シ且其相續人ハ第百七十七條ノ手續ヲナシ貯金拂戻ヲ請求スヘシ

第百八十四條 預ケ金ヲナストキ引受人ヲ立ツルモノハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ氏名ヲ記シ其引受人亦記名調印スヘシ

第百八十五條 社寺會社ノ名ヲ以テ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ社寺會社ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ且擔當者一名記名調印スヘシ

第百八十六條 二人以上共同シテ預ケ金ヲナストキハ預ケ願書及拂戻願書其他調印ヲ要スル書類ニ其總代人一名記名調印シ且共同者中ノ一名記名加印スヘシ

第百八十七條 社寺會社及共同ノ貯金ハ其社寺會社若クハ其總代人ヲ以テ一個ノ預ケ人ト看做スヘシ

第百八十八條 貯金預ケ人氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ其屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百八十九條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者氏名變換改印轉籍轉住スルトキハ貯金預ケ人連印引受人アル貯金預ケ人ハ氏名ノミ連記ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十條 貯金預ケ人ノ引受人社寺會社ノ貯金擔當者共同貯金ノ加印者變更アルトキハ後任者及貯金預ケ人連印引受人アル貯金預ケ人ハ氏名ノミ連記ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十一條 共同貯金ノ總代人ヲ變更セントスルトキハ前任後任ノ總代及加印者連印ノ願書ヲ驛遞局ニ出スヘシ但前任ノ總代人連印スル能ハサルトキハ証人ヲ立ツヘシ

第百九十二條 貯金預ケ人其引受人ヲ解カントスルトキハ印鑑ヲ添ヘ其引受人連印ノ屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十三條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ速ニ其屆書ヲ驛遞局ニ出スヘシ

第百九十四條 貯金通帳又ハ貯金拂戻證書ヲ失ヒタルトキ或ハ汚斑毀損シテ判明ナラサルトキハ証人ヲ立テ驛遞局ニ其事由ヲ証明シ再度ノ通帳又ハ拂戻證書ヲ請求スヘシ

第百九十五條 貯金通帳ヲ失ヒタルトキハ再度ノ通帳ヲ發シタル日ヨリ九十日間其貯金ノ拂戻ヲ請求スルヲ得ス

第百九十六條 再度ノ貯金通帳ヲ受領セシ後前キニ失ヒタル通帳ヲ見出シタルトキハ舊通帳ヲ驛遞局ニ納付スヘシ

第百九十七條 驛遞局ニ貯金通帳ヲ差出シ又ハ再度ノ通帳或ハ貯金拂戻ヲ請求シタル場合ニ於テ第百七十四條ニ記載シタル期日內ニ通帳返付ナキカ又ハ再度ノ通帳或ハ拂戻證書

到達セサルトキハ驛遞總官ニ宛テ其申告書ヲ出スヘシ

第百九十八條 貯金通帳ハ賣買讓與又ハ書入質入スルヲ許サス

第百九十九條 驛遞局又ハ貯金預所ニテ証人ヲ要スルトキハ貯金預ケ人之ヲ拒ムヘカラス

第二百條 貯金ノ受渡ニ屬スル証書ハ証券印税ヲ納ムルニ及ハス

第二百一條 貯金拂戻方延滞シ爲メニ預ケ人ノ損失ヲ生スルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第二百二條 此章ノ規則ニ從ヒ貯金ヲ拂戻シタル後ハ其拂戻方ニ就キ異議ヲ唱フルモ驛遞局ハ其實ニ任セス

第十四章 外國郵便

第二百三條 凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

一 書狀

二 郵便葉書及往復葉書十七年第三十三號 布告及以下追加

三 書籍各種ノ印刷物、寫眞、畫圖

四 詞訟上及商用上ノ書類

五 商品ノ見本

第二百四條 何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ牴觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條 第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條 第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百七條 第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條 第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニ「キログラム」凡五百三十二凡五百三十二ニ超過スヘカラス

第二百九條 第五項郵便物ノ大サハ長二十「センチメートル」凡曲尺六寸幅十一「センチメートル」凡三寸三分三厘厚五「センチメートル」凡六寸四分六厘又其重量ハ二百五十「グラム」凡六十六凡六十六ニ超過スヘカラス

第二百十條 第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

第二百十一條 第二項郵便物ハ萬國郵便聯合葉書往復葉書ヲ用ユヘシ同上布告ヲ以テ葉書ノ四字ヲ加

第二百十二條 第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條 第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條 左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス

一 貨幣又ハ高價ノ物品

一 關稅ヲ拂フヘキ物品

一 第十六條第一項第二項及第三項ニ記載シタルモノ

第二百十五條 郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便税ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條 郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便税完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便税ハ此限ニアラス

第二百十七條 第二百八條第二百九條第二百十條第二百十三條第二百十五條第二百十六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納税又ハ不足税ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條 書留郵便物ハ郵便税書留手数料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條 郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取証書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便税書留手数料ノ外増手数料ヲ前納スヘシ

第二百二十條 郵便税書留手数料及増手数料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條 郵便税書留手数料増手数料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ驛遞總官公告スヘシ

第二百二十二條 書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ内國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノハ外之ヲ紛失シタル國ノ驛遞局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フランク」(「フランク」ハ若

クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ償金ヲ拂フヘシ

書留郵便物紛失ノ償金ヲ拂フヘキ約定アル外國ヨリ内國ニ到達スル書留郵便物ヲ内國遞送中紛失シタルトキ亦同シ

第二百二十三條 軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一 第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額

一 第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

第二百二十四條 第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便葉書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條 第十二條第十九條第二十條第二十一條第三項第二十二條第二十五條第四十四條第四十八條第五十一條第五十九條第六十一條第六十三條第六十四條第六十六條第六十七條第六十八條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第百條及第一章ノ規則ハ内國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百二十六條 第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條第六十七條第六十八條第七十三條第九十九條第百條第百一條第百四條第一項及第八章ノ規則ハ償金ヲ除ク

外國ヨリ内國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章 罰則

刑法第六十三條參看

第二百二十七條 第十六條第三十三條第三十四條第六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條 第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條 第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條 第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 懈怠故意ヲ問ハヌ第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條 郵便封皮葉書往復葉書帶紙ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス同

第二百三十四條 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ
第二百三十五條 郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハヌ郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條 疎虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十七條 有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐偽ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十八條 不良ノ事ヲ行ハンカ爲メ郵便ヲ用ヒタルモノハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

行フ處不良ノ罪重キモノハ重キニ從テ論ス

第二百三十九條 驛遞總官ノ認可ヲ得スシテ郵便物ニ驛遞局認可ノ文字ヲ用ヒタルモノハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便物運送ニ使用セサル船車ニ郵便ノ記章又ハ郵便ノ文字ヲ用ヒタルモノ亦同シ

第二百四十條 未納稅又ハ不足稅及ヒ別配達料解船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ五日內ニ納メサルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ヲ奉スルモノ徵收スヘキ郵便稅別配達料解船料貨幣遞送配達賃私書函貸與料ヲ徵收セサルトキ亦同シ

第二百四十一條 郵便事務ヲ奉スルモノ郵便物ニ貼用セル郵便切手ヲ剝取ルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其未タ消印ヲナサハル切手ヲ剝取ルモノハ刑法竊盜ノ本條ニ照シテ處斷ス

第二百四十二條 郵便爲替事務ヲ奉スルモノ郵便爲替金及爲替料ヲ領收セスシテ爲替證書ヲ振出シ又ハ爲替證書ヲ受取ラスシテ爲替金ヲ渡シタルトキハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

驛遞局貯金ノ事務ヲ奉スルモノ預ケ金ヲ領收セスシテ貯金通帳ニ預ケ金ノ記入ヲナシ又ハ拂戻證書ヲ受取ラスシテ貯金ヲ拂渡シタルトキ亦同シ

第二百四十三條 郵便事務ヲ奉スルモノ諸般ノ計數ヲ偽ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 郵便物ニ押用セサル印面ヲ變換シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十五條 郵便配達人配達先ニ於テ謝儀ヲ要求シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十六條 郵便函郵便行囊其他郵便ノ器械ヲ毀損汚穢シタルモノハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十七條 渡船人郵便物ノ渡津ヲ怠慢遲緩シタルトキハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百四十八條 第二百三十三條第二百三十七條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルモノハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百四十九條 第二百三十條第二百三十三條第二百三十七條第二百四十一條第二百四十二條第二百四十三條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第二百五十條 本章罰則ノ外刑法ニ正條アル者ハ刑法ニ據テ處斷ス

○郵便線路里程表 明治十四年九月十四日
第七拾九號官官院(使)廳府廳(達)

東京ヨリ各府縣ヘノ郵便線路里程表明治九年三月二十四號ヲ以テ相違點候處爾後道路變換里程伸縮相生シ候ニ付別表ノ通改正候條此旨相違候申

別表

東京ヨリ各府縣へノ實測里程一覽表

府縣名	元標地名	里	府縣名	元標地名	里
東京	日本橋		福島	上町	陸羽街道通リ 七〇ノ三〇〇五多三
京都	三條大橋	東海道通リ 一三〇ノ二四〇四〇多四	岩手	紺屋町	仙道通リ 一四〇ノ一九〇四六多
大坂	高麗橋	京都ヲ經テ 一四三ノ二六〇二二多一	青森	米町	全 一九一ノ二七五〇多三
神奈川	本町	神奈川ヲ經テ 八ノ一七三三三多三	米澤	米澤通リ	二〇二ノ二二七三七多二
兵庫	市場町	京都ヲ經テ 一五三ノ二七二四多	山形	七日町	全 九四ノ三四七五二多
長崎	外浦町	京都及ヒ小倉ヲ經テ 三四五ノ三三三二一多五	秋田	大町	全 一五〇ノ〇一七五一多
新潟	本町	三國通リ 八九ノ一六〇四多五	福井	照手上町	名古屋及ヒ香取ヲ經テ 一四〇ノ三四〇三多二
埼玉	中町	若松ヲ經テ 一〇〇ノ一九七一七多三	石川	尾張町	高田ヲ經テ 一二七ノ二二二二二多三
千葉	本町	中山道通リ 六ノ〇三三二〇多一	島根	松江	名古屋及ヒ福井ヲ經テ 一六三ノ一四二六多三
茨城	七軒町	市川ヲ經テ 一〇ノ一四三二多四	岡山	橋本町	京都及ヒ姫路ヲ經テ 一八九ノ二四七一五多四
		土浦通リ 二九ノ三三二一六多二	廣島	細工町	全 二二三ノ三三五四一多一
		熊谷及ヒ伊勢崎ヲ經テ 二八ノ〇六〇五多			
		小山ヲ經テ 二二三ノ一九〇八多四			
		四日市ヲ經テ 一一二ノ一七五五多三			
		熱山ヲ經テ 九四ノ〇六七一三多四			
		東海道通リ 四六ノ一〇二五多			
		甲州街道通リ 三五ノ一九三三四多五			
		東海道通リ 一二七ノ三四七五多四			
		名古屋ヲ經テ 一〇三ノ二六三三八多三			
		中山道通リヲ經テ 五八ノ三三三九五多二			
		陸羽街道福島ヲ經テ 九二ノ二九三三九多			

ノ里位丁位ニ附位以下尺位

沖繩縣

群馬	連雀町	熊谷及ヒ伊勢崎ヲ經テ 二八ノ〇六〇五多	山口	大市町	京都及ヒ廣島ヲ經テ 二六九ノ一六〇四三多一
椋木	倭町	小山ヲ經テ 二二三ノ一九〇八多四	和歌山	京橋	大坂ヲ經テ 一六一ノ〇六七一四多四
三重	陽示場	四日市ヲ經テ 一一二ノ一七五五多三	徳島	西横町	明石ヲ經テ淡路通リ 一八二ノ三三三三五多
愛知	鐵砲町	熱山ヲ經テ 九四ノ〇六七一三多四	愛媛	札ノ辻	下津井及ヒ丸龜ヲ經テ 二四八ノ三三三〇一四多二
静岡	吳服町	東海道通リ 四六ノ一〇二五多	高知	陽示場	全 二三九ノ二七七五二多四
山梨	錦町	甲州街道通リ 三五ノ一九三三四多五	福岡	橋口町	小倉及ヒ山家ヲ經テ 三一ノ二九一五多三
滋賀	上京町	東海道通リ 一二七ノ三四七五多四	大分	碩田橋	京都及ヒ小倉ヲ經テ 三二〇ノ二六七一〇多一
岐阜	白木町	名古屋ヲ經テ 一〇三ノ二六三三八多三	熊本	新町	小倉及ヒ久留米ヲ經テ 三三三ノ二八七一〇多
長野	大門町	中山道通リヲ經テ 五八ノ三三三九五多二	鹿児島	山下町	小倉及ヒ熊本ヲ經テ 三八八ノ二六三〇二多二
宮城	大町	陸羽街道福島ヲ經テ 九二ノ二九三三九多			

○官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ差出ストキ取扱方 明治十六年十一月九日 第三拾六號布達

官報ヲ購求シ更ニ郵便ニ差出ストキハ第三種郵便物ト爲シテ取扱ヒ其冊子ト爲シ又ハ本紙ノ重量ニ超過シタル附録ハ第四種郵便物ト爲シテ取扱フヘシ

右布達候申

○驛傳營業組合準則 明治十七年十一月二十六日 農商務内務省第三拾五號審視廳府縣へ達

明治八年五月三十日陸運會社解散以後驛傳取締上一定ノ規則不相立候處行旅ノ不便運輸ノ不利不少候趣ニ付今般左ニ驛傳營業取締規則相示候條右準則ニ基キ驛傳營業取締規則取設ケ農商務卿へ届出ツヘシ此旨相達候申

但該取締規則取設ケテ要セスト認ムルハ其事由詳細申出ツヘシ
驛傳營業取締規則

第壹條 驛傳營業取締ノ爲メ驛ニ據リ該營業人(陸運受負人馬糶立及旅人)ヲ便宜分割シテ其組合ヲ爲サシムヘシ但驛ニ據ル能ハサルモノハ別ニ其組合ト爲スヲ得ヘシ

第貳條 驛ニハ組合營業人ヲシテ驛傳取締所ヲ設立セシムヘシ但驛ニ據ラサル組合ニ於テハ驛外ノ地ニ設立セシムヘシ

第三條 驛傳取締所ハ驛傳營業ノ取締ヲナシ又驛傳營業ヲ兼ヌルヲ得ヘシ

第四條 驛傳營業人組合ニハ驛傳取締人ヲ置カシムヘシ

第五條 驛傳取締人ハ其組合及驛傳取締所ノ事務ヲ掌理スヘキモノトス

第六條 驛傳取締人定員選舉方法及事務條項ハ管轄廳ニ於テ便宜之ヲ定ムヘシ

第七條 各組合營業人ニハ規約書ヲ設ケシメ認可ノ上農商務省ニ届出ツヘシ

第八條 組合營業人規約書ニハ左ノ諸項ヲ詳記セシムヘシ
一 諸實錢定額
一 驛傳取締所及組合事務條項
一 驛傳取締所及組合事務條項
一 前諸項ノ外營業上必要ノ件

第九條 驛傳營業人組合及驛傳取締所ノ費用并ニ驛傳取締人ノ手當等ハ組合營業人ニ負擔セシムルヲ得ヘシ
第十條 驛傳營業人ニシテ組合外ノ地ニ到リ營業スルハ其地組合規則ニ從ハシムヘシ

第十一條 驛傳營業人ニ非サル者ニハ實錢若クハ手数料ヲ受テ驛傳營業ヲ爲サシムヘカラス

第十二條 此規則ニ據テ定ムル驛傳營業取締事務條項ノ外各種驛傳營業人取締規則ヲ設クヘシ

第拾三條 此規則ニ基キ警視廳監府知事縣令ニ於テ取設ケタル取締規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰スルノ外營業ヲ停止シ又ハ禁止スヘシ

○諸運輸營業ニ關スル取締規則等施行ノ節届出方 明治十七年三月十日 農商務省第五號警視廳府縣へ達

街道橋梁車馬行旅宿泊其他運輸營業ニ關スル諸取締規則等施行致候節ハ自今必ス當省へモ可届出候ト可相心得此旨相達候事
但從前施行致候向ハ來四月三十日限取纏メ差出スヘシ

●伺指令

●驛傳取締所設置方ノ儀ニ付石川縣ヨリ農商務省へ伺 十七年十二月十日

今般御省第三十五號ヲ以テ驛傳取締規則御達相成右驛傳取締所ノ儀ハ各驛ニ於テハ必ス設置スヘキハ勿論ニ候得共從來驛稱ノ名義アルト雖モ小驛ニシテ僅カノ營業者アリ取締所設置スルモ其費用從ツテ僅少實際困難ノ箇所ハ隣驛ト組合該取締所ノ取締ヲ受ケ驛稱ハ從來ノ儘存在シ可然儀ニ候哉且準則第一條驛ニ據リ便宜分割シテ其組合ヲ爲ストハ便宜管下ヲ幾區區トナシ從來營業人無之村落ト雖モ豫メ區區ヲ定メ置若シ營業ナサント欲スル者ハ尤モ其地組合規則ニ從ヒ其取締所ノ取締ヲ受ケシメ可然哉

指令 十八年二月四日
伺之趣左ノ通可心得事

但主管事務ニ付當省限及指令候事

一 前段小驛ト雖モ隣驛ト組合該取締所ノ取締ヲ相受ケ候義ハ不相成筋ト心得ヘシ
但驛傳營業人稀少ニシテ取締所ノ費用支出ニ困難ナル小驛ハ此際其驛稱廢合ノ見込相定メ別段伺出ツヘシ
一 後段邊則第壹條驛ニ據リ便宜分割トハ管下所在ノ驛又ハ驛外ノ地ヲ本據トシ其近傍ニ居住セル現在驛傳營業人ヲ便宜分割スル義ニ有之候得共取締上ノ都合ニ依リ豫メ管下所在ノ各村落ヲ分割シテ組合區區ヲ定メ置モ

妨ナレトス尤施行ノ上ハ詳細届出ツヘシ

●驛傳營業取締規則ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ農商務省ヘ伺 十八年二月五日

昨年貴省第三拾五號ヲ以テ御達相成候驛傳營業取締規則中第拾條ニ驛傳營業人ニシテ組合外ノ地ニ到リ營業スル時ハ其地組合規則ニ從ハシム可シト有之右ハ甲地組合營業者ニシテ甲地ヲ去リ乙地ニ轉居スル時ハ乙地組合規則ニ從ハシム可シトノ旨意ニ候哉又ハ轉居セスト雖モ甲地ノ者假令ハ人力車夫ニシテ客ヲ乘セ乙地ニ到リ乙地ニ於テ又他ノ需ニ應シ營業スル等ノ事アル時ハ其地組合規則ニ從ハシム可シトノ旨意ニ候哉聊疑義ニ涉リ候ニ付相伺候也
指令 十八年三月九日

伺之趣轉任スルトセサルトニ均ハラス組合外ノ地ニ到リ營業スルハ其地組合規則ニ從ハシムヘキ儀ト可心得
但甲地ヨリ乙丙ノ兩地ヲ經テ丁地ニ直行スルカ如キ場合ニ於テハ其途中乙丙ノ組合規則ニ從ハシムルニ及ハサル儀ト心得ヘシ

●宿驛設置ノ儀ニ付茨城縣伺 十八年一月十六日

驛傳營業取締方ノ儀ニ付客年御省第三拾五號御達ノ趣モ有之候處右御達第一條ニ驛傳營業取締ノ爲メ驛ニ據リ該營業人ヲ便宜分劃シテ其組合ヲ爲サシムヘシト有之候得ハ成ルヘクタケ從前ノ驛宿ニ據リ組合ヲ立ツヘキ儀トハ被存候得共明治十一年第拾七號ヲ以テ郡區町村編制法御頒布相成候以來行政區域即チ郡區ノ下ニハ町村アルノミニテ宿驛ノ名稱ハナキモノ、如クニ相成候得共今日驛傳ヲ取締ヲ立ントスルニ際シ其町村ニ寄リテハ更ニ驛名ニ改稱候モ不苦哉果シテ御答支無之儀ニ候ハ、箇所限リ取調更ニ可相伺候得トモ先以テ此段相伺候也
指令 十八年三月二十三日

伺之趣驛傳取締ノ爲メ現在ノ町村ヲシテ驛名ニ改稱スルハ不相成儀ト可心得
但驛傳ノ爲メ特ニ驛ト稱スルハ此限ニアラス

●沿革要領

明治元年七月六日布告ヲ以テ諸道縣脚賃額ヲ定ム○同年九月十二日驛遞司ヨリ驛遞規則ヲ頒布
錢ヲ定ム○二年五月布告兩京間定便五十ノ日ヲ四九ノ日ト改ム○三年二月廿三日民政部省達ヲ以テ東西兩京毎月六日限リ御用便ヲ人足ニ擬替十日限リ宿驛ト爲ス○四年正月廿四日布告ヲ以テ郵便ヲ開キ郵便切手ヲ制定シ驛々獨立取扱規則ヲ定ム○同月驛遞司ヨリ郵便差出人心得書ヲ頒布ス○同年三月四日辨官ヨリ兩京間四九ノ定便ヲ廢スル旨ヲ達ス○同年八月大藏省布達ヲ以テ東京橫濱間信使往來幸便差立方ヲ定メ貨錢表ヲ頒布テ大坂以西郵便差立方ヲ定メ貨錢表ヲ示ス○同年十一月驛遞司布達本年十二月五日ヨリ東京長崎間ノ郵便ヲ開ク○同年十二月橫須賀浦賀松輪三崎並武州金澤迄毎月十二回郵便ヲ開ク旨驛遞司布達ス○五年二月驛遞司布達ヲ以テ東京府内ニ一日三回ノ郵便ヲ開ク○同年五月第百六十三號布告ヲ以テ東京橫濱間ニ日々五回ノ郵便ヲ開キ郵便切手ヲ貼セサル書狀ノ傳送ヲ禁ス○同年六月第百八十一號布告ヲ以テ北海道後志廳兩國ヲ除クノ外國内一般郵便ヲ開ク○六年三月第百九十七號布告ヲ以テ郵便貨錢ノ稱ヲ廢シ郵便稅トシ郵便規則ヲ改定シ信書ノ遞送ハ驛遞頭特任ニ屬シ何人ヲ問ハス一切信書ノ遞送ヲ禁ス○七年一月第三號布告ヲ以テ東京琉球藩ノ間郵便船往來ヲ始ム○同年五月第五十號布告ヲ以テ琉球藩地ニ郵便役所及取扱所ヲ設置ス○同年六月第六十二號布告ヲ以テ亞細亞利加合衆國ト郵便交換條約ヲ結フ○同年九月第九十號布告ヲ以テ郵便爲換規則ヲ制定ス○同月第百二號布告ヲ以テ建白書類ノ郵便ハ無稅遞送ヲ許ス○同年十二月第百三十五號布告ヲ以テ來八年郵便規則及罰則附貯金預リ規則ヲ定ム○八年九月第百四十一號布告ヲ以テ外國郵便差出方ヲ定ム○同年十月第百三十九號來九年郵便規則及貯金預リ規則ヲ定ム○九年十月第百三十四號布告ヲ以テ勸業上ニ係ル通報等郵便ノ遞送規則ヲ定ム○九年十一月第百四十四號布告ヲ以テ朝鮮國釜山浦ヘノ郵便物稅額ヲ定ム○同年十二月第百五十八號布告ヲ以テ來十年郵便規則及罰則ヲ定ム○十年六月第百四十六號ヲ以テ英國驛傳聯合條約ヲ布告ス○同年十二月第百八十四號布告ヲ以テ來十一年郵便規則及罰則ヲ定ム以下十四年ニ至ル迄年々之ヲ頒布ス○十四年九月第五十一號布告ヲ以テ英國ト郵便爲換條約ヲ結フ○十五年十二月第五十九號布告ヲ以

テ更ニ郵便條例ヲ制定シ十六年一月一日ヨリ施行ス

第百三十九 日本形五百石以上ノ船舶製造ヲ禁ス 明治十八年七月八日 第拾六號布告

日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十年一月ヨリ其製造ヲ禁止ス

右奉 勅旨布告候事

第百四十 西洋形船規則 明治三年正月二十七日 布告

西洋形船規則別冊之通御定ニ相成候條此段相達候事

(別冊)

西洋形船規則

西洋形船買入ノ儀ニ付先般相觸置候趣モ有之軍艦ヲ除ノ外在來日本製造ノ船ハ勿論西洋形船ニ至迄總テ民部省中通商司ノ管轄ニ被仰付候條得其意右西洋形船所持ノモノ或ハ新規買求候モノハ「民部省」外務省連印ノ免許狀可申請尤別紙規則書一通開港場運上所ヨリ相渡令所持候條其旨可相心得候一體日本製造ノ船ハ度々難破ノ患モ有之人命荷物等ノ損傷不少詰リ皇國ノ御損失ト相成候ニ付追テハ不殘西洋形ノ大船ニ仕替度御旨趣ニ付當今西洋形ノ船所持ノ者ハ厚御引立被遣候條其旨可相心得候乍去密商拔荷等不心得ノ儀相働候者ハ嚴重取締不致候テハ不相濟ニ付別紙ノ通御規則御取極相成候儀ニ付津々浦々於テ此旨屹度可相守

候事十三年第十號布告ヲ以テ西洋形船所持ノ者ハ厚御引立被遣候條其旨可相心得候乍去密商拔荷等不心得ノ儀相働候者ハ嚴重取締不致候テハ不相濟ニ付別紙ノ通御規則御取極相成候儀ニ付津々浦々於テ此旨屹度可相守

右之通御沙汰候事

太 政 官

午正月

免狀案十二年第十九號布告ヲ以テ改正ニ付除ク

規則

西洋形船買入度者ハ其旨開港場運上所へ可願出其上船ノ善惡新古檢閲ノ上免許差遣可申事

一御國旗之事

右ハ決テ取外シ候事不相成附屬ノ船ニ至迄必可揚置事

一毎朝西洋時規第八字ニ引揚ケ夕方ハ日沒迄ヲ限引卸スヘキ事

但右御國旗引揚無之節ハ海賊船ノ取扱請候テモ申譯ナキ事萬國普通ノ公法タル事

一御國旗ノ寸法別紙ノ通ニ候事

但大旗ハ祝日ニ引揚平日ハ小旗引揚ケ風雨晦暝ノ節ハ小旗迄引卸置不苦候事

祝日祝節改正ニ付左ノ諸項ヲ別ル

一御軍艦へ出合候節ハ我旗章ヲ三度昇降致禮義ヲナスヘキ事

一夜間ハ旗章ト引替ニ燈明可引揚燈明ハ青赤白ノ三坐ヲ設ケ航海中赤ハ左舷青ハ右舷ニ點

火シ白ハ前檣頂遠方ヨリ見留易キ所ニ揚置燈明消ヘサル様可致事

一船ノ込合タル節並風雨浪高ノ折ハ別テ心ヲ用ヒ互ニ突當ラザル様可致右ハ日本船タリ共

同様ナレトモ外國船ハ別テ此規則嚴重ナレハ精密ニ用心スヘシ

一貿易港碇泊中荷物陸揚船積共運上所へ願立免許狀ヲ受出入可致事

但手數銀差出ニ不及候事

一貿易港於テ荷物ノ取引致シ候ハ、其旨「通商司」へ可相屆事

一航海中ハ兼テ帳面用意致置開港場ハ不及申諸湊へ入津ノ節ハ十二時西洋ノ二ノ間ニ其所ノ運上所又ハ湊役所へ届出檢印可請出帆ノ節同斷ノ事八年第四十號布告ヲ以テテ次ノ十項ヲ廢ス

右檢印ノ式如左

何船
何月何日入港
何港
運上所
又ハ
何港
役所

何船何港
向何月何日
出帆
何港
運上所
又ハ
何港
役所

右出入檢印請候節手數銀相納ルニ不及事

一西洋形船並在來日本商船トモ積荷ノ總數品物ノ名並其送り先ヲ認「通商司」並運上所へ可差出尤其港ヨリ陸揚又ハ船積スヘキ品物ハ一々相届可申事

一諸港へ着船ノ節湊役人船政ノタメ出張致引續キ爲取締乘組居候事

但船中於テ聊ノ品タリ共仕向ケ間敷儀一切不相成事

一船中乗組ノ者病死致候節ハ水葬不相成陸地へ相當ノ葬禮可取行事

一大砲小銃玉藥類ハ積込陸揚トモ其港運上所或ハ役所ノ免許ヲ乞フヘキ事

一海賊防禦其外ノ用意ノタメ相當ノ銃器備置候儀ハ苦シカラス尤兼而挺數等ノ免許狀「民部省」ヨリ請取置ヘキ事

一滯船入費ハ一噸ニ付一日金二朱ト被定置候間商賣向ハ勿論假令官府ノ御用タリ共船ノ進退自由ヲ得ス雜費相懸リ候節ハ其償右ノ噸數ヨリ割出シ取立候テ不苦候事

但諸港於テ威權ケ間敷振舞及ヒ無故出帆差留候節ハ右ノ償可申立事

一免許ナク外國へ通船ノ儀不相成候萬一相犯スニ於テハ船並荷物共取上屹度御咎可有之事

一免許ヲ受候上外國人ヲ雇ヒ船中使役ノ儀不苦事
但不開港ノ地ニテ無據上陸爲致候節ハ護衛ノ者急度附添其所ノ役所へ相届官許ノ證據差出可申事

一困難ト見請候船ハ内外國人ノ差別ナク救助致シ可遣事

但外國人ハ開港場ノ役所へ可引渡尤右ニ付入費等有之節ハ開港場運上所ヨリ相當御下ケ金有之ヘキ事

一外國人へ貸遣候節ハ約定書ヲ以テ「通商司」へ届出候得ハ直ニ運上所へ掛合ノ上其國々旗章引揚候儀御差許可相成候事

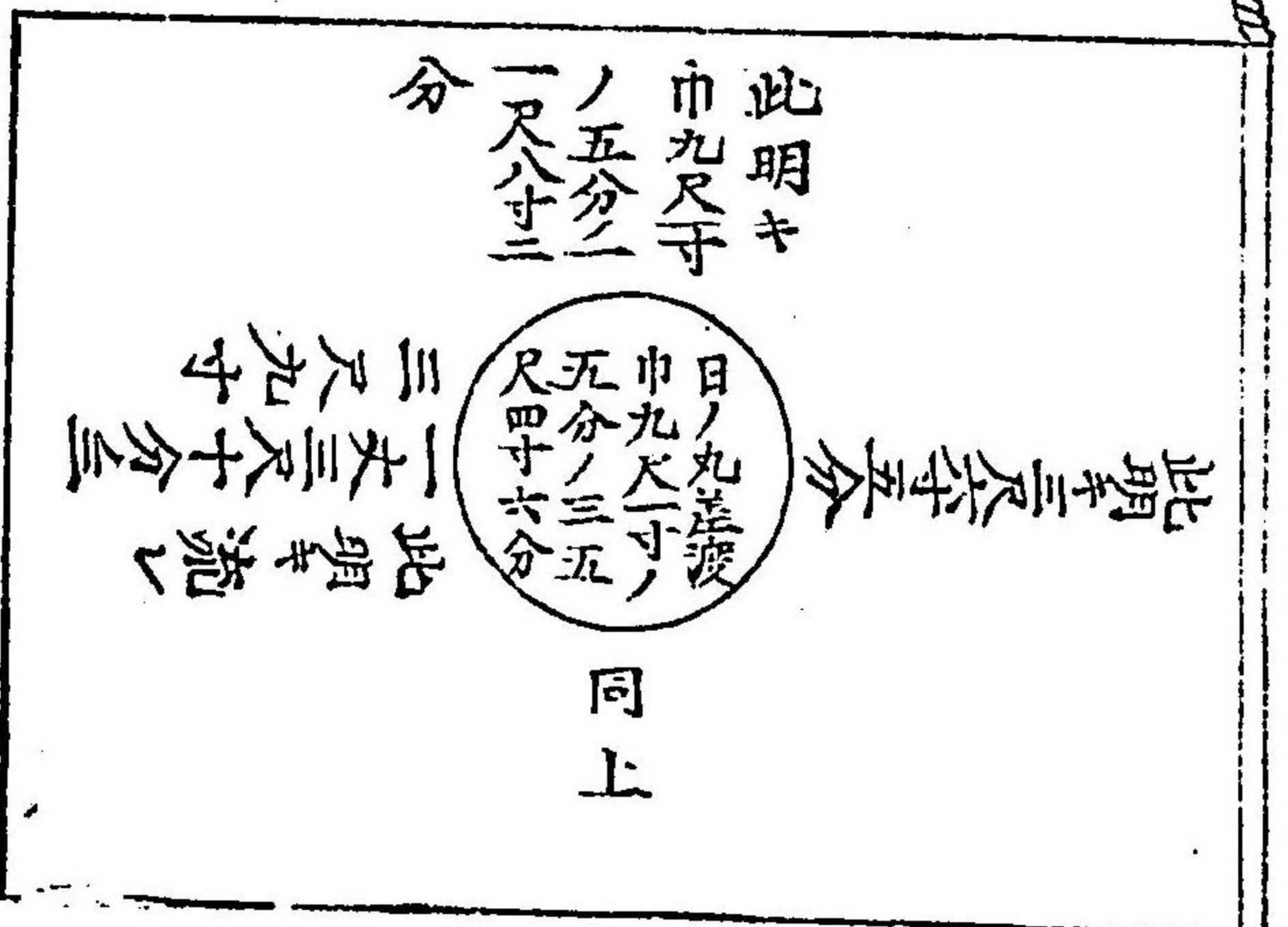
一外國人ト申合近海於テ密商致シ候儀ハ勿論右ノ外御規則ニ相背候儀取計候節ハ其船取揚
 屹度御答可有之事
 一商船ノ記號ハ別紙圖面ノ通製造致シ御國旗同様可取扱事 八年第百八十一號ヲ以テ商船記
 別紙ハ之ヲ除ク又十六年第十三號布告ヲ以
 テ船稅規則發行ニ付次項ハ但書共消滅ス
 右之通相定候條嚴重ニ可相守事

明治二巳年十二月

民 部 省
外 務 省

祝日可用分
大旗之圖

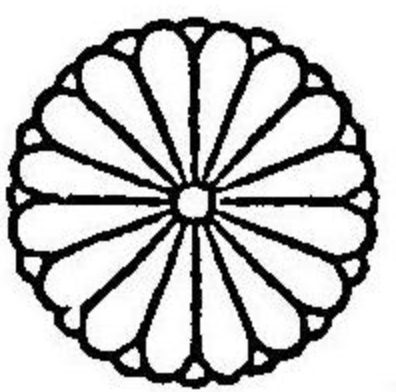
凡テ曲尺



平常可用分
 中旗一丈法
 日ノ丸差渡四尺二寸
 同先ノ明キ三尺
 同乳ノ方明キ二尺八寸
 風雨ノ節可用分
 小旗一丈法
 日ノ丸差渡二尺五寸二分
 同先ノ明キ一尺八寸
 同乳ノ方明キ一尺六寸八分

○航海公證規則ヲ廢シ西洋形船免狀ヲ改正ス 明治十二年五月十五日
 第拾九號布告
 明治七年 第八拾八號布告航海公證規則ヲ廢シ明治三年正月二十七日布告中西洋形船免
 狀別紙ノ通改正候條此旨布告候事 十三年第十號布告ヲ以テ(西
 洋形商船)ヲ(西洋形船)ト改ム

原書寸法横曲尺五寸縦五寸八分



西 洋 形 船 登 簿 免 狀

本船 番號	信號 符字	船名	定製 港名	本船 管轄	船主 職名	甲 板 敷 積	櫓 敷 積	網 敷 積	置 裝 材	船體 材	船 年 一 ケ	船主 名	船 名	本 船 名	工 造 名 氏	月 年 造 製	名 地 造 製	船形 狀	船 材	船 材	

<p>登簿噸數 噸數ノ數 噸數ノ數 噸數ノ數 噸數ノ數 噸數ノ數 噸數ノ數 噸數ノ數 噸數ノ數 噸數ノ數</p>	<p>噸數 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數 噸數</p>
--	--

右ニ記載スル要件ヲ查明シ噸數測度規則ニ違ヒ其尺度噸數ヲ測定シ此登簿免狀ヲ下付スル者也

明治年月日
大日本帝國農商務省

○外國へ渡航ノ日本形商船國旗掲揚方

自今外國へ渡航ノ日本形商船ハ大小ノ別ナク國旗ヲ掲揚可致此旨布告候事
但國旗ノ寸法ハ明治三年正月布告商船規則中三種ノ内小形ノ分ヲ可用事

○海外行印鑑免狀渡方等ヲ廢シ海外旅券規則ニ照準セシム

第九號
布告

明治二年四月同三年正月布告海外行印鑑免狀渡方ノ儀同九年第十第百貳拾八號布告中海外行免狀ノ廢ハ廢止候條自今外務省本年一月第壹號布達海外旅券規則ニ照準スヘシ此旨布告候事

○蒸氣船拾噸風帆船貳拾噸以下及湖川港灣限り運轉スル西洋形船免

狀受有ニ及ハス
明治十四年二月十七日
第十拾貳號布告

明治十二年五月第拾九號布告西洋形船免狀ハ自今蒸氣船ハ拾噸風帆船ハ貳拾噸以下及湖川港灣ヲ限り運轉スルモノハ其船免狀ヲ受有スルニ及ハス此旨布告候事

○西洋形船へ賊難防禦ノ爲大小砲設備ヲ許ス

海軍官船ヲ除ク外西洋形船へ賊難防禦ノ爲大小砲設備ノ儀差許候條左ノ通可相心得此
明治八年五月二十一日
第九拾八號布告

十四年第四十三號布告ニ依リ(帝國)ノ下(內務省)トアルヲ(農商務省)ト改ム

旨布告候事

第一條 海軍官船ヲ除ノ外諸省使府縣所轄ノ西洋形官船並ニ人民所持ノ西洋形商船ヘ大砲口徑四寸以內二門小銃三拾挺設備スル事若シカラス

但船ノ噸數ニ因リ本文ニ掲クル銃砲ノ數ヲ減スルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ任スト雖モ若シ増置セントスルハ更ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 大砲一門ニ彈藥五拾發小銃一挺ニ同百發ヲ越ユヘカラス

第三條 船内ヘ銃砲ヲ設備スル時省使ハ正院ヘ上請シ府縣ハ內務省ヘ申出許可ヲ受クヘシ
但人民所持船ノ分ハ其管轄廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ而シテ該廳ニ於テハ免許狀ヲ與ヘ其旨內務省ヘ届出ヘシ

第四條 銃砲ノ設備ヲ許可セシキハ其旨海軍省ヘ通知スル事トス尤省使ノ分ハ正院ヨリシ府縣並ニ人民ノ分ハ內務省ヨリ通知スヘシ

第五條 諸省使府縣並ニ人民ニ於テ外國ヨリ買入レノ船内ニ附屬セシ分モ前條ノ手續ニ依ルヘシ

但銃砲彈藥等買入ル、節ハ明治五年正月第廿八號布告銃砲取締規則ニ從フヘシ

○西洋形船信號 明治八年九月二十四日 正 第廿八號布告銃砲取締規則ニ從フヘシ
第四拾四號布告 今般御國內西洋形蒸氣帆前船共普通信號費用可致ニ付テハ船名信號符字附點ノ儀並萬國

船舶信號書及信號旗共海軍省ニ於テ可頒布候條右船舶官有私有共別冊萬國船舶信號法告諭第三條ニ照準シ其船證書相副同省ヘ可申出此旨布告候事

別冊 萬國船舶信號法告諭

第一條 海上ニ於テ用フル普通信號ノ方法ヲ設定スルノ緊要タルハ歐米ノ諸海國之レヲ論シ既ニ英國政府ニ於テ「インテルナシヨナル、コード、シクナル」ヲ選定シ以テ刊行シタリ是ニ於テ佛蘭西米利堅連國和蘭瑞典魯西亞希臘以太利澳智利日耳曼西班牙葡荷牙巴西ノ如キ諸海國ノ政府ニ於テモ或ハ之レヲ翻譯刊行シ以テ其軍艦商船及ヒ陸上信號場ニ於テ專ラ之レヲ用ヒシム因テ今我國海軍省ニ於テモ之レヲ翻譯セシメ萬國船舶信號書ト題シ刊行シ以テ軍艦及ヒ西洋形ノ官船商船及ヒ燈臺ノ如キ信號場ニ於テ互ニ通信應答ヲ爲ス一般ノ法トス故ニ此信號書ヲ備フルニ於テハ以後「マルエツト」氏著述ノ信號書ヲ備フルヲ要セス

第二條 此信號法ハ素ヨリ艦船ノ保護及ヒ互ノ通信便利ノ爲メニ設定セル者タルヲ以テ右諸海國一般ニ之レヲ用フルカ故ニ西洋形ノ船舶ヲ有スル諸省使府縣及ヒ船主ハ篤ク其意ヲ體シ其船舶ニ此信號書及ヒ信號旗ヲ備ヘ其船長及ヒ士官ヲシテ此用方ヲ習熟セシメ又以後船長及ヒ士官ヲ選舉スル時ハ此者之レヲ了解シタルヤ否ヲ詳細ニ檢査スヘシ抑此信號書ノ欠ク可カラサルハ既ニ外國ノ或ル信號場ニ於テ海上航行ノ船階礁ニ

觸レントスルヲ看出シタルニ因リ直ニ其場ノ士官萬國船舶信號旗ヲ掲ケ以テ其危險ノ事ヲ通知シタルニ其船此信號ヲ了解ス可キ書ヲ有セザリシヲ以テ之レニ注意セズ遂ニ危難ニ罹リ破船沈没シタルノ例往々許多有リ豈ニ鑑戒ト爲サ、ル可カラズヤ

第三條 船名信號符字願書ノ法

一今般海軍省ニ於テ船名ヲ指示スル爲メニ必要ナル信號符字ヲ授與セシム故ニ其信號符字ヲ請求スル者ハ官船ニ於テハ其所轄廳ヨリ左ニ掲載セル甲ノ書式ニ其船證書ヲ附シテ海軍省ニ出ス可ク商船ニ於テハ其船主ヨリ乙ノ書式ニ其船證書ヲ附シ所轄廳ヲ經テ海軍省へ願出可シ然ル時ハ海軍省ニ於テ其信號符字ヲ其船證書ノ表ニ記入シ授與ス可シ

甲ノ請求書式

當省(或ハ使府縣)所轄ノ汽船(或ハ帆船)何九信號符字點附有之度別紙船證書相副此段及進達候也

明治 年 月 日

農商務卿某殿

省使府縣長官印

乙ノ願書書式

私所有ノ汽船(或ハ帆船)何九信號符字點附被下度別紙船證書相副此段奉願候也

使府縣管下何大區何小區何町村何番地

華士族平民

何 某 印

明治 年 月 日

農商務卿某殿

前書之通願出候間此段申副候也

使府縣長官印

第四條 萬國船舶信號場 燈臺之レヲ管掌ス

一前條ノ如ク我國信號場ニ於テモ唯萬國船舶信號法而已ヲ用フルトス然レハ此場ヲ通過スル内外ノ諸船舶此信號法ヲ以テ其船名ヲ指示スル時ハ之レヲ新聞中船舶報告ト題セル部ニ記載シ刊行シ以テ普ク世上ニ報告ス可シ又船主ヨリ其航行セル船ニ急用ノ消息等ヲ送ラントスル時ハ其船名或ハ信號字ニ附シテ其要件ヲ記シ之レヲ電信或ハ郵便ヲ以テ地方ノ信號場ニ送ル可シ然ル時ハ其信號場ニ於テ其船ヲ認メ次第此信號法ヲ以テ之レニ通知シ而シ其船ヨリ其應答ヲ要スル時ハ之レヲ船主ニ報ス可キトス

第五條 船名錄

一此船名錄ハ萬國船舶信號書ノ附録ニシテ艦船ニ授與セル信號符字ト艦名トヲ記載シ以テ陸上信號場及ヒ軍艦官船商船ノ船長ヲシテ其相遇ノ所ノ艦船ニ信號ヲ爲シ及ヒ自己ノ船名ヲ通知スルノ便ニ供スル者トス

第六條 海軍省ニテ前月此信號符字ヲ授與セル船舶ノ名號ハ後月ニ至リテ之レヲ集メ新

開紙中船舶報告ノ部ニ記載シ以テ世ニ公布シ諸船長ヲシテ其船名及ヒ信號符字ヲ知ラシムルニ供シ又毎年其前年中ノ分ヲ編集シ船名録増補ト號シテ發行ス可シ

第七條 信號旗及ヒ信號書

一萬國船舶信號旗及ヒ信號書ハ海軍省ニ於テ完備ノ者ヲ下附セシムルカ故ニ船主或ハ船長必ス之レカ購求ヲ願出ツ可シ

旗ノ寸方	旗ノ寸方
小ハ 豎四尺六寸 <small>フイトイナチ</small>	橫六尺 豎三尺 橫十一尺
中ハ 同五尺	同七尺 同四尺 同十二尺
大ハ 同六尺	同八尺 同五尺 同十五尺

但シ「マリエット」氏ノ萬國海上信號旗一式ヲ有スル船ニ於テハ其旗ノ中ヲ以テ多分此信號ノ用ニ充テ得可ク唯M Q V Wノ旗ト信號示旗トノ五旗ヲ新調スルニ於テハ其便用ヲ得可シ

第八條 海上士官ヲ望ム者ヲ檢査スルノ個條

一檢査ノ要目左ノ如シ

第一 此信號法ノ各綱領ヲ了解シ得ルヤノ事

第二 旗信號距離信號及ヒ端舟信號ヲ容易且敏捷ニ爲シ及ヒ應答シ得可キヤノ事

第三 電信局信號器ヲ以テ信號ヲ爲シ得可キヤノ事

一檢査トハ檢査官ノ有スル信號書及ヒ其雛形ノ旗ヲ以テ士官タランコトヲ望ム者ヲシテ實地ノ施行ヲ爲サシメ試檢スル事ナリ

第九條 信號法

一萬國船舶信號ニ用フル旗ハ十八個ト信號示旗即チ回答旗一個トナリ

燕尾旗 一個

旗 四個

方旗 十三個

一此十八旗ハbヨリW迄ノ子韻符ニ代用ス而シテ此旗二個或ハ三個或ハ四個ヲ聯結シ掲クル時ハ諸語句或ハ文章ノ意ヲ表スル者トス

一此旗旗ノ種類ハ左ノ如シ

燕尾旗

b 紅ノ燕尾

旗

c 白地ニ紅丸

d 藍地ニ白丸

- f 紅地ニ白丸
 - g 黃ト藍(豎) 方旗
 - h 白ト紅(豎)
 - j 藍ト白ト藍(豎)
 - K 黃ト藍(豎)
 - l 藍ト黃(四個ノ石疊)
 - m 藍地ニ白ノ斜十字
 - n 藍ト白(十六個ノ石疊)
 - p 藍地ニ白方
 - q 黃
 - r 紅地ニ黃ノ正角十字
 - s 白地ニ藍方
 - t 紅ト白ト藍(豎)
 - v 白地ニ紅ノ斜十字
 - W 外郭藍中郭白心紅方
- 信號示旂即チ回答旂 紅ト白ト豎條

一此信號書ハbcヨリ始メテfgmdニ至ル迄旂ノ聯結ノ順次ヲ逐書シタルナリ故ニ信號ヲ爲サントスル其意思ノ文ヲ索メントニハ此順次ニ就テ見ル可シ

第一編

- 信號ニテ爲シ得可キ諸般ノ通信及ヒ尋問ノ爲メニ緊要ナル語句及ヒ文章
- 地理信號及ヒ數表但シ是レハ現今未タ譯成ニ至ラス

第二編

- 第一編ノ信號ノ類語集ニシテ第一編中ニ在ラサルモノハ伊呂波ノ順次ノ四旂信號ニテ増補セリ而シテ之レヲ前後ノ二部ニ分ツ即チ前部ハ原文ノ翻譯後部ハ我伊呂波ノ順次ヲ逐テ其事ノ種類ヲ區別シテ編集セル者ナリ
- 信號ヲ爲サントスル時ハ必ス此第二編ノ後部ニ就テ爲ス可シ然モ此二部其譯成編集共ニ未タ完備セサレハ假ニ伊呂波順次ノ看出目錄ヲ未附シ以テ第二編ノ代用ニ供ス故ニ此目錄ニ就テ第一編中ヲ索ム可キナリ

第三編

端舟信號、距離信號、電信局信號、器信號及ヒ佛國葡萄牙及ヒ以太利ノ電信局信號、器信號、場及ヒ信號場ノ名錄ヲ記載セリ但シ佛國葡萄牙以太利ノ電信局信號、器信號、場等ノ名錄ハ現今未タ譯成ニ至ラス

第四編

衝突豫防規則、暴風雨豫報信號、溺者救法立弗布立ノ水路信號等ヲ記載セリ但シ立弗布立ノ水路信號ハ未タ譯成ニ至ラス

第五編

軍艦及ヒ船舶ノ名ヲ報知スル信號符字ヲ有スル者ノ船舶名錄集ナリ

一萬國船舶信號法ノ最モ稱揚ス可キ所ハ其簡易輕便ナルト區別分明ナルトニ在リ

第十條 信號方法
一此萬國船舶信號書ヲ以テ信號ヲ爲サント欲スル時ハ其以前ニ「ガフ」ニ上ケル國旗ノ下

ニ必ス信號示旒ヲ掲ケ置ク可シ

一信號示旒或ハc旒或ハd旒ヲ唯一個用フル時ハ左ノ意ヲ表ス

○信號示旒ハ回答旒ナリ

○c旒ハ 然リ

○d旒ハ 否

一右信號ヲ除クノ外總テノ信號ハ二旒或ハ三旒或ハ四旒ヲ以テ爲ス可ク而シテ信號ノ種類ハ最上ノ旗ヲ以テ之レヲ識別セシム

○二旒信號

○燕尾最上ナルハ注意信號

○旒最上ナルハ方位信號

○方旗最上ナルハ緊急及ヒ危險信號

○三旒信號

○尋問通信、經緯度及ヒ月日時等ノ如キ信號

○四旒信號

○燕尾最上ナルハ地理信號

○o q 或ハf旒ノ最上ナルハ綴字及ヒ語信號

○g旒最上ナルハ軍艦ノ名

○方旗最上ナルハ官船商船ノ名

明治八年三月略ス

○西洋形船舶普通信號等ノ儀農商務省ヘ管理セシム 明治十年二月廿七日 第貳拾四號布告

明治八年九月 第百四拾四號ヲ以テ御國內西洋形船舶普通信號等ノ儀及布告置候處令般右事務農商務省ヘ令管理候條右關係ノ儀ハ總テ同省ヘ可申出此旨布告候事 十四年第四十三號 布告ヲ以テ(內務省)

ヲ農商務省ト改ム

○西洋形船免狀請願手續ヲ定ム 明治十二年五月二十一日 內務省丙第二十五號沿海府縣ヘ達

第拾九號ヲ以テ西洋形船舶免狀改正公布相成候ニ付自今其免狀ヲ請願スル者ハ其願書ニ左記ノ件名書相添出願可致且從前ノ免狀所持ノ者モ同様ノ手續ヲ以テ免狀書換出願爲候儀ト可相心得此旨相達候事 十三年第十號布告ヲ以テ(西洋形船舶)ヲ(西洋形船)ト改ム 但左ノ件名中詳カラサルモノハ其項下ニ不詳ト書記シ可爲差出申

- 一 船名 漢字ヲ以テスルモノ
ハ假名ヲ附スヘシ
- 一 信號符號 外國人ヨリ買受ケタル
片及ヒ新造ノ片ハ除ク
- 一 定繫港 何府縣何國
何郡何港
- 一 本船管轄廳名 何府
縣廳
- 一 船ノ種類 蒸氣又
帆
- 一 甲板ノ層數 何層
- 一 船體ノ材料 鐵又
木
- 一 櫓ノ數 何本
- 一 船骨ノ材料 鐵又
木
- 一 網具ノ裝置 スクラーツク、
バルクヘッド等
- 一 船尾ノ形狀 方形又
圓形
- 一 製造地名 何國何地
造船所等
- 一 製造年月 何年
何月
- 一 造船工長ノ氏名 何國何
地何某
- 一 船ノ原名 最初製造シタル片ノ名但シ外國人ヨリ買受ケ
タルモノハ其外國文字ヲモ併セテ記スヘシ
- 一 舊船免狀ノ番號 外國人ヨリ買受ケタル
片及ヒ新造ノ片ハ除ク
- 一 船主若クハ會社ノ名 船主ハ二人以上ナルモ其總代一人ノ名及ヒ其本質
宿所ヲ記シ又ハ會社ハ其社所在ノ地名ヲ記スヘシ

- 一 壹箇年ノ船稅 何圓
- 一 壹噸甲板最大ノ長 何尺
船首ノ内板ヨリ船尾ノ内板迄ノ長
ヨリ第二層目ニ在ルモノ又二層以下ノ船ニ於テハ上甲板ヲ以テ壹噸甲板トス
- 一 内法リ最大ノ幅 何尺
船幅最モ大ナル部ニ
於ケル内板ヨリ内板迄
- 一 船室ニ於テ壹噸甲板ヨリ船底中央ノ内板ニ至ル深 何尺
- 一 壹噸甲板下部ノ噸數 何噸
- 一 壹噸甲板上諸部ノ噸數 何噸
若シアレハ即チ
甲板間ノ場所 何噸
但シ二層以上ノ船ニ於テハ上甲板ト壹噸甲板ノ間ノ場所
船尾室 何噸
部ニ於テ設ケルモノ
- 一 圓室 何噸
○上甲板中央ニ設ケルモノ
船首ヨリ船尾ニ至ル中央線ノ若クハ中
央線ノ近傍ニ設ケルモノ
ニシテ外圍ヲ回歩シ得ルモノ
- 一 其他ノ場所 何噸
若シアレハ
浴室等ノ如ク上ニ掲ケサルモノ
- 一 總噸數 何噸
- 一 内除去スヘキ噸數
- 一 機關室ノ噸數 何噸
- 一 乘組人常用室ノ噸數 何噸
- 一 登降噸數 何噸
○蒸氣船ニ於テハ機關室ノ噸數及ヒ乘組人常用室ノ噸數ヲ總噸數ヨリ除去シ其殘噸數ヲ以テ登降噸數トナス
噸數トナシ
風帆船ニ於テハ總噸數ヨリ乘組人常用室ノ噸數ヲ除去シ其殘噸數ヲ以テ登降噸數トナス
- 一 機關ノ數 何箇
又
一箇ノ時手ニ因リ車軸ノ運轉ヲ起スモノヲ一箇ノ機關ト稱シ二箇ノ
時手ニ因リ車軸ノ運轉ヲ起スモノヲ二箇ノ機關ト稱ス以下之ニ準ス
- 一 公稱馬力 何馬力

●沿革要領

明治三年正月廿七日布告ヲ以テ西洋形船規則ヲ定メ海賊防禦等ノ爲メ銃器備置ヲ許ス○八年五月第九十八號布告ヲ以テ更ニ西洋形船へ賊難防禦ノ爲メ大小砲設備ヲ許ス

第百四十一 西洋形船水先免狀規則

明治十一年十二月九日 第三拾七號布告

明治九年^{十二月} 第百五十四號布告 西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改正候條此旨布告候事

(別冊)

西洋形船水先免狀規則

第一條 明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船へハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條 水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ農商務省ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ 十四年第四十三號布告ヲ以テ內務省ヲ農商務省ト改ム

第三條 免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ交付スヘシ

第一 東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野島岬

ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第二 和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國潮崎ノ仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ疆界線トス

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香燒島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ疆界線トス

第五 津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡島國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

第四條 各海港即チ水先區内ニ供備スヘキ免狀水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條 水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷證書ヲ豫テ其本質又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ農商務省へ差出シ置キ或ハ試驗開場

ノ時ニ於テハ直ニ司驗官へ差出スヘシ上

第六條 水先人タル者ハ年齢二十二歳ニ滿テ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先区内ニ於テ既ニ水先見習人トナリ航海ニ從事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先区内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ルタメノ重立タル記標或ハ方位又ハ潮ノ満干潮流燈光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉スルニ充分適當セリト司驗官ヲ満足セシムルヲ要スヘシ

第七條 受験人試験ヲ受テ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト司驗官之ヲ認ムル時ハ其旨ヲ農商務省ニ報告シテ直ニ免狀ヲ交付スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス上

第八條 免狀ノ書換ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ農商務省へ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セサルトハ都テ農商務省ノ意見ニ因ルヘシ上

第九條 免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ農商務省へ差出シ書替新免狀ヲ申請クヘシ上

第十條 水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ル時金拾圓又其書替毎ニ金壹圓ノ手数料ヲ上納スヘシ

第十一條 水先人ノ試験ヲナス時ハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以

テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限り及ヒ試験ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條 試験出願人ノ履歴證書ヲ以テ充分満足ノモノト爲ス時ハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試験ヲナスヘシ

第十三條 此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限り日本帝國內何レノ海岸ト雖モ上陸シ且其出發地へ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條 第三條ニ規定セル水先区内ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルハ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲナサント申入レ又ハ其爲メ信號ヲナスキハ何時ニテモ免許水先人へ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用フル者ハ五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

第十五條 水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ムヘシ

第十六條 二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲナスキハ最初現ニ乗船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條 免許水先人水路嚮導専用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ農商務省ニ願出ツヘシ農商務省ハ檢査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但此免狀ハ水先人免狀同様其効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願出ツヘシ上

第十八條 各免許水先船ハ免許ヲ得タル區域内ニ於テ其水路嚮導用ノ爲ニハ港灣稅噸稅燈臺稅等ノ諸稅ヲ免スヘシ

第十九條 各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一 水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二 船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三 免許水先船ニ免許水先人ノ乗込アル時ハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日没マテ水先旗ヲ翻揚スヘシ但シ水先旗ハ明治十年一月甲第壹號海軍省布達ニ照準スヘシ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ掲ケス只檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超エサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ十三年第三十九號布告ヲ以テ全項改正

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲クヘシ同上

第二十條 日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 前檣ニ於テ其船ノ船首旗英國旗又ハ國旗ヲ掲揚スルツク

第二 萬國普通ノ水先信號PTノ符字ヲ揭示スルツク

夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別時ニ表示スル時ハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一 十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スルツク

第二 須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スルツク

第二十一條 各免許水先人ハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツ、交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閱覽ヲ要スル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ム時ハ農商務省ニ於テ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ同上

第二十二條 此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與スル時ハ農商務省ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ同上

第二十三條 農商務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪サルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルコトヲ嫌ヒ若クハ之ヲ怠リタルコトアリト思惟スル時ハ同省ヨリ吏員ニ命シテ之ヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

(水先料一覽表畧之)

沿革要領

明治九年十二月第百五十四號布告ヲ以テ西洋形船水先免狀規則ヲ定ム○十一年十二月第三十七號布告ヲ以テ前規則ヲ改正ス

第百四十二 船舶積量測度規則

明治十七年四月二十四日 第拾號布告

船舶積量測度規則別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

船舶積量測度規則

- 第一條 凡ソ船舶^{海軍艦船ノ積量ハ此規則ニ依リ測度スル者トス}積量ヲ除ク
- 第二條 船舶ノ積量ヲ測度スルハ總テ曲尺ヲ用ヒ尺位ヲ以テ單位トシ其尺度ハ分位ニ止ムヘシ
- 第三條 西洋形船ノ積量ハ百立方尺ヲ以テ一噸トシ日本形船ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トス
- 第四條 西洋形船ニシテ甲板一層ノ者ハ其甲板ヲ以テ量噸甲板トシ二層ノ者ハ其上層ヲ以テ量噸甲板トシ三層以上ノ者ハ其最下ヨリ第二層ニアル者ヲ以テ量噸甲板トス
- 第五條 西洋形船ニシテ甲板一層若クハ二層ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トシ又甲板三層以上ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及ヒ最上甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス
- 第六條 帆船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乘組人常用室ノ噸數ヲ除キタル者トス
- 第七條 乘組人常用室トシテ除クヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ六トス
- 第八條 機關室トシテ除クヘキ噸數ノ割合ハ左ノ如シ
 - 外車瀛船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ二十ヨリ三十マテハ總噸數ノ百分ノ三十七
 - 暗車瀛船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ十三ヨリ二十マテハ總噸數ノ百分ノ三十二
 - 機關室ノ廣狹ニ依リ前項ノ割合ニ適セサル者ハ該室ノ噸數ニ外車瀛船ナレハ其二分ノ一ヲ加ヘ暗車瀛船ナレハ其四分ノ三ヲ加ヘタル者トス
- 第九條 日本形回漕船ハ船梁上下船艙ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トシ又其構造回漕船ニ異ナル者ハ舷端以下ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トス
- 第十條 船舶ノ噸數及ヒ積石測度ノ方法ハ布達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

○船舶積量測度方法 明治十七年四月二十四日 軍拾號布達

今般拾號ヲ以テ船舶積量測度規則布告候ニ付テハ船舶積量測度方法別紙ノ通相定ム右布達候事

(別紙)

船舶積量測度方法

- 第一條 西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ
 - 第一項 量噸甲板上ニテ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル長ヲ測リ之ヨリ甲板ノ厚ニ準ヒ船首船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長及ヒ終尾船梁ノ矢^{船梁ノ弧形ノ三分ノ二下ニテ船尾ノ傾度ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ量噸甲板下ノ長トシ之ヲ左ノ等級ニ準ヒ等分スヘシ}ヲノス
 - 第一級 量噸甲板下ノ長五十尺迄ノ船八四個

第二級 同五十尺以上百二十尺迄ノ船ハ六個
 第三級 同百二十尺以上百八十尺迄ノ船ハ八個
 第四級 同百八十尺以上二百二十五尺迄ノ船ハ十個
 第五級 同二百二十五尺以上ノ船ハ十二個

量噸甲板下ノ長ヲ等分シタル後其各分長點ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内板ノ上面ニ至ル深ヲ測リ之ヨリ船梁ノ矢三分ノ一ヲ減シ之ヲ各分長點ニ於ケル量噸甲板下ノ深トス而シテ中央分長點ニ於ケル深十六尺迄ハ四個十六尺以上ナルトキハ六個ニ各深ヲ等分スヘシ

各深ヲ等分シタル後其各分深點及上下兩端ニ於テ船内ノ幅ヲ測定スヘシ

各分深點ニ於テ幅ヲ測リタル後之ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅ヲ除ク 上下兩端ハ二倍シ此合數ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ其得數ヲ各分長點ニ於ケル橫截面積トス

各分長點ノ橫截面積ヲ測リタル後之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ奇數ニ當ル面積 兩端ヲ除クハ二倍シ此合數ニ船首船尾ノ面積ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ量噸甲板下ノ噸數トス

第二項 最上甲板ノ噸數ヲ測定スルニハ該室内ノ平均ノ長ト高ヲ測リ其高ノ中央ニ於テ該室ノ前後ト中央ノ幅ヲ測リ而シテ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除スヘシ

第三項 甲板三層以上ノ船ニ於テ量噸甲板上各甲板間ノ噸數ヲ測定スルニハ甲板間ノ平均ノ高ヲ測リ其高ノ中央ニ於テ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル長ヲ測リテ之ヲ量噸甲板下ノ長ト同一ニ等分シ而シテ高ノ中央ニ於テ其各分長點及ヒ前後兩端ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅 兩端ヲ除クハ二倍シ此合數ニ船首船尾ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ其得數ヲ百ニテ除スヘシ

第二條 機關室ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 機關室内平均ノ長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數トス

第二項 機關室ノ上端ニ機關運轉又ハ空氣流通等ノ爲メ圓ヒタル場所アルトキハ其長幅深ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三項 暗車室ニ於テハ軸室平均ノ長幅高ヲ測リ之ヲ相乘シテ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ機關室ノ噸數ニ加フヘシ

第三條 甲板ナキ西洋形船ノ噸數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 船首上端ノ内側ヨリ船尾上端ノ内側ニ至ル長ヲ測リ之ヲ第一條第一項ニ掲クル等級ニ準ヒ等分シ其各分長點ニ於テ船舷ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其他第一條第一項ニ據リテ噸數ヲ求メ之ヲ該船ノ總噸數トス

第二項 船舷上端ノ境線ヲ超テ船室ノ設アルモノハ境線上ニ於ケル該室平均ノ長幅高ヲ測リテ之ヲ相乘シ其得數ヲ百ニテ除シ之ヲ噸數ニ加フヘシ

第四條 日本形回漕船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

第一項 船舷ノ上端ヲ境線トシ之ヨリ船梁ノ上面ニ至ル平均ノ高ヲ測リ又船首室ノ境界ヨリ船尾室ノ境界ニ至ル長ヲ測リ又船舷ノ内側ヨリ内側ニ至ル平均ノ幅ヲ測リテ此長幅高ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁上船艙ノ石數トス

第二項 船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點及ヒ前後兩端ニ於テ深ヲ測リ又各深ノ中央及ヒ上下ニ於テ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十ニテ除シ之ヲ船梁下船艙ノ石數トス

第五條 日本形ニシテ其構造回漕船ニ異ナル船ノ石數ヲ測定スルハ左ノ方法ニ據ルヘシ

船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長ヲ測リテ之ヲ四個ニ等分シ其各分長點ニ於テ船舷上端ヲ境線トシ之ヨ

ノ船底ニ至ル深ヲ測リ其深ノ中央及ヒ上下ニテ平均ノ幅ヲ測リテ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ其得數ヲ十二テ除シ之ヲ該船ノ石數トス

○船船積量測定改測結了期限 明治十七年九月二十六日 農商務省第九號府縣へ達

本年第拾號布告船船積量測定規則制定ニ付在米船船ノ積量ハ本年十二月限リ總テ改測結了候様取計フヘシ但遠洋航海等ノ爲メ期限内若手難致モノハ歸港ノ際改測スヘシ右相達候事

○汽船公稱馬力算定方法ヲ定ム 明治十七年五月二十二日 農商務省第九號府縣へ達

汽船公稱馬力算定方法左之通相定候條此旨相達候事

公稱馬力算定方法

第一冷濾器ヲ備ヘサル機關ノ公稱馬力ハ濾筒吸鈎ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ拾個ニテ除シタルモノ

但濾筒二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第二冷濾器ヲ備フル機關ノ公稱馬力ハ濾筒吸鈎ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ三拾個ニテ除シタルモノ

但濾筒二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第三冷濾器ヲ備ヘサル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各濾筒吸鈎ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ拾個ニテ除シタルモノ

但濾筒二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第四冷濾器ヲ備フル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各濾筒吸鈎ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ三拾個ニテ除シタルモノ

但濾筒二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

● 同指令

● 船船積量測定規則ノ儀ニ付廣島縣ヨリ農商務省へ伺 十七年五月五日

客月廿四日付第十號ヲ以テ船船積量測定規則布告相成右ハ來ル七月一日ヨリ施行セラルヘモノナレハ從前檢査済ノ船船ニシテ同日付第十號布告船船積量測定方法ニ依リ測定スル時ハ多少差違ヲ生スルモ更ニ檢査スルニ及ハサル儀ニ候哉

指令 十七年五月十九日

伺之趣從前測定済ノ分ト雖モ更ニ檢査候儀ト相心得ヘキ事

● 沿革要領

明治四年十二月大藏省達ヲ以テ船船積石噸數改方法則ヲ定ム○十七年四月第十號布告ヲ以テ船船積量測定規則ヲ制定ス○同年六月大藏省第三十八號達ヲ以テ四年十二月達船船積石噸數改方法則ヲ廢ス

第百四十二 西洋形船舶檢査規則 明治十七年十二月二十二日 第三拾號布告

西洋形船舶檢査規則別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

西洋形船舶檢査規則

第壹條 西洋形船舶 海軍艦船 ハ此規則ニ遵ヒ檢査ヲ受クヘシ但登簿船免狀ヲ受有スルニ及

ハサル風帆船ハ此限ニアラス

第貳條 船舶檢査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム

十七年第九號布告以テ在來ノ船舶ハ明治十九年六月三十日迄ニ檢査ヲ受クヘキ旨ヲ令ス

第三條 検査所所在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其最寄検査所ニ願出ヘシ

第四條 検査所未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其船籍アル地方廳ヲ經テ農商務省ニ願出ヘシ

第五條 登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル汽船ノ検査ハ其船籍アル地方廳ニ願出ヘシ

第六條 検査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス但第五條ノ汽船ニ係ル検査官吏ハ府知事縣令之ヲ命ス

第七條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ適當ト認ムルトキハ農商務省ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル検査證書ヲ交付ス但地方廳ノ検査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

- 一 番號
 - 一 船名
 - 一 船主氏名
 - 一 定繫場名
 - 一 登簿噸數
 - 一 端船其他必要ノ所屬品
 - 一 航行シ得ヘキ場所ノ制限
 - 一 證書有効期限
- 汽船ニハ左ノ事項ヲ加フ

- 一 公稱馬力
- 一 汽機ノ種類
- 一 汽罐ノ種類
- 一 最大汽壓
- 一 旅客定員

第八條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認ムルトキハ其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ムヘシ

第九條 検査證書ノ效力ハ其船ノ現狀ニ依リ六箇月十二箇月ニ區別ス

第十條 検査證書ハ船内最モ見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ

第十一條 検査證書ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ

第十二條 船名船主及ヒ定繫場ヲ變更シタルトキハ農商務省又ハ地方廳ニ届出ヘシ

第十三條 船體若クハ汽機汽罐其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシタルトキハ更ニ検査ヲ受クヘシ

第十四條 船舶航行ノ用ヲ爲サヘルニ至リタルトキ又ハ除籍トナリタルトキハ直ニ検査證書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

第十五條 検査證書ノ有効期限内ト雖モ検査官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨檢スルコトアルヘシ

第拾六條 船舶ノ検査ヲ受ケスシテ航行シ又ハ無効ノ検査證書ヲ使用シ又ハ検査證書ニ記載セル最大汽壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ越エテ航行シ又ハ検査官吏ノ命ニ違背シ修理セスシテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出航シタル者ハ三拾圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第拾七條 検査證書ニ記載セル端船其他必要ノ所屬品ヲ具ヘス又ハ旅客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ第拾三條ヲ犯シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第拾八條 検査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第拾條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第拾九條 前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス

第貳拾條 第拾壹條第拾貳條第拾四條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第貳拾壹條 検査細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

○西洋形船々籍編入方 明治十二年二月五日 第五號布告
自今西洋形船ハ總テ沿海府縣ノ所轄ニ被附候條來ル七月三十一日迄ニ本船ノ定繫港ヲ定メ其地ノ船籍ニ編入致スヘシ十三年第十號布告ヲ以テ(西)洋形船ヲ(西洋形船)ト改ム
但定繫港ハ船主又ハ本船ノ公務ヲ代理スル者所在ノ地ニ於テ定ムヘシ
右布告候事

○西洋形船舶検査手續及同細則ヲ定ム 明治十八年四月十三日 農商務省第拾五號府縣へ達

明治十七年^{十二}月^{十二}日 第三拾號布告西洋形船舶検査規則制定相成候ニ付テハ同規則第貳拾壹條ニ依リ船舶検査施行手續及ヒ船舶検査細則別冊ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス
但明治十三年^{十一}月^{十一}日 内務省乙第拾五號達ハ本文月日ヨリ廢止ス
右相違候事

(別冊)

船舶検査施行手續

第一條 西洋形船舶検査規則ニ依リ検査スヘキ船舶ハ總テ此手續并ニ検査細則ニ照ラシ取扱フヘシ

第二條 検査規則第四條ニ掲グル船舶ノ検査ハ管船局ヨリ便宜ノ地(検査員ヲ派出シ之ヲ検査スヘシ)

第三條 検査員ハ定時臨時ヲ間ハス毎検査詳細ノ報告書ヲ管船局(不登簿船ハ其地方廳)ニ提出スヘシ

但初度ノ検査ニ係ルモノハ第一號書式次回以後ハ第二號書式ニ據ルヘシ

第四條 管船局若クハ地方廳ニ於テハ前條ノ報告ニ依リ第三號書式ノ検査證書ヲ作り管船局ハ検査所ヲ經由シ地方廳

ハ便宜之ヲ船主若クハ船長ニ下渡スヘシ

但シ検査規則第四條ニ掲グル船舶ニハ其船籍地方廳ヲ經テ之ヲ下渡スヘシ

第五條 検査證書中航路ノ定限ハ左ノ五項ニ區分ス

- 一 外國航船
- 一 内國航船 (朝鮮南洋ノ鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ル沿岸及ヒ薩嘎噠諸港ニ航スルモノモ包含ス)
- 一 近海航船 (沿岸ノ各港間ヲ往復シ又ハ内地ト離島ノ間ヲ通航シ特ニ其航路ノ區域ヲ定メタルモノ)
- 一 内海航船 (紀伊海峽ヨリ以西下ノ關佐賀ノ間以內ヲ限リ通航スルモノ)
- 一 平水航船 (湖川港灣内ヲ限リ通航スルモノ)

第六條 検査スヘキ船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第四號書式ノ願書ヲ出サシメ交付ノ順序ニヨリ成ヘク速ニ臨檢スヘシ但時宜ニヨリ検査員ノ見込ヲ以テ順序ニ拘ハラズ検査スルコトアルヘシ

第七條 検査規則第三條ニ掲クル船舶ハ臨時検査ヲ除クノ外前ノ検査ヲ受ケタル検査所ヘ次回ノ検査ヲ願出サシムヘシ

第八條 検査證書ヲ受有スル船舶其航路ヲ變スル等ノ事故ニ由リ次回ノ検査ヲ他ノ検査所ヘ願出ルルハ該検査所ヨリ前ノ検査所ヘ照會ノ上之ヲ検査スヘシ但検査員ニ於テ照會ヲ必要トセサルハ此限ニアラス

第九條 検査執行ノ際ハ成ヘク船主船長機關手等ヲシテ之ニ立會ハシムヘシ

第十條 検査ノ上修繕若クハ改造ヲ爲サシメントスル時ハ其事項ヲ書面ニ記載シ之ヲ船主若クハ船長ニ交附シ其副書ヲ保存シ置クヘシ

第十一條 修繕若クハ改造ヲ命シ其工事中必要ト思惟スルハ検査員ニ於テ便宜之ヲ監査スヘシ

第十二條 修繕若クハ改造ヲ命シ其工事落成ノ上検査ヲ爲スルハ當初之ヲ命シタル検査員必ス之ヲ擔當スヘキモノトス可スヘシ

第十三條 定時臨時ニ關セズ検査員ニ於テ運航ヲ禁止メ修繕等ヲ命シタルハ本船現有ノ検査證書ヲ引上ケ置クヘシ

第十四條 検査規則第十三條ニ據リ出願ノ船舶ニ於テ其修繕ノ箇所ハ勿論場合ニ依リ其他部ヲモ精密検査ノ上既ニ受有ノ検査證書面ニ變更ヲ生スルハ該證書ニ報告書ヲ附シ管船局(不登簿船ハ其地方廳)ヘ差出シ其證書ノ書換ヲ請フヘシ然レモ検査ノ上其證書面ニ變更ナキハ該證書ノ裡面ニ其要旨ヲ記シ検査員認印ノ上直チニ運航ヲ許可スヘシ

第十五條 検査員検査終了ノ上運航ニ堪ヘキモノト認メタルハ船主若クハ船長ノ請願ニ依リ外國航船ヲ除クノ外第五號書式ノ検査假證書ヲ交付シ其運航ヲ許可スルコトアルヘシ但シ該假證書ノ効用ハ三箇月ヲ以テ限リトス故ニ右期限内必ス本證書ト交換スヘキモノトス

第十六條 農商務省検査員ハ登簿船不登簿船ヲ問ハズ検査證書ノ有効期限内ト雖モ衝突乗上ケ其他必用ト認メタル場合ニ於テハ直チニ本船ニ臨檢シ其所見ノ狀況ヲ管船局ヘ報知スヘシ

第十七條 夜間衝突ニ係リシ船舶ヲ検査スル時ハ特ニ其船燈及ヒ隔板ノ位置大小方位等ヲ精密ニ検査シ又一方(相手方)ノ船舶其近傍ニ碇泊セルルハ全機之ヲ検査シ精細ノ報告書ヲ管船局ヘ差出スヘシ

第十八條 検査員ハ船舶機件等ノ現狀ニ依リ六月若クハ十二月間ノ運航期限及ヒ此手續第五條ニ掲クル航路ノ制限ヲ定メ之ヲ報告書ニ記入スヘシ

第十九條 検査ノ爲メ使用スヘキ物品ニシテ本船若クハ工場ニ備ヘアルモノハ便宜検査員ヨリ其主務者ニ談合シ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ

第二十條 検査所及ヒ地方廳ニ於テハ水壓筒筒檢壓元器等検査ニ關シ必用ノ器具ヲ備ヘ置キ汽鐘ノ壓力等ヲ定ムルハ都テ該檢壓元器ニ據ルヘシ

第二十一條 検査所及ヒ地方廳ニ於テハ検査簿ヲ備ヘ置キ毎船第一號書式ノ件名ハ勿論其他ノ要件ヲ検査ノ都度記入スヘシ

第二十二條 検査證書ヲ下附スルニ方リ舊證書ハ検査員ニ於テ取纏メ之ヲ管船局若クハ地方廳ニ返付スヘシ

第二十三條 東京海上保險會社ノ保險中ニ係ル船舶ハ検査員ニ於テ特ニ検査セサルモ検査合格ト看做スコトヲ得ヘシ

第二十四條 外國航船及ヒ内國航船ヲ除クノ外諸船ノ検査ハ其航路ノ難易ニ依リ検査細則ノ條款ニ照シ之ヲ斟酌スルヲ得ヘシ

(表式及検査細則略之)

○西洋形船舶検査所ヲ設置ス 明治十八年四月九日 農商務省第五號告示

明治十七年十二月第三拾號布告西洋形船舶検査規則第二條船舶検査所ノ儀ハ當分左ノ場所ニ設置ス

東京 大阪 函館 神戸

但横濱入港ノ船舶ハ當分東京検査所ニ於テ管理ス

右告示候事

○登簿免狀ヲ受有セサル汽船検査方 明治十八年七月四日 農商務省第拾四號告示

明治十七年十二月三十號布告西洋形船舶検査規則第五條ニ掲クル汽船(登簿免狀ヲ受有セサル)検査ノ儀ハ東京府下ニ限リ當省ニ於テ直管候儀右検査ハ東京船舶検査所へ願出ヘシ

右告示候事

第百四十四 西洋形船舶長運轉手機關手免狀規則 明治十四年十二月二十八日 第七拾五號布告

十二年第九號布告ヲ以テ西洋形船舶長運轉手機關手免狀規則ヲ廢止スル事(第百四十五)

西洋形船舶長運轉手機關手免狀規則別冊之通改定來十五年一月一日ヨリ施行シ九年六月第十二號同年六月第九十四號同年十二月第百五十三號同年十二月第百五十七號十三年五月第五十八號十四年二月第十三號同年三月第十八號布告ハ同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

西洋形船舶長運轉手機關手免狀規則

此規則ハ海軍諸艦ニ關セサルモノトス

此規則中内國航船ト稱スルハ支那朝鮮ノ間ニ於ケル鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ルノ沿岸及ヒ薩俄噠諸港ニ航スルモノモ亦包含ス

第一條 船長、運轉手、機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ農商務卿ヨリ受ケ之ヲ所持スヘシ

第二條 免狀ハ甲乙及ヒ小形船舶機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種トモ船長、一等運轉手、二等運轉手、一等機關手、二等機關手ノ五ニ分チ各々試驗規程ニ從ヒ及第セシ者ニ授與スヘシ

第三條 試驗ノ規程ハ第壹號布達ニ據ルヘシ

第四條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルヲ得下等ノ免狀ハ高等ノ免狀ニ代用スルヲ得ス

甲種船長ノ免狀ハ乙種船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ運轉手、機關手ノ免狀ニ於ケルモ亦同シ

乙種二等運轉手ノ免狀ハ從前ノ小形船舶船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ乙種二等機關手免狀ノ小形船舶機關手免狀ニ於ケルモ亦同シ

第五條 從前授與シタル本免狀ハ甲種免狀ト同一ノ効力ヲ有シ又假免狀ハ當分ノ内乙種免狀ニ代用スルヲ得

從前授與シタル小形船舶船長ノ免狀ハ其効力ヲ存シ又從前ノ小形船舶機關手ノ免狀ハ當分ノ内本則ノ小形船舶機關手免狀ニ代用スルヲ得

第六條 免狀ノ書換又ハ再授ヲ請フトキハ手数料金壹圓ヲ納ムヘシ但シ再授ヲ請フ者ハ二

名以上ノ證人ヲ要ス

第七條 免狀ハ其筋吏員ノ指圖ニ應シ何時タリトモ其檢査ヲ受クヘシ

第八條 甲種免狀試驗課程ニ合格スト認メタル外國政府ノ本免狀ヲ所持セル船長、運轉手、機關手ハ更ニ試驗ヲ要セス原免狀同等ノ免狀ヲ授與スヘシ

第九條 左ノ三項ニ記載スル各船ハ其所用ノ區別及ヒ登簿噸數、公稱馬力ノ限度ニ從ヒ應等若シクハ高等ノ免狀ヲ受有スル職員ヲ乘組マシムヘシ

第一項	三百噸未滿	外國航船	甲種免狀船長 一等運轉手	一名以上
	三百噸以上	同	甲種免狀船長 一等運轉手 二等運轉手	同
	一百馬力未滿	同	同 一等機關手	同
	一百馬力以上	同	同 一等機關手 二等機關手	同
第二項	一百噸以上	內國航船	乙種免狀船長 一等運轉手	同
	三百噸未滿	同	同	同

	三百噸以上	同	同 船長 一等運轉手	同
	五百噸未滿	同	同 二等運轉手	同
	五百噸以上	同	甲種免狀船長 一等運轉手 二等運轉手	同
	二十馬力以上	同	乙種免狀二等機關手	同
	五十馬力未滿	同	乙種免狀一等機關手	同
	五十馬力以上	同	若クハ甲種免狀二等機關手	同
	一百馬力未滿	同	甲種免狀一等機關手 二等機關手	同
第三項	一百馬力以上	同	同	同
	二十噸(滿船ハ)拾噸以上	同	乙種免狀二等運轉手	同
	一百噸未滿	同	若クハ從前ノ小形船船長	同
	二十馬力未滿	同	小形船機關手	同
	二十馬力未滿	港内若クハ湖川用	小形船機關手	同

但シ二十馬力以上ノモノハ第二項ニ準ヒ機關手ヲ乘組マシムヘシ
前記各項ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有セス或ハ禁止停止ニ係リ受有シ能ハスシ
テ其職ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ラシメ又ハ其職員ヲ減シテ出航セシムル
者ハ各貳圓以上貳百五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第十條 農商務卿ハ船長、運轉手、機關手ノ技術劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリト考察
スルトキ又ハ左ニ掲クル事項ニ於テハ其筋吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ使用ヲ停
止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

第一 亂醉、粗暴其他ノ不品行若クハ指揮ニ悖戾シ又ハ職務ニ怠ル者
第二 失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ棄テ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ
害ヒ或ハ大傷痕ヲ被ラシメシ者

第三 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條 前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スルキハ農商務卿其審問ヲ中止
シ裁判確定ヲ俟テ之ヲ處分スヘシ

第十二條 免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルトキハ農商務卿其免狀ヲ取揚クヘシ若シ之ヲ
拒ムモノハ貳圓以上貳百五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

但シ第九條末項ノ罪ト俱ニ發スルキハ罰金ヲ並ヒ科スヘシ

第十三條 免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服セサルモノハ其筋へ上訴スルコトヲ得ヘシ

第十四條 免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖モ一ケ年ノ後ニ至リ農商務卿ノ考察ヲ以テ更ニ
相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

○西洋形船船長運轉手機關手試驗規程 明治十四年十二月二十八日
第壹號布達

今般第七拾五號ヲ以テ西洋形船船長運轉手機關手免狀規則改定ニ付別冊ノ通試驗規程ヲ定ム
右布達候事

(別冊)

西洋形船船長運轉手機關手試驗規程

第一條 凡ソ此規程ニ從テ試驗ヲ願フ者ハ受験ノ當日ヨリ三日以前ニ其履歷書及ヒ性行善良ナルノ保證書ヲ添ヘ願書
ヲ試驗所へ出スヘシ

但シ願書用紙ハ試驗所ヨリ附與スヘシ

第二條 定時試驗ハ内國人ハ毎月第一第三水曜日外國人ハ毎月第二火曜日ヲ以テ東京試驗所ニ於テ之ヲ開クヘシ若シ
開カサル時ハ農商務省ヨリ其有十五日以前ニ廣告スヘシ 十六年第十九號布
達ヲ以テ全條改正

第三條 試驗願書ヲ出ストキ左ニ掲載セル試驗料ヲ前納スヘシ

甲種免狀

船長 七圓

一等運轉手 五圓

二等運轉手 三圓

一等機關手 七圓

二等機關手 五圓

乙種免狀

第十四類 勸業

船長	五圓
一等運轉手	三圓
二等運轉手	二圓
一等機關手	五圓
二等機關手	三圓
小形船機關手免狀	
小形船機關手	二圓

第四條 定日外タリトモ別段手数料トシテ金五圓ヲ納メ臨時試験ヲ願フトキハ東京ニ限リ司驗官ノ都合ニ因テ之ヲ許スコトアルヘシ

第五條 船長運轉手機關手免狀規則第八條ニ從ヒ甲種免狀ヲ請願スル者ハ本途試験料ノ半額ヲ納ムヘシ

第六條 甲種免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載セル各款ニ從ヒ履歴アルモノニシテ其試験問題ニ應答スヘシ

二等運轉手

二等運轉手ノ受験人ハ十九歳以上ニシテ少クトモ四ヶ年間西洋形航洋船ノ運航ニ從事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト見認ムル學校ニ於テ航海運用學卒業ノ上少クトモ三ヶ年間西洋形船ノ運航ニ從事セシモノトス

試験問題

○通常文書ノ記載

○加減乗除及對數ノ用方

○航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マテノ緯路航程ニ羅經ノ偏差、自差、風壓、流潮ヲ加減シテ本船所在ノ經緯度及ヒ直航距離、方位ヲ知ルノ算法

○起程已達兩所ノ經緯度ヲ以テ瑪氏航法及ヒ中分緯度航法ニ據リ緯路、航程ヲ知ルノ算法

○太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法

○太陽出沒方位ニ據リ羅經ノ誤指ヲ知ルノ算法

○六分儀ノ用方

○航海日誌ノ記載方

○器具ノ取付及ヒ取脱方

○揚帆、卸帆、縮帆ノ方法

○頭轉、逆轉及ヒ諸帆ヲ整頓スルノ方法

○船貨積載ノ方法

○測程線ノ尺度其用方及ヒ沙漏ノ時限

○大小測鉛ノ重量其線ノ尺度、符號及ヒ其用方

○英國信號法

○海上衝突豫防規則

○海員雇入雇止規則

壹等運轉手

壹等運轉手ノ受験人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ一ヶ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ二等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試験問題

○太陽方位角ニ據リ羅經ノ誤指ヲ知ルノ算法

○潮時ノ算法

○時辰儀ト太陽高度トニ據リ經度ヲ知ルノ算法

○岬角燈臺等ノ方位ヲ測リ或ハ經緯度ニ據リ海圖ニ本船所在ノ位置ヲ記シ又偏差、自差ヲ加減シテ緯路ヲ定メ航程ヲ

求ルノ方法

- 六分儀ノ動鏡、地平鏡等ノ位置ヲ正シ又太陽及ヒ地平線ニ據リ器差ヲ求ルノ方法
- 錨泊、放泊ノ方法
- 風潮ノ變化ニ際シ放泊船ヲ安全ニ處置スルノ方法
- 出入港運轉ノ方法
- 櫓ヲ立ルノ方法
- 重貨積載ノ方法
- 暴風ノ際船ヲ運轉シ或ハ不慮ノ災害ニ臨ミ之ヲ處置スルノ方法
- 日本海岸ノ地勢

船長

船長ノ受験人ハ二十三歳以上ニシテ少クトモ一ケ年間登壇噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試験問題 二等及一等運轉手ノ試験問題ヲ合セ

- 子午線ニ近キ太陽ノ高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 星象子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 地平儀ヲ用ヒテ測リタル太陽高度ノ改正
- 各種ノ方法ニ據リ本位羅針ノ自差ヲ定メ及ヒ那氏ノ式ニ從テ其圖ヲ製スルノ方法
- 難破ノ際人命ヲ救助スルノ方法
- 颶風ノ解明及ヒ之ヲ避ルノ方法

二等機關手

二等機關手ノ受験人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ四ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシ者又ハ同職官ノ允當ト認ムル海機製造所ニアリテ少クトモ三ケ年間海機及ヒ機關ノ製造又ハ修繕ニ從事シ且少クトモ一ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシモノトス

試験問題

- 通常文書ノ記載
- 加減乗除及ヒ比例法
- 機關室日誌ノ記載方
- 馬力ノ解明及ヒ算法
- 密筒ニテ排出スル水盤ヲ知ルノ算法
- 安全瓣ノ種類、効用及ヒ算法
- 漏罐及ヒ機關ノ檢査并處置
- 漏罐各種ノ解明及ヒ其固定法
- 機嘴ノ効用及ヒ諸管接合ノ方法
- 外輪及ヒ螺旋用高壓、低壓及ヒ聯成機關ノ解明及ヒ其運轉ノ方法
- 漏罐及ヒ機關ノ損所ヲ修繕スルノ方法
- 漏罐及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法
- 沸騰、凝結ヲ起スノ原因ヲ熟知シ及ヒ之ヲ回復スルノ方法
- 驗温器、驗氣器、驗濁器ノ効用及ヒ用法

一等機關手

一等機關手ノ受験人ハ二十三歳以上ニシテ少クトモ一ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ二等機關手ノ免狀

ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試験問題 二等機関手ノ試験問題ヲ合セ

○面積ノ求積及ヒ開平法

○深淺ノ強弱ヲ知ルノ算法

○膨脹力ノ効用及ヒ其算法

○指壓器ノ用方及ヒ之ニ據リ買馬力ヲ知ルノ算法

○螺旋ノ勾配及ヒ其角度ヲ求ムルノ算法

○製造ノ爲メ深淺及ヒ機關ニ於ケル局部ノ製圖

○加熱器ノ種類及ヒ其効用

○滑機及ヒ車軸ノ位置ヲ正シ之ヲ装置スルノ方法

○深淺及ヒ機關ニ於ケル肝要ナル部分ノ割合

第七條 七種免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載スル各款ニ從ヒ履歴アルモノニシテ其試験問題ニ應答スヘシ

二等運轉手

二等運轉手ノ受験人ハ二十歳以上ニシテ少クトモ六ケ年間海上ニアリテ船舶ノ運航ニ從事シ内少クトモ三ケ年間西洋形航洋船ニアリシモノトス

試験問題

○通常文書ノ解讀

○加減乗除

○羅針ノ解明

○揚帆卸帆及ヒ諸帆ヲ整頓スルノ方法

○船貨積載ノ方法

○測程線ノ尺度其用方及ヒ沙漏ノ時限

○大小測鉛ノ重量其線ノ尺度符號及其用方

○海上衝突豫防規則

○海員雇入雇止規則

一等運轉手

一等運轉手ノ受験人ハ二十歳以上ニシテ少クトモ七ケ年間海上ニアリテ船舶ノ運航ニ從事シ内少クトモ四ケ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリシモノトス

試験問題 二等運轉手ノ試験問題ヲ合セ

○航海日誌ノ記載方

○航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マテノ航路航程ニ羅針ノ偏差自差風壓流潮ヲ加減シテ本船所在ノ經緯度及ヒ直航距離方位ヲ知ルノ算法

○太陽出没方位ニ據リ羅針ノ照指ヲ知ルノ算法

○羅針ニ據リ仰角燈臺等ノ方位ヲ測リ又ハ經緯度ニ據リ海圖上ニ本船所在ノ位置ヲ記シ及ヒ偏差自差ヲ加減シテ航路ヲ定メ航程ヲ測ルノ方法

○順轉逆轉 縮帆及ヒ出入港運轉ノ方法

○重貨積載ノ方法

○萬國信號法

船長

船長ノ受験人ハ二十五歳以上ニシテ少クトモ二ケ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免狀ヲ受有

シ其取ヲ執リシモノトス

試験問題 二等及ヒ一等運轉手ノ試験問題ヲ合セ

- 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 時辰儀ト太陽高度ニ據リ經度ヲ知ルノ算法
- 六分儀ノ用法及ヒ動鏡地平鏡等ノ位置ヲ正シ太陽又ハ地平線ニ據リ器差ヲ求ムルノ方法
- 暴風ノ際船舶ヲ運轉シ及ヒ不慮ノ災害ニ臨ミ之レヲ處置スルノ方法
- 颶風ノ定則及ヒ之レヲ避ルノ方法
- 日本海岸ノ地勢

二等機關手

二等機關手ノ受験人ハ二十歳以上ニシテ少ナクトモ五ヶ年間船用機關運轉ニ従事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト認ムル海機製造所ニアリテ少クトモ三ヶ年間海機及ヒ機關ノ製造又ハ修繕ニ従事シ且二ヶ年以上船用機關運轉ニ従事セシモノトス

試験問題

- 通常文書ノ解讀
- 加減乗除
- 機關室日誌ノ記載方
- 海機及ヒ機關ノ検査并處置
- 運轉中海機及ヒ機關ニ於ケル注意
- 安全弁ノ種類効用及ヒ其重量ノ増減
- 海機及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法

○機油ノ効用及ヒ諸管接合ノ方法

○海機及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法

○沸溢燃熱ヲ生セントキ之ヲ回復スルノ方法

○驗温器驗氣器驗壓器ノ効用及ヒ用法

一等機關手

一等機關手ノ受験人ハ二十五歳以上ニシテ少クトモ二ヶ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ二等機關手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試験問題 二等機關手ノ試験問題ヲ合セ

- 馬力ノ解讀及ヒ算法
- 海機各種ノ解讀及ヒ安全弁ノ算法
- 外輪及ヒ螺旋用高壓低壓及ヒ聯成機關ノ解讀及ヒ其運轉ノ方法
- 膨脹力ノ解讀及ヒ算法
- 加熱器ノ効用及ヒ其種類
- 海機及ヒ機關中肝要ナル部分ノ割合

第八條 小形船機關手ノ免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載スル履歴アルモノニシテ其口上試験問題ニ應答スヘシ小形船機關手

小形船機關手ノ受験人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ三ヶ年間船用機關運轉ニ従事セシモノトス

試験問題

- 通常ノ讀書
- 海機及ヒ機關ノ検査并處置

○運轉中汽機及ヒ機關ニ於ケル注意
 ○安全瓣ノ効用及ヒ其錘量ノ増減
 ○汽機及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法
 ○汽機及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法
 ○沸溢及ヒ燃熱ヲ生セントキ之ヲ回復スルノ方法
 第九條 乙種免狀ヲクハ從前ノ假免狀ヲ受有シ既ニ一ヶ年以上其職ヲ執リシ者ハ甲種ニ於テ同等ノ試験ヲ出願スルヲ得ヘシ

第十條 甲種ニ從テ試験ニ於テ其紙上ノ答ヲ爲スノ時限ハ五時間ト定メ乙種ノ時限ハ三時間ト定ム若シ此時限ヲ過キテ其答ヲ筆ヲサレハ之ヲ落第者ト爲スヘシ
 第十一條 受験人ハ書籍及ヒ書籍類ヲ携帶シテ試験場ヘ入ルヲ許サズ
 第十二條 船長及ヒ運轉手ノ受験人ハ平生各自ノ熟知セル算式及ヒ航海表ヲ用ヒテ問題ニ答フルハ妨ケナシ故ニ自己ノ慣用セル表ニ限リ試験場ニ携帶シ得ヘシ
 第十三條 受験人若シ他ノ受験人ノ文案ヲ窺取シ或ハ助力ヲ授受シ其他如何ナル手段ニ據ルモ出場中他ノ受験人ト往復セシコト發覺スルニ於テハ之ヲ落第者トナスヘシ
 第十四條 紙上ノ問題ニ應答スルニ方リ其問題ノ總數三分一ヨリ以上ノ解答アルモノ又ハ問題中ノ算法ヲ解シ得サルモノハ落第者トナスヘシ然レトモ其計算問題ノ總數三分一ニ止ルトキハ之ヲ改正セシメ其正算ヲ得ルモノハ紙上ノ試験ニ於テ及第者トナスヘシ
 第十五條 受験人紙上ノ試験ニ落第スルコト三回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ三ヶ月以上ヲ經ルニ非サレハ再試ヲ許サズ又口上ノ試験ニ落第スルコト三回ニ及フトキハ其最後落第ノ日ヨリ六ヶ月以上實地修業セルノ確証アルニアラサレハ再試ヲ許サズ

第十六條 受験人紙上及ヒ口上ノ問題ニ正シク答ヘ畢ルトキハ司驗官ヨリ直ニ及第證書ヲ本人ニ附與シ其旨ヲ農商務省ヘ報告スヘシ

農商務省ニ於テハ其報告ニ據リ受験人及ヒ司驗官ノ氏名ヲ簿冊ニ登記シ應等ノ免狀ヲ授與スヘシ
 ○大坂府下海員試験所設置及試験日ヲ定ム 明治十五年十二月二十二日 第九號布達
 今般大坂府下へ海員試験所ヲ設置シ内國人ニ限リ毎月第二第四ノ火曜日ヲ以テ試験執行候條志願ノ者ハ明治十四年二月第一號布達西洋形船船長運轉手機關手試験規程ニ依リ全所へ願出ツヘシ
 但開場日限ノ儀ハ農商務省ヨリ廣告スヘシ
 右布達候事

沿革要領

明治九年六月第八十二號布告ヲ以テ西洋形船々長運轉手機關手免狀規則ヲ定ム○十四年十二月第七十五號布告ヲ以前規則改定ス

第百四十五 西洋形船海員雇入雇止規則

明治十二年二月十九日 第九號布告

西洋形船海員雇入雇止規則別冊ノ通相定來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事 第十三年布告ヲ以テ(西洋形商船)ヲ(西洋形船)ト改ム以下皆同シ

(別冊)

西洋形船海員雇入雇止規則

第一條 西洋形船(蒸氣船ハ拾噸以上風帆船ハ貳拾噸以上)ニ於テ海員ヲ雇入又ハ雇止ヲ爲ス時ハ總テ此規則ノ條款ニ準據スヘシ

第二條 雇入ノ時ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇入証書用紙ヲ以テ其定約書ヲ作り雇者被雇者記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受クヘシ十四年第四十三號布告ヲ以テ(内務省)ヲ(農商務省)ト改メ以下皆同シ

但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ浦役場ニ止メ置クヘシ

第三條 内海回漕船ニ於テハ雇入期限ヲ六ヶ月以内ト定ム然レモ外國航船ニ於テハ六ヶ月以外ヲ約スルヲ得ヘシ

第四條 雇止ノ時雇者ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇止証書用紙ヲ以テ雇止証書ヲ作り記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受ケ之ヲ其被雇者ニ付與スヘシ同

雇入又ハ雇止ノトキ技術免狀ヲ所持スルモノハ浦役人ノ檢査ニ供シ且其檢査証書ヲ申受ヘシ十六年第四十五號布告ヲ以テ本項以下三項ヲ追加ス

雇入又ハ雇止ノ公認ヲ受クルトキハ手数料トシテ被雇者給金一月分ノ百分一ニ當ル金額ヲ雇者被雇者ヨリ各其半額ツ、浦役場ニ納ムヘシ

雇入定約書及ヒ雇止証書ヲ亡失毀損シ其寫ヲ乞フ者ハ貳名以上ノ保證人ト連署シテ當初公認ヲ受ケタル浦役場ニ申出ヘシ浦役人ハ簿冊ニヨリ之ヲ製シ認印ヲ捺シテ交付スヘシ

第五條 雇止ハ雇入地ニ限り行フヘシ故ニ雇入地外ニ於テ滿期ニ至ルモ雇入地ニ歸着スル迄ハ雇入期限内ト見做スヲ得ヘシ
但雇者被雇者雙方ノ協意ヲ以テスルモノハ本條ノ限りニアラス

十四年第七十五號布告ヲ以テ西洋形船長運轉手帳關手免狀規則ヲ改定ス(第四百四十四)

第六條 左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ラス雇者ヨリ雇止ヲナスヲ得ヘシ

一 疾病又ハ體質痿弱ノ故ヲ以テ本務ヲ執行シ能ハサル者

一 本船難破其他ノ災厄ニ罹リ進航シ能ハサル時

但以上二項ノ場合ニ於テハ雇者ノ費用ヲ以テ雇入地へ歸還セシムヘシ

一 第十條ニ掲クル違約一ヶ月内三回以上ニ至ル者

一 第十一條ヲ犯ス者

第七條 又左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限内トニ拘ラス被雇者ヨリ其定約ヲ解クヲ得ヘシ

一 苛虐ノ取扱ヲ受ケシ時

一 飲食物又ハ給金ノ全額或ハ幾分ヲ給與セラレサル時

但右ノ場合ニ於テハ雇入地へ歸着ノ旅費ヲ請求スルヲ得ヘシ

第八條 外國ニ於テ雇入若クハ雇止ヲ爲ス時ハ其國駐留ノ我國領事館ニ於テ農商務省ヨリ發スル用紙ヲ以テ定約書若クハ雇止証書ヲ作り記名調印ノ上領事ノ公認ヲ受クヘシ同

但定約書ハ正副貳通ニ作り其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ領事館ニ止メ置クヘシ

第九條 新タニ海員トナル者及ヒ此規則施行以前雇止トナリシ者ヲ除クノ外被雇者ハ必ス最後ノ雇止証書ヲ所持スヘシ又雇者ハ最後ノ雇止証書ヲ所持セサル者ヲ雇入スヘカラス

第十條 船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スシテ上陸シ又ハ許可ノ時限ヲ過キテ歸船スル者

(第十一條ノ脱船者ニアラス)本務ヲ怠ル者喧嘩口論ヲナス者酩酊スル者私ニ銃器刀槍或ハ酒類ヲ船中ニ貯フ者ハ毎回其給金三日分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ雇主之ヲ收メ且其銃器刀槍或ハ酒類ヲ取上クルヲ得ヘシ

第十一條 船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ劫ス者脱船スル者(雇入期限内ニ逃亡スル者ヲ云フ)ハ其事情ニ因リ百日以内ノ懲役ニ處ス若シ船體船具ヲ毀傷シ又ハ載貨ヲ私用スル者ハ其實價ヲ償ハシムルノ外本條ニ依テ其罪ヲ科スヘシ

第十二條 海員ヲ虐使シ飲食物或ハ給金ノ全額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ百圓以内ノ罰金ヲ科シ其給與セサル金額ハ年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ

第十三條 此規則中第十條第十一條第十二條ヲ除キ其他ノ諸條款ヲ犯ス者ハ其事情ニ因リ五拾圓以内ノ罰金ヲ科スヘシ

○海員雇入雇止事務取扱手續ヲ定ム
明治十七年三月三十一日
農商務省第九號沿海府縣港務廳へ達

客歲十二月第四拾五號布告ヲ以明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則第四條へ三項追加相成候ニ就テハ右事務取扱手續左之通相定候條此旨相達候事

海員雇入雇止事務取扱手續

第一條 雇入ノ公認ヲ與ルニ際シ浦役人ハ左項ニ注意スヘシ

第一 船長運轉手機關手技術免狀ノ有無ヲ檢問スル

第二 被雇者ニ於テ最後ノ雇止證書ヲ所持スルヤ否ヲ推問スル

第三 被雇者ヲシテ雇入定約ノ旨趣ヲ了解シタルヤ否ヲ推問スル

第二條 浦役人ハ船長運轉手機關手技術免狀ヲ檢査シ真正ノモノト認ムルハ農商務省ヨリ發行シタル技術免狀檢査證書ニ該免狀ノ種類及船名定繫港名等ヲ記シ之ヲ交付スヘシ

第三條 浦役人ハ被雇者ヨリ最後雇止證書ヲ出サシメ其證書裏面へ何年月日何港ニ於テ更ニ何船へ雇入トナリタル旨ヲ記入シ且之レニ認印スヘシ但新ニ海員トナリ最後雇止證書所持セサルモノハ此限ニアラス

第四條 被雇者中定約ノ旨趣ヲ了解セサルモノアレハ浦役人ニ於テ或ハ之ヲ附聞セ或ハ解釋シテ充分了解セシムヘシ

第五條 新々ニ海員トナル者ニ雇入ノ公認ヲ與ヘタルハ其族籍氏名年齢ヲ本籍ノ戸長ニ照會シ從前海軍兵役ノ有無ヲ取調ヘ雇入證書ノ寫若クハ海員名簿ニ記入スヘシ
十七年第五號省達ヲ以テ本條ヲ追加シ第五條以下順次操下ル

第六條 雇入ノ片ハ勿論雇止ノ片ト雖モ其證書ノ寫ヲ浦役場ニ保存スヘシ且雇入雇止事務繁劇ノ場所ニ於テハ更ニ海員名簿ヲ備置雇者被雇者ノ住所氏名乘組船名等ヲ記入シ他日ノ参照ニ供スヘシ

第七條 雇止ノ公認ヲ爲スルハ前定約面ト相違ノ有無ヲ取札シ若シ當初雇入ノ定約面ト相違ノ廉有之片ハ船内日記簿其他ノ書類ニ據リ雇者ヨリ其事實ヲ證明セシメ海員名簿ニ其旨ヲ記入シ而シテ之カ公認ヲ與フヘシ

第八條 甲地浦役場ニ於テ雇入ノ公認ヲナシタルモノヲ乙地浦役場ニ於テ雇止ノ公認ヲ爲シタル時ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ甲地浦役場へ過クモ一ヶ月以内ニ之ヲ通報スヘシ此場合ニ於テハ甲乙兩浦役場ニ於テハ其雇入證書ノ寫若クハ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第九條 雇入雇止證書中被雇者年齢ハ必ス生年月日ヲ記入セシムヘシ

第十條 雇入雇止證書中書損アル片ハ必ス正誤セシメ浦役人之ニ認印スヘシ若シ書損甚シク字句不分明ナル片ハ更ニ新調セシムヘシ

第十一條 雇入期限内脱船又ハ死者アリシトテ届出タル時ハ雇入證書中事故摘要ノ部へ其事故ヲ記載シ尚ホ其證書ノ寫若クハ海員名簿ニ之ヲ記入スヘシ

第十二條 雇入證書ハ假令ヒ餘白アリト雖モ再度之レヲ使用スルヲ許サス故ニ其餘白ハ總テ斜線ヲ畫スヘシ

第十三條 雇入期限内雇者被雇者ヨリ雇止ノ公認ヲ請フモノアル時ハ規則ニ照シテ其事由ヲ查明シ之カ公認ヲ與フヘシ但シ正副雇入證書及ヒ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第十四條 雇入期限内ニ雇者變更スト雖モ更ニ雇入定約ヲ爲サシムルニ及ハス然レモ此場合ニ於テハ満期雇止ノ片雇者變更ノ事由ヲ正副雇入證書若クハ海員名簿ニ記入スヘシ

第十五條 海投免狀ヲ受有スル者ハ海員雇入雇止證書職務欄内ニ免狀ノ種類及現ニ服務ノ職名ヲ記シテ公認ヲ與フヘシ十八年第七號省達ヲ以テ本條ヲ追加ス

○海員雇入雇止證書用紙拂下方 明治十二年六月二十四日 内務省第三拾四號沿海府縣へ達

本年第九號ヲ以テ西洋形船海員雇入雇止規則公布相成候就テハ本則ニ依リ當省ヨリ發行スル雇入雇止證書用紙ハ各浦役場等ニ於テ左ノ定價ヲ以テ拂下可申候テ爲心得別紙離形相付シ此旨相達候事

但本文用紙拂下代金ノ儀ハ毎年三月九月(明治十八年度ニ)兩度ニ取纏メ明細書相添農商務省へ可相納事 十八年度二十一號達ヲ以テ但書ヲ改正ス

海員雇入證書用紙 定價金四錢
同 雇止證書用紙 同 金貳錢

(證書用紙離形略ス)

○海員雇入證書用紙發行拂下 明治十二年十一月二十一日 内務省第三拾四號沿海府縣へ達

本年六月當省第三十四號ヲ以テ西洋形船海員雇入雇止證書發行ノ儀相達候處尙ホ少數ノ人員雇入便宜ノ爲メ更ニ別紙離形ノ通リ雇入證書發行候條右用紙ハ各浦役場ニ於テ左ノ定價ヲ以テ拂下可申此旨相達候事

海員雇入證書用紙 定價金貳錢

(證書用紙離形略ス)

○海員雇入雇止證書用紙改正 明治十七年十一月十五日 農商務省第三拾三號滋賀岐阜及沿海府縣へ達

明治十二年内務省第三拾四號并第三拾五號沿海府縣へ達
此旨相達候事
但證書用紙ハ當分新舊交互スルコトヲ得
(別紙離形略ス)

第百四十六 船舶ヲ賣買シ又ハ書入質トナサントスル時ハ公證ヲ受シム

明治十年三月八日 第貳拾八號布告

人民所有ノ船舶ヲ賣買シ又ハ金穀等借用ノ爲メ書入質トナサントスル時ハ明治八年九月第百四拾八號布告諸建物書入質及賣買讓渡規則ニ準據シ賣主又ハ書入主ヨリ其船ノ圖面ト約定證書ニ本船管轄地戸長ノ公證ヲ受クヘシ若シ右ノ手續ヲ爲サ、ルニ於テハ其約定證文ハ裁判上尋常金穀貸借證書ト見做スヘシ

但從前書入質ト爲シタル分ハ當明治十年六月三十日迄ニ本文ノ手續ヲ以テ更ニ約定書改正可致尤航海中或ハ不得止事故アリテ右期日マテニ書換難致者ハ其旨豫メ本船管轄地戸長役所へ届置クヘシ
右布告候事

第百四十七 海上衝突豫防規則 明治十三年七月十六日 第三拾五號布告

十五年第六十號布告(第十
五ノ二項)及
十七年第五號
布告(同八項)
ヲ以テ既認及
勸解公證猶豫
方ヲ定ム
十八年內務省
甲第八號達ヲ
以テ戶長所有
ノ地所建物船
ノ公證取扱方
ヲ定ム(第十
五ノ七項)

明治七年一月第五號布告海上衝突豫防規則別冊ノ通改正シ來九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

海上衝突豫防規則

總則

第一條 此規則中蒸氣船ト雖ヒ帆ニテ走リ蒸氣ヲ用ヒサル時ハ帆前船ト看做シ蒸氣ヲ用フル時ハ帆ヲ用フルト用ヒサルトノ差別ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

燈火

第二條 各船日没ヨリ日出マテノ間ハ天氣ニ拘ラス第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ記載スル燈火ヲ掲クヘシ決シテ他ノ燈火ヲ用フヘカラス

第三條 蒸氣船ハ航海中必ス左ノ燈火ヲ掲クヘシ

(甲)前檣又ハ其前面ニ於テ船體上ニ二丈ヨリ低カラサル所ニ亮明ナル白燈一個ヲ掲クヘシ若シ船幅二丈ヲ超ル時ハ船體上其船幅ヨリ低カラサル所ニ之ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鏡盤ノ二十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ左右舷外ヘ十方位ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ五里(海里ニテ算ス以下之ニ做ヘ)ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(乙)右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鏡盤ノ十方位ヲ照

スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丙)左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鏡盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丁)右舷紅ノ燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ三尺出タル屏風様ノ隔板ヲ其燈火ノ内側ニ當テ、裝置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ見ヘス左舷燈ハ右舷ニ在ル船ヨリ見ヘサル様ニナスヘシ

第四條 蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ兩舷燈ノ外ニ亮明ノ白燈二個ヲ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ、縦ニ連掲シ獨走ノ蒸氣船ト區別スヘシ此燈火ハ獨走ノ蒸氣船ニ掲クル白燈ト同製ナルヲ用ヒテ同所ヘ掲クヘシ

第五條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク事變ノ爲ニ運用自由ヲ得サル時ハ夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ニ掲クル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ但此紅燈ハ晴天ノ暗夜ニ少ナクモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ又晝間ハ直徑二尺ノ黑球若クハ黑色形象三個ヲ前檣ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ

海底電信線ノ布置又ハ引揚ニ從事スル船ハ蒸氣船ト帆前船トノ差別ナク夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ノ白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ六尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連揚シ其燈火ハ上下ノ二個ヲ紅色トナシ中央ヲ白色トナシ其紅燈ハ白燈ト同一ノ距離ヲ照スヘキモノヲ用フヘシ又晝間ハ前檣ノ前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ直徑二尺ヨリ少カラザル形象三個ヲ六尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連揚シ其上下ノ二個ハ紅色球形ヲ用ヒ其中央ノ一個ハ白色縦菱形ヲ用フヘシ

本條ノ船全ク運行セサル時ハ舷燈ヲ掲クヘカラスト雖モ運行スレハ必ス之ヲ掲クヘシ本條ノ燈火及形象ヲ掲クル船ハ運用自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルヲ標スルモノト他船ニ於テ心得ヘシ但危難ニ罹リ救助ヲ要スル船ハ第二十七條ノ難船信號ヲ用フル者ト心得ヘシ十八年第二十七號布告ヲ以テ全條改正

第六條 帆前船ハ自ら走ルト他船ニ引カルトノ差別ナク白燈ヲ除クノ外第三條ニ記載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲クヘシ決シテ白燈ヲ掲クヘカラスト

第七條 小形船ニ於テ天氣ノ模様ニ依リ綠紅ノ二燈ヲ掲ケ置キ難キ時ハ綠燈ハ右舷ニ紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ標スヘキ様甲板上ニ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ各舷燈ヲ他船ヨリ最も見ヘ易キ様各舷ニ標スヘシ但此時綠燈ハ左舷ヨリ見ヘス紅燈ハ右舷ヨリ見ヘサル様注

意スヘシ

此綠紅ノ燈ヲ置違ヒ無ク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ノ燈籠ハ綠色紅燈ノ燈籠ハ紅色ニテ外面ヲ塗リ且成規ノ隔板ヲ之ニ備置クヘシ

第八條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最も見ヘ易クシテ船體上ヨリ二丈ヲ超ヘサル所ニ白燈一個ヲ掲クヘシ○此燈火ハ直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最も亮明ノ光ヲ發シ少クモ周圍一里ノ距離ヨリ見ユル様ニ爲スヘシ

第九條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ掲ケス唯檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲クヘシ第十條 甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小船航行中ハ必スシモ他船ニ用フル舷燈ヲ掲クルニ及ハス然レモ舷燈ノ代ニ一面ハ綠色ノ硝子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠一個ヲ手近ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ但此時ニ綠光ハ左舷ヨリ見ヘス紅光ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

右漁船及ヒ小船碇泊シタルカ或ハ網ヲ卸シタル時ハ亮明ナル白燈一個ヲ標スヘシ且便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發シ又晝夜ニ拘ハラズ霧中號角ヲ用フルモ若シカラス同上布告ヲ以テ閃光ヲノ下發ス

ルモ苦シカラストアルヲ(發シ又晝夜)云々ノ二十四字ニ改ム
第十一條 他船ニ追越サレントスル船ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ標シ又ハ閃光ヲ發スヘシ

霧中信號

第十二條 蒸氣船ハ汽笛ヲ音響ノ妨碍物ナキ所ニ裝置シ且輔其他ノ機械ヲ以テ發聲スヘキ霧中號角或ハ尋常ノ霧中號角及ヒ號鐘ヲ備フヘク帆前船ハ全操ノ號角及ヒ號鐘ヲ備フヘシ但此汽笛號角及ヒ號鐘ハ善ク其用ニ適セサルヘカラスト(同上)布告ヲ以テ(且)ノ下霧中號角霧中又ハ降雪中ハ晝夜ノ差別ナク本條ニ記載セル信號ヲ左ノ如ク用フヘシ
(甲)蒸氣船航行中ハ汽笛ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ
(乙)帆前船航行中ハ號角ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタル時ハ三聲ヲ連發スヘシ
(丙)帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク航行中ニ非サレハ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ號鐘ヲ鳴スヘシ

霧中速力

第十三條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク霧中及ヒ降雪中ハ程好キ速力ヲ以テ走ルヘシ

航法

第十四條 二艘ノ帆前船互ニ近寄りテ衝突ノ懼アル時ハ一方ノ船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

ヲ避クヘシ

- (甲)一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ
- (乙)一舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ
- (丙)一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同カラサル時ハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ
- (丁)一杯ニ開カサル二艘ノ船風ヲ受クル舷方同シキ時ハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ
- (戊)船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十五條 二艘ノ蒸氣船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢フテ衝突ノ懼アル時ハ兩船共鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢フテ衝突ノ懼アル時ニ限り應用スヘク各其鐵路ヲ保チテ必ス替リ行ク時ニ應用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ至當ノ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢ヒタル時即チ晝間ハ我船ノ櫓ト他船ノ櫓ト一直線又ハ殆ト一直線ニ見ユル時夜間ハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ一時ニ見ル時ニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我鐵路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル時又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スル時又ハ我船ノ前面ニ綠燈ナクシテ紅燈

ヲ見或ハ紅燈ナクシテ綠燈ヲ見ル時又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ル時ハ應用スヘカラス

第十六條 二艘ノ蒸氣船互ニ航路ヲ横切り衝突ノ懼アル時ハ我右舷ニ他船ヲ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十七條 帆前船ト蒸氣船ト互ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ蒸氣船ヨリ帆前船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 總テ蒸氣船他船ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ速力ヲ緩ニシ又ハ時宜ニ依リ停止シ且後退スヘシ

第十九條 蒸氣船此規則ニ遵テ鐵路ヲ取ル時ハ左ノ汽笛信號ヲ以テ他船ニ其鐵路ヲ通知スルヲ得ヘシ

短聲一發 我船ノ鐵路ヲ右舷ニ取ル
短聲二發 我船ノ鐵路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船一杯ノ速力ニテ退却ス

此信號ヲ用フルト否ラサルトハ隨意タルヘシ但此信號ヲ用ヒタル時之ヲ用ヒタル船ハ必ス其信號通りニ其鐵路ヲ取ラサルヘカラス

第二十條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク他船ヲ追越サントスル時ハ以上ノ規則ニ拘ラス總テ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條 總テ蒸氣船狹隘ノ水路ヲ通航スルニ當リ無難ニ通行シ得ル時ハ其航路ノ中流ヨリ其船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十二條 以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クル時ハ他船ニ於テ其鐵路ヲ保守スヘシ

第二十三條 此規則ヲ遵守スルニ就テハ航海上百般ノ危險ニ心ヲ配リ且危險切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合ニ於テハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避クルニ注意スヘシ

懈怠ノ責

第二十四條 此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ノ怠リ又ハ海員ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事件ニ於テハ船主、船長、乗組人員、各其實ヲ免ル可カラサルモノトス

別則

第二十五條 此規則ハ各地方官ニ於テ特ニ制定シタル港川其他内海ノ航行規則ノ施行ニ干涉セサルモノトス同上布告ヲ以テ各地方官ト改ム

第二十六條 此規則ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船ニ増掲スル列位燈火及ヒ信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ニ干涉セサルモノトス

難船信號

第二十七條 危難ニ罹リ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船ハ左ノ信號ヲ用ヒ同時又ハ別々

ニ施行スヘシ

晝間信號

- (一) 凡一分時毎ニ一砲發ヲナスコト
- (二) 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ難船信號ヲ標スルコト
- (三) 方形旗ノ上又ハ下ニ球若クハ之ニ類似スル物ヲ掲クル遠隔信號ヲ標スルコト

夜間信號

- (一) 凡一分時毎ニ一砲發ヲナスコト
- (二) 船上ノ發焰燃焼スルノ類ヲ燃焼スルノ類桶油燈等
- (三) 各色各種ノ星火ヲ發射スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツ、數分時毎ニ打揚クルコト

附則

西班牙國フィニステル岬以北ノ歐洲沿海ノ漁船及小船ニノミ左ノ規則適用ニ付該地方航行ノ諸船ニ於テ之ヲ心得ヘシ

- (甲) 登簿噸數二十噸以上ノ漁船航行シ及次ノ各項ニ記載シタル燈火ヲ掲クルヲ要セサル時ハ他ノ航行船ト同様ノ燈火ヲ掲クヘシ
- (乙) 流網ヲ用ヒ漁獵ニ從事スル船ハ其船ノ最モ見エ易キ場所ニ於テ二個ノ白燈ヲ掲ケ其燈火ノ縱距離ハ六尺以上十尺以下ヲ隔テ又橫距離ハ其船ノ龍骨ト平行線ニ量リ五尺以上十尺以下ヲ隔ツヘシ但此二個ノ白燈ハ下ニ掲クルモノヲ上ニ掲クルモノヨリ前方ニ

置キ且晴天ノ暗夜ニ周回諸方三里以上ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丙) 釣絲ヲ垂レ釣魚ニ從事スル船ハ流網ヲ以テ漁獵ニ從事スル船ト同一ノ燈火ヲ掲クヘシ

(丁) 漁獵ニ從事スル船其屬具ノ岩礁其他障礙物ニ固著セル爲メ其所ニ駐留スル時ハ碇泊船ト同様ノ燈火及霧中信號ヲ用フヘシ

(戊) 漁船及甲板ナキ小船ハ何時ニテモ本條ニ依リテ掲クヘキ燈火ノ外ニ閃光ヲ發スルハ若シカラズ曳網爬網其他曳網ノ類ヲ用ヒ漁獵ニ從事スル船ニ於テ閃光ヲ發スル時ハ總テ其船ノ後部ニ於テスヘシ但曳網爬網其他曳網ノ類ヲ船尾ニ繫キタル時之ヲ船首ニ於テ發スルハ此限ニ在ラス

(己) 漁船及甲板ナキ小船碇泊中ハ日没ヨリ日出マテノ間少クモ周回諸方一里ノ距離ヨリ見ユヘキ白燈ヲ掲クヘシ

(庚) 霧中又ハ降雪中ニハ網ニ繫キタル流網船及曳網爬網其他曳網ノ類ヲ用ヒ漁獵ニ從事スル船及釣絲ヲ垂レ釣魚ニ從事スル船ハ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ霧中號角ト號鐘トヲ迭ヒニ鳴ラスヘシ同上布告ヲ以テ本條ヲ追加ス

罰則十四年第三十三號布告追加

第二十八條 凡船舶合格ノ燈籠及信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス